年4回発行　平成8年7月発行

KOHOKU 街づくり通信 NEW TOWN

港北ニュータウンのセンター街づくり情報紙

'96 SUMMER 創刊号 VOL.1



特　集

タウンセンターから発信する

港北NTの未来。

いよいよ動き出した、街づくりへの鼓動

DATA すくらんぶる

数字で読む港北ニュータウン

WHO'S WHO

(株) ティー・エム・ディー

越智武臣さん

PIONEER WATCHING

北山田駅前センターの街づくり協定

タウンセンターのビルトアップ状況

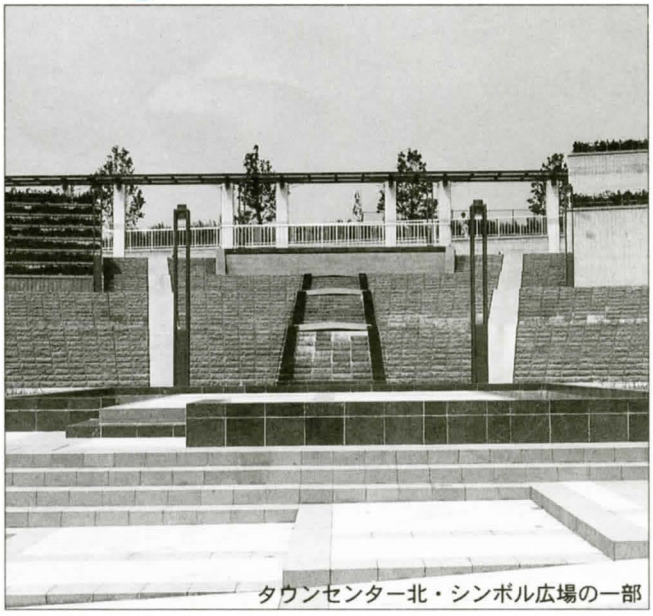
THE NEWS

センター南に横浜市最大規模の総合病院！

東京ガス『アースポート』オープン。

創刊のごあいさつ

タウンセンター南・都筑区総合庁舎



タウンセンター北・シンボル広場の一部



【創刊記念特別付録】

港北ニュータウンマップ

中川駅前センター

センターの街づくりにとって大切なことは何か、将来を見据えた街づくりとは……。『街づくり通信』は、港北ニュータウンのセンター街づくり情報紙。タウンセンターをはじめ、4つの駅前センター、6つの近隣センターのより良い、魅力ある街づくりがテーマです。街づくりを考える皆様の身近な情報紙としてお役立てください。

4年間にわたり、駅前・近隣センターの地権者の皆様にお届けしてまいりました駅前・近隣センターの情報紙『パートナー』はVOL.16をもって停刊とさせていただきました。

ご愛読ありがとうございました。

KOHOKU.NT. DATA

人口/約76,000人・世帯数/約26,200世帯

平成8年6月30日現在（区画整理地区内）

発　行　：財団法人　港北ニュータウン生活対策協会

編集協力：横浜市都市計画局／住宅・都市整備公団港北開発局

Special Issue
特　集

タウンセンターから発信する
港北NTの未来
—タウンセンタービルトアップ状況—

タウンセンターは、総面積73haの開発規模と、高度な都市基盤を誇る多機能複合都市。港北ＮＴ内に限らず、より広い地域を対象とする商業、業務、サービス、文化などを集積する副都心として計画されているというのはご承知の通り。しかし、実際にどのような都市が出現するのかは、パンフレットのイメージ写真でしか知ることができなかった。が、昨年あたりからの建設ラッシュや、新聞紙上を賑わす計画発表によって、徐々に具体的な姿が見えはじめている。

港北ＮＴ全体の未来にとっても大きな影響力を持つタウンセンター。その最新ビルトアップ状況を見てみよう。



▲横浜市の都心・副都心構想
横浜市は総合計画『ゆめはま2010プラン』に基づいた、副都心開発計画を進行中。横浜都心、新横浜都心と並ぶ中核都市として５つの副都心を形成する構想で、港北ニュータウンセンターはそのひとつとなっている。

■区総合庁舎

平成７年４月にオープンした『都筑区総合庁舎』は、新しい区の中心として、区役所機能のほかに図書館や公会堂、消防署等を備えている。特に図書館は人気が高く、オープン当初から、いきなり横浜市の図書館の利用率NO.１を記録したほど。また、市民の交流の場ともなっている。

■文化施設

平成６年４月にオープンした『港北ニュータウンまちづくり館』は、港北ＮＴ事業の歴史や計画を知ることのできる施設。(財)港北ニュータウン生活対策協会も、ここに事務所を構えている。また、平成7年１月には『横浜市歴史博物館』がオープン。港北ＮＴや横浜の歴史を知る重要な施設にふさわしいシンボリックな外観が、タウンセンターの景観に文化的な彩りを生み出している。その野外施設である『大塚・歳勝土遺跡公園』も一部オープンしており、21世紀の副都心・港北ＮＴが持つもうひとつの顔、奥深い歴史の香りを感じさせてくれる場として人気を集めている。

■市民のスペース

センター南・北の両駅前では駅前広場やシンボル道路等が完成し、殺風景だった駅前の雰囲気がガラリと変わった。また、センター北のシンボル広場の一部である大階段も完成し、階段下にある“水のステージ”で行われるイベントを見るには絶好の観客席となりそうだ。

■中核病院

待ち望まれていた総合病院の建設は、横浜市と昭和大学の間で基本計画がまとまり、いよいよ建設へ向けての具体的な計画が始まった。完成すれば、横浜市でも最大規模の病院となる。

■業務・商業施設

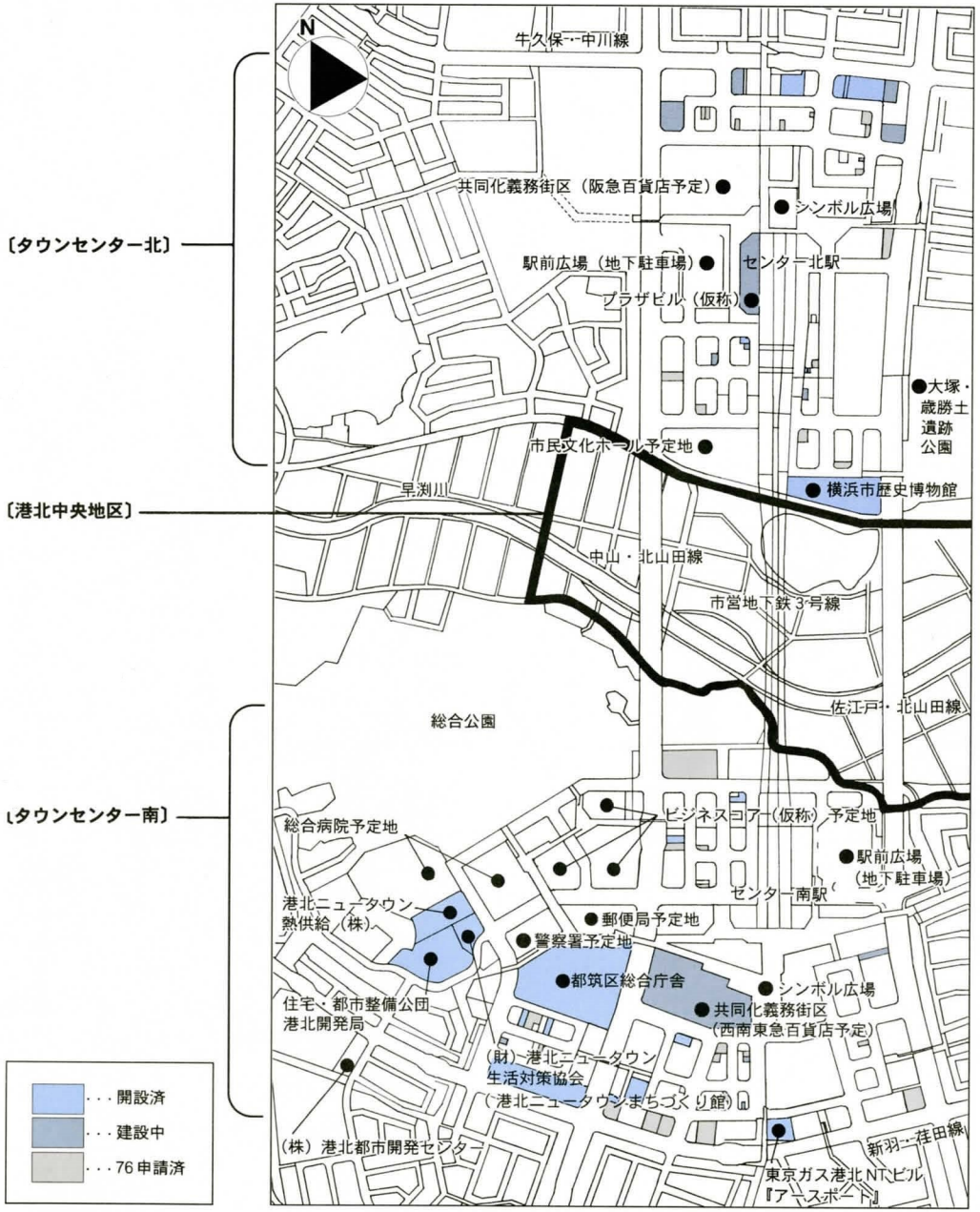
センター南では、平成10年完成予定の西南東急百貨店を核とする大型ショッピングセンター『スペシャルタウン109』(仮称)が建設中。センター北でも、阪急百貨店を核とするショッピングセンターの計画が平成11年度の完成をめどに進行中だ。両者は、ともに延床面積10万㎡という大規模商業施設で、地域はもとより広範囲からの集客が見込まれるだけに、タウンセンターの賑わいを形成する核施設として、大きな期待が寄せられている。また、『プラザビル』(仮称)も公団の建設で平成10年完成予定。

すでにこの春オープンし賑わいを見せているのは、センター南駅から徒歩５分のスーパー『オリンピック』。このほか、タウンセンターでは、建設中のオフィスビルや商業施設が続々登場している。

■港北中央地区

タウンセンターにはさまれた港北中央地区、約23.7haの土地区画整理事業も、平成８年２月29日に事業認可され、本格的なスタートを切った。これにより、南北タウンセンターは一体化され、都市機能もより充実することになる。

タウンセンターのビルトアップ状況　(平成８年７月現在)



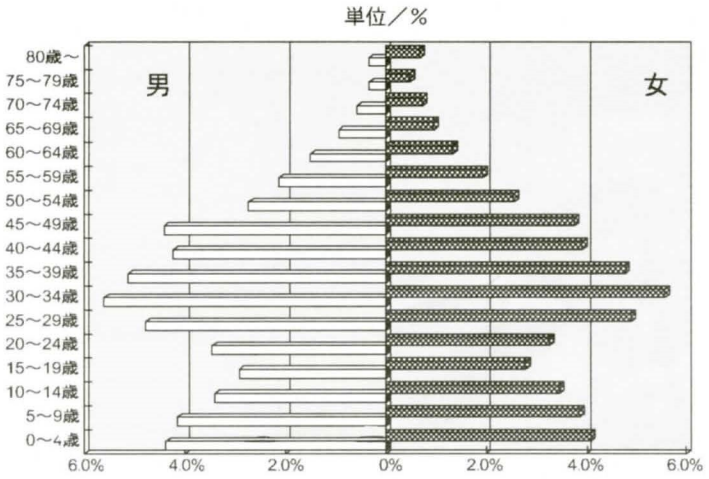
DATA SCRAMBLE

数字で読む港北ニュータウン　データすくらんぶる

さまざまな施設の建設・完成にともない、人口増加がますます進む港北ニュータウン。現在、人口は７.６万人を突破しており、今年に入ってからは、市営地下鉄乗降客数も飛躍的に伸びている。公共公益施設も続々と建設中。数字で読む港北ニュータウンは、こんなにも面白い！

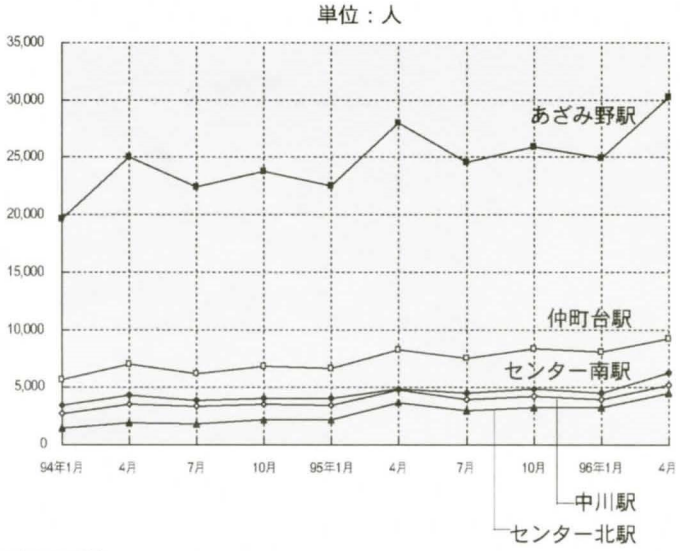
■港北ニュータウンの年齢別人口構成

（平成８年３月末日現在）



■市営地下鉄３号線　各駅１日当たりの乗車人員

（平成８年４月末日現在）



■港北ニュータウンセンターの街づくり　（平成８年３月末日現在）

	センター名称	宅地面積 (ha)	共用開始時期	街づくり協定	街づくり協定内容等
第一地区	タウンセンター北	15.5	H5.4.1	H6.8	多機能複合に基づく広域拠点の形成
	中川駅前センター	5.1	H2.2.1	H2.2.14	街づくりテーマ[ネオロマンチック]
	北山田駅前センター	4.2	H8.3.31	H8.3.25	街づくりテーマ[オアシスタウン] デザインテーマ[南欧スタイル]
	東山田近隣センター	1.2	H6.7.1	H6.6.22	街づくり申し合わせ
	牛久保近隣センター	1.1	H7.8.1	——	
第二地区	タウンセンター南	27.2	H5.9.6	H6.8	多機能複合に基づく広域拠点の形成
	仲町台駅前センター	6.7	H5.3.31	H5.3.19	街づくりテーマ[自然と人間] デザインテーマ[ネオクラシック]
	川和駅前センター	5.1	S61.5.1	H4.2.14	街づくり協定(案)
	佐江戸近隣センター	0.5	S63.3.31	H5.5.17	街づくり申し合わせ
	新吉田近隣センター	1.0	H6.7.1	H6.6.22	街づくり申し合わせ
	茅ヶ崎センター	3.6	H8.1.16	H7.6.21	街づくりテーマ[マーケットタウン] デザインテーマ[アーリーモダン]
	荏田近隣センター	1.0	S57.10.1	S58	街づくり申し合わせ

そこに、希望の光をともしたい。
これは東急という枠を超えた、
ひとつの大きな挑戦（トライ）なのだから。

『スペシャルタウン109』(仮称)は、港北ＮＴ・タウンセンター第二地区共同化義務街区に現在建設中の、西南東急百貨店をキーテナントとするショッピングセンター。敷地は約1万5千㎡。総延床面積は約10万㎡という巨大施設だ。駐車場も施設内に約1,100台、周辺を合わせると約2,000台分を確保しており、広範囲の商圏をターゲットとする展開が予想される。その開発及び管理運営を手掛けるのが株式会社ティー・エム・ディー。「規模といい内容といい、とにかく強烈ですよ」という常務取締役・越智武臣さんに、事業構想や思い入れについて語っていただいた。

ブランドロイヤリティの高さは、超一流。とにかく楽しい施設になりますよ。

『スペシャルタウン109』は、首都圏では初めての本格的ＲＳＣ(郊外型ショッピング・センター)です。規模もそうですが、内容も他ではちょっと例のないものになると思いますよ。

たとえば、大きな特徴として言えるのは、ブランドロイヤリティの高さでしょうね。約80あまりの専門店は、どれも超一流ぞろい。また、パワーカテゴリーゾーンと称するスペースでは、300～500坪の大型専門店にも複数入っていただきます。

アミューズメントにしても、ゲームセンターなんかやりたくない。もっと大人の感性に耐え得る、テーマパークのようなものをイメージしています。本格的な映画館も７館予定しているんですよ。とにかく、楽しめる施設になるでしょう。

現在のところ、センター南駅の周辺には、最近、オリンピックができましたが、あとはロードサイド店がバラバラとあるだけ。これだと、消費者の皆さんは、あちこちまわらなければならないですよね。そこで、今回の事業の原点は、ロードサイド店のあらゆる業種に集めてしまおうということでした。

しかし、地権者の皆さんや横浜市の皆さんと話を詰めていく過程で、だんだん理想が高くなってきた。港北ＮＴには昔から興味を持っていましたが、その都市としての可能性を再認識したから、と言えるかもしれません。

もっと生産性のある話がしたい。そのためには、リスクだってしょいましょう。

ロードサイド店にしても専門店にしても、昔より競争が激しいし、寿命も長いものじゃなくなっていますよね。だからまず、時代を見据えて柔軟に活性化していける、一流企業の皆さんに集まっていただきたい。しかもそれをバランスよく構成し、ワンストップショッピングが可能な時間消費型の施設を目指そうと考えたわけです。

私の仕事は、このような一流企業、一流専門店の方々、そして地権者の方々や地域の方々に、私たちの理想とする事業に対してご賛同いただけるようにすることだと思っています。

WHO'S WHO

株式会社ティー・エム・ディ 常務取締役

越智武臣さん

プロフィール

1943年10月31日生まれ。大学卒業後、東急百貨店入社。渋谷109等の開発を手掛ける。(株)ティー・エム・ディには設立当初からたずさわり現在に至る。商業施設関連のディベロップメントを担当。横浜市青葉区在住。



確かに、こういう時代ですし、リスクを考えれば企業の皆さんも地権者の皆さんも、安易に事業展開をしづらいという面もあるでしょう。でも、私はもっと生産的な話をしたい。どうすれば効率の良い事業展開ができるか、どうすれば効率の良い土地活用ができるのかというね。じゃあ、何が一番効率の良いことかというと、人が一番求めているものをつくることだと思うんです。

バブルがはじけてがっくりして、どうしていいかわからないという話が多いですが、少なくとも、そこに希望の光をともしたい。もちろん、それには情熱や経験も必要でしょう。リスクもしょわなければならない。が、東急は、経験もあるまじめな企業ですよ。もちろん、うちがしょえるリスクはしょいましょう、とういうことで、ご賛同をいただいていきたいと思っています。

港北ＮＴのことを知っているか、知らないか。これからの企業にとって、その違いは大きい。

オープンは平成10年の春。周辺の開発はまだまだこれからだし、その状況に合わせて段階的な事業展開をするだろうと思っておられる方もいらっしゃるようです。でも、私共は、初年度から、開業時から、完成された施設として展開していくのが、消費者の皆さんへの責任だと思っています。また、それぐらいの気概と現実の態勢を整えなければ、皆さんにも来ていただけないですよ。第一、10年、20年先なんて誰が責任とってくれるの？と言いたい。

そして、もちろん成功させますよ。成功しないわけがない(笑)。その自信はどこからきているのかと言うと、私は港北ＮＴのことをよく知っているからなんですよ。計画人口30万の“第４の山の手”と言われる都市で、首都圏ではまれに見るインフラ整備がされている。今は郊外でも、やがて確実に副都心となる。港北ＮＴへの進出を迷っている企業があるとすれば、彼らはそれを“知らない”。それだけだと思うんです。

ただ、確かにＰＲは足りませんよね。もっとメジャーにしたいじゃありませんか。そういう意味でも、私たちの施設が、大きな役割を果たせればと思っています。

PIONEER WATCHING

北山田駅前センターの街づくり協定決定。

～いよいよ動き出した、街づくりへの鼓動～

市営地下鉄３号線とならぶ港北ＮＴの交通計画の中心として、１日も早い整備が待たれている横浜環状鉄道（日吉～中山間）。その計画もようやく免許申請にまでこぎつけ、沿線の北山田駅前センターでは、本格的な街づくりがスタートしようとしている。市営地下鉄３号線の開通とほぼ同時に街づくりを開始した南北のタウンセンター、中川駅前センター、仲町台駅前センターと違い、北山田駅前センターの場合は鉄道開通に先駆けての街づくり。しかし、地域の核施設のひとつである横浜市室内水泳競技場の建設もすでに開始されており、平成10年の『かながわ・ゆめ国体（夏季大会）』開催へ向けての準備も着々と進行中。どのような街づくりが行われるのか、大きな期待がかけられている。

街づくりテーマ『オアシスタウン』
デザインテーマ『南欧スタイル』

街づくりテーマは『オアシスタウン』。地域のシンボルである山田富士や、その周辺に広がる豊かな自然と共生する、活気と賑わいのある街づくりを目指している。また、デザインテーマは『南欧スタイル』。緑を背景にした美しい街並みを形成し、季節や生活そのものを楽しめる、明るく親しみやすいセンターとしての環境形成を目指している。

協定では、この２つのテーマに沿って、街並みを特性別に分けた４つのガイドラインを設け、特徴のある“界隈”の創出を目指している。



▲センター商業景観イメージ

協定ではさらに、建築物の素材や色彩、デザインについてもガイドラインを設けている。

それによれば、全体的には白や明るい茶系を基調とする明るく落ち着いた色調で、素材も土や瓦材、大理石や素焼きなど、自然素材を思わせるものを使用。デザインも、いわゆる三角屋根にアーチ状の窓や出入り口といった、まさに南ヨーロッパの風景を思わせる街並みが形成されることになる。



▲ロードサイド商業景観イメージ

４つのガイドライン

◆センター景観
駅前広場に面する街区は、駅前にふさわしい象徴性を持つ街並みを形成。

◆ストリート商業景観
主要な歩行者専用道路に面する街区は、商店街にふさわしい賑わい性の高い街並みを形成。

◆ロードサイド景観
幹線道路に面する街区は、車道沿いにふさわしい商業性を持つ街並みを形成。

◆緑地景観
緑道に面する街区は、緑道沿いにふさわしい環境を持つ街並みを形成。

１日も早い鉄道開通と、
共同化推進に、期待したい。

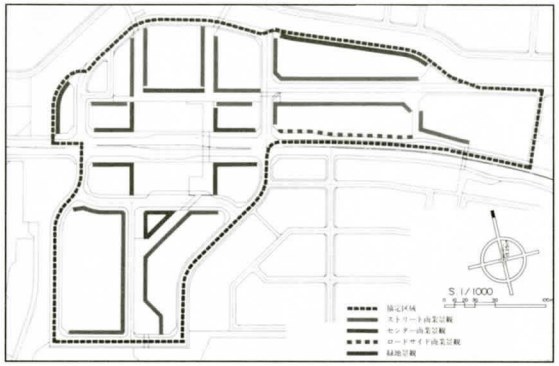
横浜市室内水泳競技場については、平成10年春の完成を目指して急ピッチで工事を進行中。横浜環状鉄道についても、来年度には免許取得および事業着手予定で、平成10年には工事着手、さらにその5～6年後には開通が見込まれている。それに合わせるかのように、日吉・元石川線沿いではビル建設のラッシュが続き、周辺人口も目に見えて増加している。

しかし、実際のところ、この２つの大規模工事計画を前に、駅前センターの具体的な街づくりは、いまだ水面下にある。





▲ストリート商業景観イメージ



◀ 街づくり協定区域図

そこには、鉄道開通の後に建設ラッシュを迎えた他の駅前センターやタウンセンターと違い、鉄道開通より何年も前に街づくりを始めなければならない北山田駅前センターならではの、さまざまな事情や思い、考え方があるに違いない。

ただ、協定でも語られている通り、やはりここでも重要になってくるのは地権者による共同化の推進だ。他の駅前センターよりも長い年月をかけてやっとたどり着いた道のりだけに、より一層練り込まれた共同事業の展開に、期待したい。

INTERVIEW

すべてをプラス志向に転換し、
港北ＮＴでも最高の駅前センターにしたい。

北山田駅前センター街づくり協定運営委員会
委員長　男全富男　さん

ここまでは、本当に長い道のりでしたね。基盤整備や横浜環状鉄道の計画の遅れなど、予定通りには進まない開発計画。一方では市営地下鉄３号線の開通にともない、その沿線がどんどん発展していく。時代の流れにどんどん流されていくようで、あせる気持ちを持てあました時期もありました。しかし、今、私のもとには、数多くの業者が名刺を持って次々とやってくる。なんだか不思議な感慨がありますよ。

ただ正直言って、これは気をつけなければいけないぞ、と思っているんです。確かに地権者にとって、固定資産税は頭の痛い問題。当然、１日も早く土地活用をと願っていますが、街の将来を思えば、今こそ慎重になるべきだと思うのです。

また、私たちはもうひとつ、慎重に対応しなければならない問題を抱えています。市の教育委員会から、横浜市室内水泳競技場の建設のため、隣接するセンターの敷地の一部を駐車場として借用したいという、要請があったのです。私たちとしても、競技場建設を『かながわ・ゆめ国体』の開催に間に合わせたいという行政の意向には、喜んで協力したい。が、そうなれば、完成までの２年間、そこでの事業を見合わせざるをえません。しかも、競技場が完成しても、今度は横浜環状鉄道の工事が始まる。その予定地では、さらに4～5年も事業が遅れてしまうかもしれないのです。しかし、私個人としては、こうした問題も、必ずプラスへと転換していけると思っているんですよね。たとえば、その間に、まだ未定の鉄道開通時期も決まるだろうし、周辺の発展状況を見据えながら事業計画をつくれる。急がば回れのたとえ通りだと思うのです。北山田駅前センターは、山田富士をはじめ、広大で豊かな緑地に囲まれた場所。また、都筑インターから車でわずか５分という便利さで、鉄道が開通すればさらに便利になります。必ずや、港北ＮＴの中でも、最高の駅前センターになるでしょう。すでに共同化を決めた街区もありますが、北山田の地権者ならではの強い絆によって、これからも共同化を推進し、じっくりと街づくりを考えていきたい。そして、北山田の駅に降り立つとホッとすると言われる街にしたいと思います。



THE NEWS

横浜市最大規模の総合病院が、センター南に誕生予定！

市営地下鉄のセンター南駅から徒歩約5分ほど。都筑区役所のすぐそばに、昭和大学が運営する横浜市北部病院（仮称）が開設されることとなった。

この計画は、平成５年２月から横浜市、昭和大学、地元医師会との間で進められてきたもの。基本計画では、病床数は約650床。完成すれば、昭和大学藤が丘病院や横浜市民病院などと並ぶ、市内でも最大規模となる。

この病院の大きな特徴は、がん、心疾患、脳血管疾患という、いわゆる３大疾病に対応するとともに、末期がんなどの患者の終末期医療のための『緩和ケア病棟』や『老人性痴呆疾患治療病棟』が設けられること。また、救急医療は24時間365日応需体制をとることとしている。

横浜市では、300床以上の規模の病院は、中区、西区に集中しており、特に港北ＮＴを抱える北部地域では、大型の病院建設が望まれていた。

近々昭和大学が基本設計に着手する予定で、１日も早い開設が待たれる。

東京ガスのまるごと省エネビル『アースポート』オープン。



▲東京ガス港北NTビル『アースポート』

去る５月１日、センター南に東京ガス港北NTビル『アースポート』がオープンした。４階建て、延床面積5,600㎡の建物は、東京ガスの考える省資源・省エネルギー・リサイクルの理想をさまざまな形で盛り込んだ設計。

たとえば、自然の光や風を多く取り入れることでオフィス照明用のエネルギーを約50％、空調用は約30％も削減。さらに、ガスエンジンによる発電の際の廃熱を冷暖房や給湯に利用するなど、さまざまな省エネの結果、地球温暖化の原因と言われる二酸化炭素の排出量を25％削減している。また、リサイクルに関しても、雨水をトイレ用に利用したり、生ゴミを堆肥化したり、ビルの建設資材にもリサイクル材を採用するといった徹底ぶり。

ゆるやかなカーブを描くガラス張りの外観もユニーク。２階のショールームは一般にも開放されている。

ぜひ一度は訪れてみたい施設だ。

街づくり通信
VOL.1　創刊号

平成８年７月発行

街づくり通信編集室

〒224
横浜市都筑区荏田東４丁目10番３号
TEL：045 (942) 8745　FAX：045 (942) 8972

編・集・後・記

港北ＮＴすべてのセンターの街づくり情報をお届けする『街づくり通信』。創刊にあたって編集室では、数十時間にもわたる企画会議・編集会議を行いました。その中で、もっとも大きなテーマのひとつとなったのは港北ＮＴそのものについて、もっと内外にＰＲしなければ･･･ということ。そこで創刊号では、港北ＮＴの概要と現況をまとめたＭＡＰを創刊号記念付録にしました。どうぞお役立てください。また、『街づくり通信』に関するご意見、ご要望、ご感想等、お気軽にお寄せください。お待ちしています。

街づくり通信編集室　一同

創刊のごあいさつ

港北ニュータウン事業も、その緒について四半世紀が過ぎ、この秋には換地処分を迎えます。この間、地権者の皆さんと街づくりをしてきましたが、少しでもお役に立つようにと、平成４年４月から『港北ニュータウン駅前・近隣センターの街づくり情報誌　パートナー』を発行してきました。　たくさんの方々の様々なご支援を得て、平成８年４月に16号までお届けすることができました。ご愛読いただき、数々のご意見を賜り、本当にありがとうございました。

換地処分を迎えるということは、港北ニュータウンにとって、大きな節目となります。これから本格的な街づくりに入っていきます。日本の経済は景気回復に向かっているとは言え、その動きはゆったりとして厳しいことには変わりありません。こうした時に皆さんと知恵をしぼって、誰にも愛される港北ニュータウンをつくっていかなければなりませんが、これまでより一歩進めてニュータウンのすべてのセンターの情報を地権者の方々とともに、広くニュータウンに計画を持っている企業の方々にも提供すべきと考え、『街づくり通信』として新しく踏み出しました。これまでのパートナーにもましてご愛読賜れば幸いと存じます。

平成８年７月

財団法人
港北ニュータウン生活対策協会

『街づくり通信』創刊記念付録

港北ニュータウンマップ

～ ますます注目される多機能複合都市の現況 ～

港北NTは計画面積約2,530ha、計画人口30万人。このうち1,317haが、公団施行の土地区画整理事業（計画人口22万人）により整備されている。今年3月には基盤整備が概成し、街の骨格は完成。今秋（9月末）には土地区画整理事業の換地処分公告が行われる。また、南北タウンセンターにはさまれた港北中央地区約23.7haの土地区画整理事業もスタートした。

■交通アクセス

鉄道計画では、横浜市営地下鉄3号線（新横浜～あざみ野）が平成5年3月に開通。横浜環状鉄道（日吉～中山間）も平成15~16年をめどに開通予定。道路は東西に3本、南北に5本の都市計画道路が計画されており、東名高速、第三京浜、国道246号と結んで広域道路網を構成する。昨年4月に第三京浜の都筑インターが完成したほか、東名高速の横浜緑インター（仮称）も工事中。

■グリーンマトリクス

公園をはじめ、運動広場、校庭、計画建設用地内の緑地、文化財・保存緑地等の緑の資源を歩行者専用道路および総延長14.5Kmの緑道で結びつけるグリーンマトリクスシステムにより、地区全体で緑の豊かさを実感できる。

■センター計画

商業、業務、サービス、文化などの高度で多様な都市機能を集積した南北のタウンセンターと、4つの鉄道駅前に広がる駅前センター、6つの近隣センターが計画され、特色あるセンターの街づくりが計画されている。また、地権者が全体の5割の土地を持ち、柔軟な街づくりが行われている。

■充実した公共公益施設

幼稚園、小学校、中学校、高校が数多く計画されており、大学では良好な環境と広大な敷地を求めて洗足学園がすでに開校。武蔵工業大学も建設中。また、都筑区総合庁舎をはじめ警察署、郵便局、北部地域中核病院、診療所、各種行政・文化・社会・福祉施設等々、サービス施設計画も充実している。

■注目される宅地、住宅の供給状況

公団、公社、市のほか、民間に用地を卸して建設・分譲したものも含めて、現在までに計約8,000戸を供給。87年からマンション分譲を始めた民間も、約2,000戸にのぼっている。

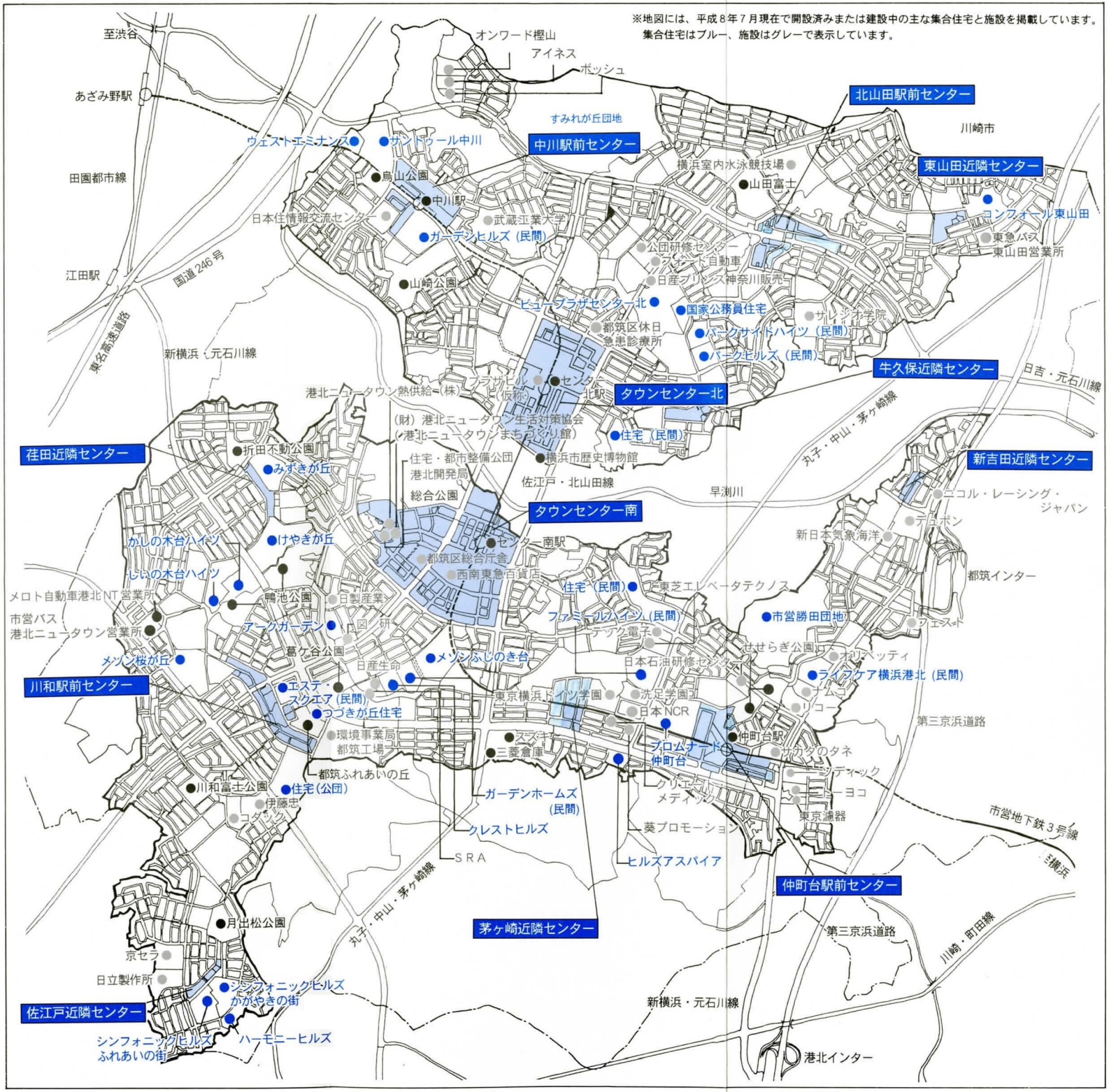
■企業の頭脳が集積

緑が多く、土地もたっぷり使える上に、首都圏としてはまれに見ぬインフラ整備がされ、東京はもちろん関西方面への交通の便も良いことから、民間企業の研究所や研修所が数多く集積。外資系の研究所も多い。

■大型商業施設、金融機関が続々集積

平成10年にはセンター南駅前に西南東急百貨店が、平成11年度にはセンター北駅前に阪急百貨店が、相次いでオープン予定。センター北駅前には、公団が建設する複合商業施設『プラザビル』（仮称）も平成10年にオープン予定。また、郊外型大型店やロードサイド店も計画中のものを含めて続々登場。銀行、信用金庫等、金融機関の支店開店も目立ってきた。

※地図には、平成8年7月現在で開設済みまたは建設中の主な集合住宅と施設を掲載しています。
集合住宅はブルー、施設はグレーで表示しています。



年4回発行　平成8年10月発行

KOHOKU

街づくり通信

港北ニュータウンのセンター街づくり情報紙

NEW TOWN

'96 AUTUMN VOL.2

特　集
換地処分後の
街づくり誘導について

DATA すくらんぶる
数字で読む港北ニュータウン
中川駅前センターの現況

WHO'S WHO
有）ヨネヤマ　プランテーション代表取締役
米山由男さん

PIONEER WATCHING
業務核都市・立川の新しい顔
ファーレ立川

THE NEWS
資生堂が港北ＮＴに新研究所設立！ほか





◀▲中川駅前センター

ここ数年で目をみはるほどの発展を遂げてきた中川駅前センター。ビルトアップした建物にはさまざまなテナントがオープンし、順調に街並みが形成されています。銀行のＣＤや郵便局などの施設も充実しているほか、日常生活に必要な店もひと通り揃い、センターとしての利便性もますます向上。中でも目立つのは、学習塾や専修学校、カルチャー教室の多さ。そのためか、地下鉄や車で訪れる人も多く、センターの活気をより高めています。

KOHOKU.NT. DATA
人口／約78,000人・世帯数／約26,900世帯
平成8年9月末日現在(区画整理地区内)

発　行　：財団法人　港北ニュータウン生活対策協会
編集協力：横浜市都市計画局／住宅・都市整備公団港北開発局

Special Issue
特集

どうなる？これからの港北ＮＴ街づくり協議

換地処分後の街づくり誘導について Q&A

港北ニュータウンの土地区画整理事業は、今年3月末をもって全宅地の供用開始が行われ、さらに9月29日に換地処分公告をもって収束を迎えました。

しかし、土地利用の状況はいまだ半分程度という状況。そこで、港北ニュータウン事業の目的に沿った魅力的で快適な街づくりを進めていくために、これまでの街づくりのルールを継続して協議していく必要があります。

今後、土地利用を行う場合、どのような手続きや協議が必要なのかについて、横浜市都市計画局に伺いました。

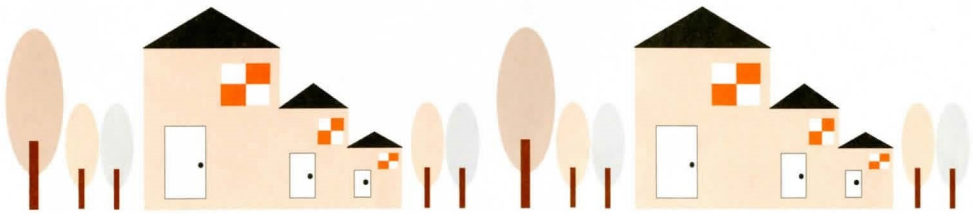
Q：今後は、どのような形で街づくり誘導が行われるのですか？

A：従来、街づくりのルールに基づいた協議は、76条許可申請時点に行ってまいりましたが、9月29日の換地処分公告によって、土地区画整理法第76条の許可申請は不要になりました。そこで今後は、『横浜市街づくり協議要綱』に基づく『街づくり協議地区』により、建築確認申請前に従来と同様の街づくり誘導が行われます。『横浜市街づくり要綱』に基づく協議を済ませてから、建築確認申請を行ってください。

Q：『横浜市街づくり協議要綱』とはどのようなものですか？

A：横浜市は、平成5年に市政運営の長期指針として『ゆめはま2010プラン』を策定いたしました。この計画では、横浜の2010年頃の望ましい生活像と街の姿をあきらかにし、その実現に向けて、市民と行政がパートナーシップを形成しながら、快適な都市環境を創造していくための方策を示しています。

その中で、都市としての利便性・快適性を高めるため、都心、新横浜都心、副都心、地域拠点等の整備・育成を推進していくとともに、地域特性を生かした郊外部の計画的な整備を進めることとしています。



これを受け、横浜市では『横浜市街づくり協議要綱』により、駅周辺の商業・業務地区や計画的開発地区など、都市政策上重要な地区を、『街づくり協議地区』に指定し、市民の皆様や企業などの協力を得ながら、より安全で快適な街づくりを目指しています。

これらの地区内で、建物づくりを計画する場合、“建物づくりから街づくりへ”という観点から、調査・企画段階等のでき得る限り早い時期から、都市計画局担当課と、協議をお願いしております。

協議の中では、個々の地区に関する街づくりの計画をお知らせしたり、この地区が活力と魅力あふれる街になるようなご協力をお願いしております。

Q：建築確認申請前の協議は、具体的にどこで、どのように行えば良いのですか？

A：建物の用途・形態、場所等により、協議窓口は次のようになります。

1．街づくり協議適用対象建築物

街づくり協議要綱に基づく協議（※1）を済ませてから、建築確認申請をしてください。ただし、街づくり協定地区内の建築物については、街づくり協定に基づく協議（※2）を済ませてから、建築確認申請をしてください。この場合、街づくり協議要綱に基づく協議は省略できます。

2．街づくり協議適用対象外建築物

次の建築物は街づくり協議要綱に基づく協議は不要です。

①地上２階建以下の戸建て専用住宅
直接、建築確認申請（※3）をしてください。

②建築協定締結地区内の建築物等
建築協定に基づく手続き（※3）を済ませてから、建築確認申請をしてください。

③地区計画地区内の建築物等
地区計画の区域内における行為の届出の手続き(※4)を済ませてから、建築確認申請をしてください。

(注)登記事務の停止について

換地処分公告にともない、横浜地方法務局港北出張所で区域内の不動産について登記の書き換えを行っています。書き換え期間は、最長で平成9年3月末までの6カ月間。その間は、不動産の登記事務が停止されますのでご注意ください。

登記の書き換えが終わりますと、ニュータウン外と同様に、法務局において不動産の登記が可能となり、権利関係の閲覧、「登記事項証明書」の交付を受けることができるようになります。

お問い合わせ：横浜地方法務局港北出張所
045-474-3100

【協議窓口】

（※1）港北ニュータウン建設部事業調整課	……045-671-2682
港北ニュータウン建設事務所	……045-942-2481
（※2）<タウンセンター地区>	
(株)港北都市開発センター	……045-943-2470
<中川・北山田・仲町台駅前センター、茅ヶ崎センター>	
港北ニュータウン建築相談所	……045-942-8753
（※3）都筑区建築課	……045-948-2291
（※4）建築局企画指導課	……045-671-2932

数字で読む港北ニュータウン

データすくらんぶる

中川駅前センターの現況(平成８年９月末現在)

平成２年供用開始以来、街づくり協定(テーマ:ネオロマンチック)に沿って魅力ある街づくりを進めてきた中川駅前センターは、共同事業にも積極的に取り組んできた結果、めざましい発展を遂げてきました。センター内では、ビルトアップしたビルが過半数を占め、テナントもさまざまな業種が充実。車や地下鉄で買い物に訪れる人々も多く、周辺の人々の生活を支える駅前商業地区として、賑わいのある街が形成されています。



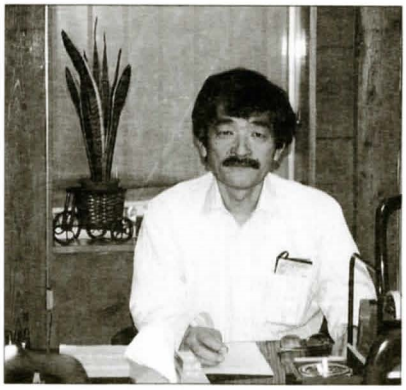
【 出 店 状 況 】

●飲　食(ｶﾗｵｹ、ﾌｧﾐﾘｰﾚｽﾄﾗﾝ含む)	22	●ブティック	1	●ガソリンスタンド	1
●スーパー・ショッピングセンター	2	●メガネ	1	●カルチャー・教室	5
●コンビニ	4	●生花店	1	●フィットネスクラブ	1
●弁　当	1	●生活雑貨	1	●学習塾・専修学校	6
●ベーカリー	2	●薬　局	3	●チャイルドケア	2
●和菓子・洋菓子	2	●書　店	1	●パチンコ	2
●米・酒店	1	●美容室、理容室	8	●業務オフィス・事務所	20
		●写真館・スタジオ	1	●銀行ＣＤ	5
		●クリーニング	1	●医療施設等	12

WHO'S WHO

（有）ヨネヤマ　プランテーション代表取締役

米山由男さん



プロフィール

1941年9月1生まれ。自らを『自然屋』と呼ぶ、貸植木、造園工事、園芸卸売・小売、ペット小売等のヨネヤマプランテーションの代表取締役。港北ＮＴの地権者のひとりでもある。

港北ＮＴにかける、自然屋としての夢とこだわり。

自然屋魂をゆさぶる、港北ＮＴの地権者の皆さんの夢。

私は、何をするにしても一番先にたつのは人のこだわりというか、“思い”だと思うんですよね。港北ＮＴでは、地元の皆さんが夢を持ち、それに何十年もこだわりつづけてこられた。これは、本当にすごいことだと思います。私もそれを見てきたからこそ、港北ＮＴは必ずやすばらしい街になるだろうと思っているし、地元の一人として役に立ちたいと思ってきたんです。

じゃあ、私にできることは何か。やはり“自然”に関することでしょう。ヨネヤマ　プランテーションは、貸植木、造園工事、園芸卸売・小売、ペット小売などを行う会社です。要するに、『自然屋』ですね。我々の目から見ても、港北ＮＴは自然にこだわり、緑地を残そうと努力し計画された街です。しかし、それでもたくさんの自然を失ってきた。それを、これから取り返していかなければならないと思います。そのためのお手伝いがしたい。また、ビジネスの上でも、地元の人間として、地権者の一人として、港北ＮＴの発展に貢献できるような形で取り組んでいきたいと考えているんです。

1997年春、センター北に日本最大規模のペットショップをオープン。

そのひとつが、来年4月中～下旬のオープンを目指して急ピッチで計画を進めている、センター北のペットショップです。敷地面積は約600坪。売場面積としては500坪ほどですが、それでも、今の日本のペット市場を考えれば、大きすぎるほどの規模。実際、完成すれば日本一の規模になります。

「なぜこの時期に、そんな場所に、大規模店を？」という質問をよく受けます。確かに、センター北駅周辺はまだまだ開発途上だし、しかも、予定地は幹線道路に面しておらず、人通りもまばらな状態。タウンセンター北全体として見ても、熟成するのに10年以上の時間がかかるでしょうから、こういう場所で商売するのは、正直言って厳しいですよ。それでも、いや、だからこそ私はここでやりたいんです。

もし、この店が成功すれば、まわりにお客さんが集まる。そうすれば、周辺のビルでティールームをやろうという人が出てくるかもしれないし、何か商売を始める人が出てくるかもしれない。いや、そうなって欲しいんです。採算はどうするんだと言われれば、「最善を尽くす」としか言いようがないし、「なぜ？」と言われれば、「夢です」と答えるしかない。それだけ、港北ＮＴが魅力的な場所であり、ここまでがんばってこられた地権者の皆さんの“夢”が魅力的だということなんです。

自然を愛する心のゆとりが、魅力的な街づくりを生む。

日本というのは、ペットだけでなく、緑や花に関しても、ヨーロッパに比べてまだまだ遅れているのが現状です。たとえばヨーロッパでは、家の中で緑や花を楽しむだけでなく、外を歩く人の目も楽しませるような飾り方を昔からしてきました。しかし、日本人がそういう感覚を持つようになったのは、つい最近のことです。

また、「ペットは死んでしまうから飼わない」とか、「植物は枯れてしまうから大変だ」という方がいらっしゃいますが、おかげで、動物が死に、植物が枯れるということを体験したことのない子供たちが増えている。これも、実に不自然なことですよね。

特に今、ペットについてはいろいろな問題があります。ほとんどのマンションではペット禁止になっているし、犬や猫と一緒に入ってはいけないという公園まである。しかし本来、ペットというのは人間と共生していけるものなんです。それができない一番大きな理由は、ちゃんとしつけがされていないということ。そこで、センター北店では、販売だけでなく、飼い方、しつけ、健康管理などの情報を、年間を通して発信していきたいと思っています。

我々自然屋にできることなんて、本当にわずかなことかもしれない。でも、これからは、もっと家庭での時間が尊重され、緑や花、ペットと触れ合いを大切にする時代がやってくると思います。そして、そういう心のゆとりや豊かさが、本当に魅力的な街づくりの原動力になるのではないでしょうか。

区画整理事業が終わった今、港北ＮＴの将来は、地権者の皆さんや、ここで事業をしようとする人、そして実際に住む人ひとりひとりの“思い”や“こだわり”にかかっています。微力ながら、この思いを皆さんとともに高めていきたいと思っています。

PIONEER WATCHING

業務核都市・立川の新しい顔『ファーレ立川』

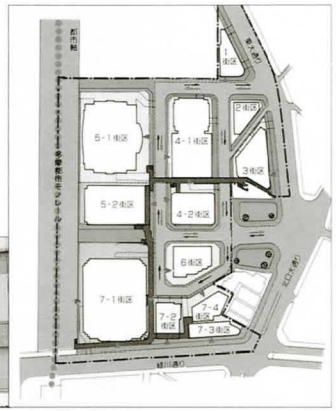
業務核都市構想によって大きく変貌しつつある立川。ここでは今、米軍跡地460haを中心としたさまざまな事業が進んでいます。そのさきがけとして平成6年10月に誕生したのが『ファーレ立川』です。これは、7つの街区、11棟のインテリジェントビルで構成された新しいタイプの都市。特徴ある建物計画や高度な都市基盤整備、さらにアートと一体となった街づくりによって注目されています。

立川の将来を担う、米軍基地跡地利用計画。

一極集中から多極多圏型へと大きく都市構造を変えつつある東京圏。その根幹となっているのが、昭和51年に国土庁が打ち出した『業務核都市構想』です。この構想では、5つの地区を業務核都市と指定し、現在各プロジェクトを進行中。その中でも、西東京地域、多摩地区の中心として位置付けられているのが立川・八王子です。

特に立川市では、昭和52年に立川駅北口の米軍基地約460haが返還され、その跡地利用計画として、国営公園の建設、広域防災基地の建設、市街地整備の3つの方針が立てられています。





▲「排気口」



▲周辺地図

そして、これらの事業のさきがけとして建設されたのが、『ファーレ立川』(立川基地跡地関連地区第一種市街地再開発事業)というわけです。

現在、ファーレ立川の西側には、立川駅から北に向かって幅員40mの歩行者専用道路が整備されつつあり、その上には多摩都市モノレール(多摩ニュータウン～東大和市の上北台)も開通する予定。さらに、周辺の区画整理や、国立国語研究所など5つの行政機関の移転・建設も計画されており、交通、経済、行政、文化などさまざまな面で充実した都市圏の創造を目指しています。

"職"と"遊"が融合した都市『ファーレ立川』。

ファーレ立川の事業地面積は約5.9ha。一部民有地を含む国有地を街区ごとにまとめてビルを建設し、区分所有で譲渡するという再開発事業です。

事業地内は7つの街区に分かれ、11棟のインテリジェントビルが建ち並んでいます。8つの業務棟で構成されるオフィスゾーンと、シティホテル、百貨店(高島屋)・銀行、映画館・店舗(シネマシティ)の３つの商業棟で構成されるコマーシャルゾーンは、2階部分の歩行者デッキで結ばれており、将来はＪＲ立川駅及びモノレール駅とも結ぶ予定。また、市の公共駐車場(約220台)を含め、約1000台分が整備されている他、地域冷暖房システムや都市管理情報システムも導入され、高度化する都市機能に対応しています。

FARET

▲ファーレ立川のロゴマーク
『ファーレ立川』のファーレとは、イタリア語でつくる、創造する、生み出すという意味。これに立川の頭文字Ｔをつけて、シンボルマークとしています。



外壁、高さ、横ラインを統一した、建物計画。

立川駅北口から駅前商店街を抜けて行くと、まず目に入るのは高島屋とシネマシティ。一見、複合商業施設かと思いきや、その間の細い通りを抜けると、まるで新宿副都心の縮小版のような光景が広がっています。

しかし、新宿副都心と似て否なるところは、同じような外壁のビルが、すべて12～3階という高さで、しかも横のラインを揃えて整然と建ち並んでいる点。これは、知的業務都市のイメージ創出を目指した建物計画によるものです。

実は、立川市には自衛隊の基地が残っており、滑走路面から約45m以内という高さ制限があります。また、この地区の容積率は約650%ですが、高さ制限があるため、高密度な空間にならざるを得ません。そのあたりが、建物計画に大きく影響していると言えるでしょう。

世界36カ国、92人のアーティストによる109のアートが点在。

この、高密度な空間に豊かな広がりを感じさせるのは、建物を3mほどセットバックしてつくられた連続したオープンスペースと、そのスペースを中心に展開しているアート計画です。

これは、街全体をステージに見立て、世界36カ国、92人のアーティストが製作した多種多様な109ものアートを点在させるというもの。しかし、よくあるモニュメントのようなアート作品ではなく、建物とアートを一体化させたもの。たとえば、建物の壁、駐車場の排気塔、高圧配電塔、車止めなど、外部空間の諸要素をそのままアートにしているわけです。ふと見ると、ビルの外壁に、足元にアートがある･･･まさに、"驚きと発見のあるワンダータウン"



▲写真左上より「換気口」「石鐘の庭」「ダブルベンチ」「見知らぬ人」



▲写真左より「車止め」「道祖神-立川の動物たち-犬」「道祖神-見知らぬ人」

にふさわしい景観と言えるでしょう。

これらのアートは、現在はプロジェクトを推進したコンサルタントがまめに破損や盗難のチェックをし、管理しているそうですが、その所有者は、公道にあるものは市、それ以外は各々の建物の所有者となっています。

今後展開される、周辺の区画整理事業に期待。

さて、コマーシャルゾーンにある高島屋は、立川駅北口のすぐ目の前から移転してきたもの。駅前から5～6分歩かなければならなくなりましたが、売上はかなり伸びたとのこと。また、隣のシネマシティにはもともと同所にあった6つの映画館が入っていますが、ここも「創業以来の実績を、この2年で上回った」という盛況ぶり。立川駅北口の人の流れもすっかり変わり、こうした『ファーレ立川』の成功実績が、今後展開される北口駅前の商店街やファーレ立川周辺の区画整理への期待を、いっそう大きなものにしています。

立川の再開発事業は港北ＮＴとは事業目的も手法も異なりますが、特徴ある建物計画、動線計画、アート計画などには、大いに興味をそそられます。多摩都市モノレールが開通する平成10～11年頃、立川がどのように発展しているか、今後も注目していきたいものです。

■『ファーレ立川』事業概要

事業名	立川基地跡地関連地区第一種市街地再開発事業(愛称:ファーレ立川)
所在地	東京都立川市曙町二丁目8及び35～41番
施行地区面積	59,151.19㎡
施行者	住宅・都市整備公団

THE NEWS

資生堂が港北ＮＴに新研究所設立！

化粧品業界最大手の資生堂（本社・東京都中央区）が、都筑区早淵にある外資系のデュポン中央研究所の土地建物を取得し、来年上期にも新研究所を設立することを去る10月1日に発表しました。

今回の計画は、研究開発体制の強化が目的。資生堂は港北区新羽町に開設から30年を経過した第一リサーチセンターを所有していますが、市街化調整区域にあるため、建物の増改築による拡張は困難。そこで、その機能を新研究所に移転し、化粧品に関する基礎から応用までの研究開発を行おうというものです。新羽町の土地建物の利用は今後検討される予定となっています。

資生堂が取得するのは、デュポンの敷地2.5haと、築後10年の鉄筋コンクリート地上3階・地下1階(延床面積約17,000㎡)の建物。改修のうえ、化粧品開発の基礎研究のほか、化粧品開発に必要な「コロイド科学」や化粧品と人間の感性とのかかわりを探る「感性感覚研究」など新分野の研究部門も入る予定です。

同所にあったデュポンの中央研究所は'87年に開設。最先端化学材料の技術開発を行ってきましたが、来年度をめどに生産拠点のある宇都宮市に統合されます。

街づくり通信 VOL.2

平成８年10月発行

街づくり通信編集室

〒224
横浜市都筑区荏田東４丁目10番３号
TEL:045(942)8745　FAX:045(942)8972

編・集・後・記

『街づくり通信』では、Ｐ４に掲載のデータすくらんぶるのコーナーで、タウンセンターや駅前・近隣センターのビルトアップ状況、開業状況レポートを企画しています。今回は中川をピックアップしましたが、次回は仲町台を予定。こんなお店がオープンした、こんなおもしろいスポットがあるという情報がありましたら、ぜひお寄せください。『街づくり通信』に関するご意見、ご要望、ご感想等もお待ちしております。

街づくり通信編集室　一同

お　知　らせ

事業にかかわる税制や土地活用の方法・手順の相談に応じます！

都筑区役所主催

『土地活用の税務・経営相談』開催！

11月25・27・29日、12月2・4日

■実施機関　主催／都筑区役所
共催／横浜市都市計画局、
(財)港北ニュータウン生活対策協会
(株)港北都市開発センター

■相談日時　11月25日(月)・27日(水)・29日(金)、12月2日(月)・4日(水)
午後14時～17時
・相談日は、相談物件の場所により分けさせていただきます。
・１回の相談時間は、１時間とさせていただきます。

■相談場所　都筑区役所　３階会議室

■相談内容　○事業にかかわる税制・税務会計一般
○事業の継承、相続対策
○土地活用の方向・手順、共同ビルの管理・運営
○定期借地権にかかわる地代、保証金、税制
○事業経営一般

■相 談 料　無料

■申し込み　電話予約制による個別相談

・住所、氏名、電話番号および相談物件の場所、簡単な内容をお聞かせください。
・相談は、土地を所有し、事業等を行おうとしている方に限らせていただきます。
・電話受付により先着順で行わせていただきます。

都筑区役所 課税課　045(948)2260

11月22日(金)までにお申し込みください。

年４回発行　平成９年１月発行

KOHOKU

街づくり通信

港北ニュータウンのセンター街づくり情報紙

NEW TOWN

'97 WINTER VOL.3

特集

WATCH THE 港北NT

DATA すくらんぶる

数字で読む港北ニュータウン

仲町台駅前センターの現況

WHO'S WHO

仲町台商業振興会　会長

田中孝長さん

PIONEER WATCHING

カテゴリー業界の注目株

『黒潮市場』の哲学に学ぶ

THE NEWS

港北NT事業推進連絡協議会・第11回総会をもって、解散。





▲仲町台駅前センター
◀ タウンセンター南で建設中の西南東急百貨店

駅舎や店先に飾られた門松やしめ飾りが、お正月気分を盛り上げている、仲町台駅前センター。昨年は、ビルが次々と竣工し、さまざまな店舗がオープン。仲町台商業振興会も設立され、話題満載の１年でしたが、さらなる街の熟成へ向けて、希望に満ちた新年を迎えました。隣接するタウンセンター地区をはじめ、その他の駅前・近隣センターでも、さまざまなビル建設が急ピッチで進められており、中央地区では、昨年から本格的な工事を開始。港北ＮＴ全体にとっても、これまで以上に躍動目覚ましい１年となりそうです。

KOHOKU.NT. DATA

人口／約 79,600 人・世帯数／約 27,400 世帯

平成８年 12 月末日現在(区画整理地区内)

発　行　：財団法人　港北ニュータウン生活対策協会
編集協力：横浜市都市計画局／住宅・都市整備公団港北開発局

Special Issue
特集

WATCH THE 港北NT



港北ニュータウンが、第16回『緑の都市賞』内閣総理大臣賞受賞!

(財)都市緑化基金と読売新聞社が主催する『緑の都市賞』は、明日の緑豊かな都市づくり、街づくりを目指して、樹木や花などの緑を用いた都市環境の改善、景観の向上等に取り組み、個性的な施策で成果をあげている団体に贈られるもの。その第16回に横浜市と住宅・都市整備公団の『グリーン・マトリックス・システムによる緑の保全と活用』がエントリーし、応募総数48件の中から最優秀賞である内閣総理大臣賞を受賞。去る11月1日、東京都内で表彰式が行われました。



▲表彰を受ける住宅・都市整備公団理事(手前)と、横浜市都市計画局長(奥)

港北NTでは、"緑の環境を最大限に保存"し、"ふるさとをしのばせる緑豊かな街づくり"を目指すという基本方針により、約90haもの雑木林や竹林など自然の緑を残すとともに、約123haの公園緑地を計画。さらに農業との調和を目指して230haの農業専用地区を確保しています。『グリーン・マトリックス・システム』とは、これらを緑道や歩行者専用道路によって、文化財・神社・屋敷林など、地域の歴史をしのばせる景観と結びつけ、体系化したオープンスペース計画のこと。

特に、その骨格となる緑道は、総延長約15Kmにもおよぶもので、丘陵部の谷や沢を利用している緑道には、地下水をポンプアップして"せせらぎ"を形成。また、こうしてできた6つの水系では、緑と水が一体となって多くの生物が生息する自然空間がつくられてきました。実際、植物や昆虫、魚類、鳥類、小動物等、さまざまな生物の生息が確認されています。

港北NTでは、市民参加の街づくりを実践。公園の整備計画や緑化計画にも市民の声が色濃く反映されており、今回の受賞は、施行者(住宅・都市整備公団)と行政(横浜市)、そして市民の3者が一体となって進められた、30年にもわたる街づくりの成果とも言えるでしょう。

これまでにも、ボランティアで公園の樹木や草花の世話をしたり、自然観察会等を催すグループが次々と生まれ、活動していますが、今回の受賞を機に、自然と親しむ生活をしたいという港北NT移住希望者が、さらに増えそうです。

南北タウンセンターをつなぐ街 港北ニュータウン中央地区起工!

昨年11月1日、港北ニュータウン中央地区(約23.7ha)の起工式が行われました。

中央地区は、横浜市の副都心である港北NT・タウンセンターの機能の補完を目指し、健全かつ良好な新市街地を形成する目的で土地区画整理事業による開発が検討され、昨年2月29日に事業計画が認可されました。地区中央に商業施設用地、幹線道路に沿って沿道施設用地が配されるほか、地区に散在する住宅・工場等の移転先として、それぞれ地区西部および東南部に住宅用地が、地区東部に工場用地が配される予定。

事業年度は、平成18年度まで(清算期間5年間を含む)が予定されています。



▲港北ニュータウン中央地区起工式

より有効な土地利用を目指して、タウンセンターブロック会議開催

昨年11月、タウンセンターの立地状況及び土地利用の意向等についての情報交換を行う、タウンセンター開発推進協議会(地権者約500名)のブロック会議が、まちづくり館で行われました。

タウンセンターでは、一昨年の7月秋以降、ブロック代表等の呼びかけにより、土地利用や共同化についての話し合いを4つの街区で実施してきました。

そして、昨年3月には供用開始を迎えましたが、既に上物建設を行い、事業化に取り組んでいる地権者がいる一方、土地利用についての具体的な計画を模索中という地権者も多いのが現状。そこで、土地利用の意向について忌憚のない意向を話し合おうというのが、今回のブロック会議の主旨。

地下鉄4号線の進捗、公団所有の核的複合施設用地等の利用方法、点在する公団用地の処分方法等についての質疑応答のほか、土地利用に関するさまざまな意見交換が活発に行われました。

共同化に関する情報を求める声も多く、タウンセンター開発推進協議会では、今後、勉強会や意向調査を実施していく予定です。

■タウンセンターの近況(平成8年10月現在)

	第1地区	第2地区	計
開設済み	11棟	11棟	22棟
建設中	15棟	10棟	25棟
手続き等	10棟	24棟	34棟
計	36棟	45棟	81棟

※現場事務所は含まず。
※幹線道路沿い…30棟、内側…51棟
※施設のみ…47棟、施設+住宅…34棟

北山田に新しい賑わい。アオキインターナショナル『キッズワールド』オープン!

去る11月1日、メンズファッションの(株)アオキインターナショナルが、0歳児から6歳児までのキッズと妊婦を対象として、子供服、玩具、マタニティ衣料、雑貨など、母と子が必要とするものなら何でもそろう日本最大級の大型専門店『スーパーキッズワールド横浜本店』を港北NT内(都筑区北山田)にオープンしました。

地上5階建地下1階建て、総売場面積4,880㎡、駐車場収容台数は約400台で、アオキの店舗でも最大規模のもの。愛情いっぱいをショップコンセプトに、"安心で、楽しく、気軽に、便利な"を合言葉にした店舗づくりが行われています。

1階はトドラー(幼児)衣料、フォーマル、服飾小物、カフェ等。2階は知育玩具、TVキャラクター、乗用玩具、子供用自転車・三輪車、遊具、キッズマルチメディア、絵本、こどもの広場等。3階はベビー衣料、新生児・乳児衣料、育児雑貨・ベビーギフト、マタニティウエア等。4階はベビー乗物・家具・寝具、キャラクターグッズ、催事場、託児室、育児相談室等。地下は駐車場、5階は事務所となっています。

開店当日は、約15,000人、オープンから4日間で約45,000人が訪れたという予想以上の好調な滑り出し。港北NTにとっても賑わいを生む楽しい新スポット登場と言えるでしょう。同社では、本年度中にはさらに3店舗を出店し、東日本を中心に5カ年計画で30店舗の展開を計画中。



数字で読む港北ニュータウン

データすくらんぶる

仲町台駅前センターの現況(平成8年12月5日現在)

仲町台駅前センターは、平成5年供用開始。以来、街づくり協定(テーマ:ネオクラシック)に沿って魅力ある街づくりを進めてきました。平成7年頃からはプロムナード仲町台をはじめとする数多くの集合住宅が入居を開始し、人口も順調に増加。それにともなって、さまざまな店舗が続々とオープンしてきました。昼間は買い物をする子供連れの主婦や学生達が目立ちますが、夜ともなれば、駅周辺の飲食店に集まるサラリーマンでにぎわっています。



【 出 店 状 況 】

●飲 食(カラオケ、ファミリーレストラン含む)	・・・・・26	●ブティック	・・・・・2	●ガソリンスタンド	・・・・・1
●スーパー・ショッピングセンター	・・3	●メガネ	・・・・・1	●カルチャー・教室	・・・・・6
●コンビニ	・・・・・4	●生花店	・・・・・1	●学習塾・専修学校	・・・・・6
●弁当・惣菜	・・・・・1	●生活雑貨・インテリア	・・・・・4	●保育園	・・・・・2
●ベーカリー	・・・・・2	●薬 局	・・・・・5	●パチンコ	・・・・・1
●酒 店	・・・・・1	●書 店	・・・・・4	●業務オフィス・事務所	・・・・・65
●八百屋	・・・・・1	●美容室、理容室	・・・・・10	●銀行ＣＤ	・・・・・4
		●写真館・スタジオ	・・・・・1	●信用金庫	・・・・・2
		●ビデオ・CD販売・レンタル	・・・3	●医療施設等	・・・・・10
		●クリーニング	・・・・・4		

WHO'S WHO

仲町台商業振興会　会長

田中孝長（のりなが）さん



プロフィール

1940年11月18日生まれ。茅ヶ崎東の『スーパー三越』ほか、プロパンガス販売会社等を経営。仲町台駅前センターでは、昨年『焼き鳥べんてん』を開店。また、数々のイベントで八木節を披露するなど、港北ＮＴでは知る人ぞ知る美声の持ち主でもある。

仲町台へ行けば、何かある、楽しめる。そんな街づくりのお手伝いをしたい。

役員一同やる気一杯でのスタート。とりあえず、会員数100が目標。

仲町台商業振興会は、昨年6月6日に産声を上げたばかり。この地域は、商店だけでなく不動産仲介業や銀行をはじめ、会社や事務所など、さまざまな業種がありますから、事業者なら誰でも参加できるよう、商店会ではなく振興会というスタイルをとっています。また、当初は仲町台駅前センターの事業者を対象にしようと考えていましたが、茅ヶ崎や勝田の方からも加入を希望する方があり、範囲も少し広げ、仲町台駅周辺ということでやっていこうということになりました。

まだ具体的な活動は行っていませんが、とりあえず、役員同士が横の連絡を密に取り合い、親交を深めるとともに、今後のことをいろいろと話し合っていこうと思っています。

今のところ口コミ等によって64事業者が加入していますが、とりあえず100事業者をめどに会員を募ろうという方針。何しろ、13名の役員がみなやる気十分ですので、いろいろとおもしろいことができるんじゃないかと思っています。

目的は、治安を守り、街のにぎわいを創ること。

会の目的は大きく分けて２つ。ひとつは、仲町台駅周辺のにぎわいの創出。もうひとつは、治安を守るお手伝いができればということです。

前者については、仲町台へ行けば何かある、みんなで集まって楽しいと思われるような活動をしていきたいと思っています。今後、タウンセンターが発展していけば、仲町台も少なからず影響を受けますし、タウンセンターとは違う、ふだん着で楽しめる街づくりを、振興会から発信していきたいですね。

現在考えているのは、さまざまなイベントの開催。せっかく駅前に広場があるのだから、その活用も検討したい。とりあえずはこの夏、夏祭りをしたいと役員で検討を重ねています。

また、ポイントカードの導入も今後の検討課題と考え、勉強を始めています。

後者の治安に関しては、振興会設立披露パーティの席上、暴力追放宣言をしました。この問題については、街全体で取り組もうとしています。また、青少年の多い地域でもありますので、一声運動とか、夜間パトロールなども積極的に検討していくべきだろうと思います。

今年はいよいよ本格的な活動をスタート。夏祭りを実現させたい。

仲町台では、これまで地権者がともに努力し、協調してやってきましたが、実際にこれだけビルが建ち並んでくると、今度はこの街に根付いてがんばろうという、多くの事業者の方も含めて、みんなが共存共栄を図っていかなければならない。それは、一事業者としても痛感しています。

仲町台には、『グルメ通り』ができましたし、街全体にもたくさんの飲食店ができ、これからもまだまだ増えていくでしょう。これは、仲町台をグルメの街としてアピールするのに、とても良いことだと思います。

しかし、こうした店が切磋琢磨して、街全体の良いイメージにまで高めていくには、時間がかかるでしょう。とりあえずは、振興会のメンバー全員で知恵を出し合い、できるところから取り組もうと思います。

たとえば、車道から見ると建物の裏側しか見えず、仲町台にどんなお店があるか、どんなにぎわいがあるのかわかりにくいので、その点もなんとかしたいですね。駐車場の問題についても、積極的に取り組む必要があると思います。

今年は、とにかく夏祭りを実現させるのが大きな目標。会報も発行する予定ですし、活発な振興会活動を行っていきたいと思います。

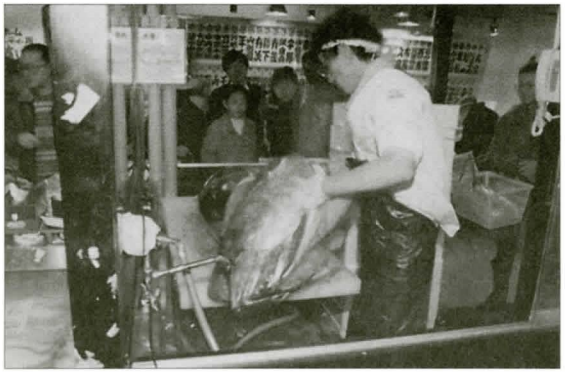
PIONEER WATCHING

「もう、安さで勝負する時代じゃない。」

カテゴリー業界の注目株『黒潮市場』の哲学に学ぶ。

スーパーマーケットという業態が大躍進し、業界を席巻しはじめたのは十数年前。その後、スーパーの安売り競争の激化、ディスカウントストアの登場など、価格破壊型小売業の攻勢が激しさを増し、大手スーパーや百貨店にも大きな影響を与えてきました。そんな中で、脚光を浴びてきたのがいわゆるカテゴリーキラー(取り扱い商品を限定し、品揃えに奥行きを持たせて低価格販売を行う業態)。そして、これが数店集まって形成するのがパワーセンターです。

今、そのパワーセンターのひとつとして、業界でも大きな注目を集めているのが『黒潮市場』。今回は、その実際を見るとともに、「スーパーの時代は終わった。単なる安売りは今の時代にマッチしない」と言い切る黒潮市場の総師(有)一藤水産の社長・山本允之氏にお話を伺いました。



消費者の心理をとらえた、至れり尽くせりの仕組みとサービス。

(有)一藤水産と言えば、業界でも注目度ナンバー1の鮮魚の大型量販店チェーン。今や、スーパーや百貨店をはじめ、ありとあらゆる業界大手から引く手あまたの会社です。なぜ、これほど注目を集めているのか…。そのひとつにあげられるのが、ここ数年の快進撃です。93年10月に富津市に黒潮市場1号店を開店したのを皮切りに、95年11月には『新宿黒潮市場』を開店。その後、高井戸、川越、田無など10店舗を続々と開店。テナント出店も合わせれば計18店舗も出店しています。しかも各店とも好調で、新宿店などは、約220坪で35億円という売上。

しかし、本当に注目すべきなのは、山本社長独特の哲学であると言えるでしょう。

黒潮市場は、鮮魚の一藤水産を核に、青果、精肉のカテゴリーキラーを集めた生鮮主体の店。当初、客が参加できるセリ市や、マグロの解体実演販売など、派手なパフォーマンスで市場的なにぎわいを演出し、マスコミ等でも注目を集めたものでした。しかし、単にそれだけで繁盛しているのではないことは、店へ行けばすぐにわかります。

編集部が訪問したのは新宿店。まず、目につくのはあちこちに貼られた手書きポスターや、イラスト入りPOPの数々。「お客様に得をしていただく」ことを旨とする企業姿勢が書かれたものをはじめ、低価格の理由、商品の説明、鮮度や魚の調理の仕方、包丁の研ぎ方まで、客サイドに立ったあらゆる情報が掲示されています。

また、とにかく店員の数が多いのも目立ちます。各コーナーにはお客様相談係という腕章をつけた専門の相談員が3名ずついて、買い物を手伝ったり、相談にものってくれます。

極め付けは、たとえイワシ一匹でも調理してくれるサービスの良さ。調理場には、客専用の白衣や長靴も用意されており、希望すればその場で調理を手取り足取り教えてくれます。

普通、安い店では絞り込んだ品揃えをしているため種類の豊富さに欠けたり、安くても必要以上の量を買わなければならなかったりという難点がありますが、黒潮市場はその点もクリア。「お客様は、目でも買物をされます。たとえば、タラバガニもマグロもスッポンも並んでいる中で、イワシやサンマを買いたい。少ない種類の中からイワシを買ったんじゃ寂しいんです」というわけで、豊富な品揃えを展開。新宿店では鮮魚だけでも850アイテムというから驚きです。また、イワシ1匹、エビ1匹でも買える気安さも、魅力のひとつ。

こうした至れり尽くせりの仕組みとサービスは、日頃、スーパーで切り身のパックを買い、魚屋でも遠慮がちに調理してもらっている消費者には、単に便利というだけでなく、さわやかな感動すら与えてくれます。

社長自らが行う、徹底した人材教育。

こうした、どこまでも客の心理を読み込むこまやかな気配りは、売場以外にも見られます。

たとえば、トイレ。清掃がゆきとどき、芳香剤が香るトイレには、お年寄りや身体障害者のために手摺りを設置。さらに、トイレットペーパーは女性を意識して花柄・2枚重ねという気の遣いよう。また、駐輪場には「口紅は塗っても自転車の空気は入れない」主婦たちのため、無料で使える空気入れを設置。これは黒潮市場の名物にもなっているそうです。

こうしたアイデアは、すべて現場のスタッフの中から出たもの。しかし、その背景にも、人材教育に対する社長の哲学があります。

一藤水産では月2回、ホテルを借り切って社長自らが商売の哲学や現場対応を語る講演会を開催。社員だけでなく、関連業者、清掃員、ガードマンからパートに至るまで、店に携わるすべてのスタッフが対象で、誰でも自由に参加でき、参加できない人のために、講演会テープの貸し出しもしています。

この講演会、参加者にハンコを押すことで出欠を記録されますが、「来なかったら自分が損をするだけ。押し付けは身につかない」と、強制していません。が、ほとんどのスタッフが聞いているとのこと。

また、「普通の会社は、幹部だけの勉強会や会議が多い。だから下の者は頭にきて、だんだん根っこが腐っていく」と、すべての会議の議事録を次の日には全店にファクスで送付。全スタッフに回覧しています。隠し事など一切ない、ストレートな情報公開が、スタッフの士気を高め、質の高さにつながっているというわけです。

安さの秘密は、「売り切る力」。

ところで、黒潮市場がなぜ安くて新鮮なのか。その鍵も、人材教育と密接な関係があります。

黒潮市場の鮮魚のロス率は、各店とも3%程度で、1%の店もあるとのこと。一般のスーパーの場合、鮮魚のロス率は高いところで14%。最も優秀なところでも4%と言いますから、これはほとんど驚異的な数字です。安くて新鮮な素材を提供するには、仕入れの仕組みや、人脈も大切ですが、「ロスがあってはもともこもない。売り切る力こそ、安さの秘密」なのです。そして、売り切ることを可能にしているのが、現場スタッフなのです。



そのため、立地、曜日、時間帯、天候、温度などによる売れ行きの動向を、どう検証し、仮説を立て、発注するか、そして、陳列方法に至るまで本部で勉強会を実施。その上で、それぞれの現場スタッフがケーススタディを積んでいきます。

本部がすべての決裁権を持つスーパーと違い、黒潮市場では、仕入れも価格設定も、現場スタッフの裁量に任されていますから、その時々のニーズに合わせた対応が可能。売り切る力も増し、ロスも減るというわけです。



◀(有)一藤水産社長・山本允之氏

「もう、安いだけじゃためなんです。『いらっしゃいませ』は英語で『メイ・アイ・ヘルプ・ユー』=『何かお手伝いしましょうか』ですが、日本のスーパーは、『いらっしゃいませ』を連呼してるだけ。それじゃ、お客さんが満足するはずないですよ。いかに感動してもらうかを考えなきゃ。」社長の考え方は、どこまでもお客様寄り。

『黒潮市場』は、生き残っていける業態。

「お客様に得をしていただいてこそ、商売」、「商売は損得ではなく、善悪だ」など、短い取材中にも社長のお話の中にたくさんの名言を見つけました。中でも「商売は状況への対応次第」という言葉が、印象的。状況に対応するには、現場スタッフの力が大切であり、現場スタッフが自在に動ける環境づくりこそ、今、業界でもっとも求められているものなのかもしれません。だからこそ、大手企業やスーパー、百貨店等から、ビジネスのパートナーとして、講演者として、引く手あまたなのでしょう。

現在、一藤水産の年商は約100億円ですが、5カ年計画で300億円を目指しており、すでに今後2~3年先までの出店計画がほぼ決まっています。その他、100件を越す出店・共同事業等の申し入れがあるとか。しかし、どんな"おいしい話"でも、魚の鮮度を考えて、市場あるいは港から車で1時間半の範囲内にしか出店しない方針。また、「人材が間に合わないため」最大でも1年に5店というのが出店の目安です。



それでも、このまま順調に成長していけば、いずれ社長の目が行き届かないほどの規模になるのは、間違いないでしょう。そのとき、現在のような店づくりは可能なのか…。しかし答えはいたってシンプルで、「大きくなれば、小さくしていけばいい」。「目に入れても痛くないようなかわいい人材」を育てたら、別会社をつくってまかせる方針です。現に、今春には丸井今井等との共同出資によって、『黒潮市場北海道』を設立し、丸井今井が展開を進める『マルイマート』の核テナントとして出店予定。カテゴリーキラーは急激に成長したため、どこも人材の壁に当たっていると言われますが、一藤水産の場合、壁をくずす努力は既に行われているようです。

「要は、地域の人に喜んでもらえるかどうか。黒潮市場は、これから残っていける業態だと思っています」と語ってくださった社長室の壁には、「言っていることと、やっていることを同じにする」という言葉が掲げてありました。

THE NEWS

港北ＮＴ事業推進連絡協議会第11回総会をもって、解散。

昨年11月29日、港北ＮＴ事業推進連絡協議会・第11回総会が行われ、前身である港北ＮＴ開発対策協議会から数えて約29年間にもおよぶ協議会が解散しました。

港北ＮＴ事業推進連絡協議会は、地域の乱開発を未然に防止するとともに、都市農業を確立し、良好な生活環境を整備した街づくりを実施するという地元地権者の決心をもとに昭和42年に発足した港北ＮＴ開発対策協議会の後を受け、事業推進のため昭和51年に発足したもの。しかし、昨年9月29日の換地処分公告をもって土地区画整理事業が収束し、その使命をおおむね終了したとの認識に立ち、今回の解散に至ったものです。

総会は、協議会会長、市助役、公団総裁のあいさつを経て、協議会の活動報告、ＮＴ関連事業報告、土地区画整理事業報告が各々行われ、地元からの代表質問、関係局区の回答の後に、協議会の解散の提案が行われ、了承されました。

■

「今後は、港北ＮＴ建設事業の理念と長く重みのある経緯を踏まえ、地元、横浜市、住宅・都市整備公団各々がより一層努力して土地利用を推進し、日本における街づくりのモデルとして、活力ある21世紀の街を創り上げていく」という、さらに前向きな総会の決議により終了。総会終了後には、出席者による懇親会が行われました。



街づくり通信 VOL.3

平成９年１月発行

街づくり通信編集室

〒224
横浜市都筑区荏田東４丁目10番３号
TEL:045(942)8745　FAX:045(942)8972

編・集・後・記

居住人口が約８万人となった港北ＮＴは、これまで以上に活気と賑わいのある新年を迎えました。今年も、さまざまな施設の建設が相次ぎ、特に大型商業施設の建設が着々と進むタウンセンターは飛躍的に発展する年となりそう。内外からの街づくりへの期待や注目度もさらに高まっており、土地利用を考える地権者の皆さんにとって、ますます多忙な１年が始まりました。 街づくり通信では、今年もより実際的な街づくり情報をお届けしてまいりたいと思います。ご意見、ご要望、ご感想はもちろん、さまざまな情報をお寄せください。お待ちしております。

街づくり通信編集室　一同

新年のごあいさつ

新年のお慶びを、申し上げます。

旧年中は格別のご好誼を賜り、「街づくり通信」のご愛読を御礼申し上げます。

港北ニュータウンも基盤整備が終わり、昨年に換地処分がなされ、今年４月には全面的な登記完了に伴う新しい表示と共に権利関係が確認されるので、土地活用が活発になってくるものと、大いに期待されます。

日本の景気は低迷から脱し切れず、一部に明るさは見えるものの、一気に回復とは言いがたいと言われています。しかし、私たちの港北ニュータウンは、新しい街として未来を担っていくインフラも整いました。

すでに街として整備が進んでいる「中川」と「仲町台」の駅前センター、また西南東急百貨店・阪急百貨店を核として、一流の専門店や映画館・アミューズメント・飲食店等々、街の形成を着々と整える「センター南」と「センター北」、４号線の開通に弾みを期待し、構想を重ねる「北山田」と「川和」の両センター、そしてこれらを線としてつなぐ「茅ヶ崎」、「荏田」をはじめとする６つの近隣センター。それぞれに特色を生かして、港北ニュータウンの街づくりに前進しています。これらはすべて地権者の努力と、このニュータウンを愛してくださる関係者のお力の賜ものです。

財団法人　港北ニュータウン生活対策協会も設立16年の春を迎え、皆様の協会として心も新たにお役に立つべく努力をしてまいります。

新しい年が街づくりの元年として、充実した年になりますよう、お祈り申し上げます。

平成９年　元旦

財団法人
港北ニュータウン生活対策協会

年4回発行　平成9年4月発行

KOHOKU

街づくり通信

港北ニュータウンのセンター街づくり情報紙

NEW TOWN

'97 SPRING VOL.4

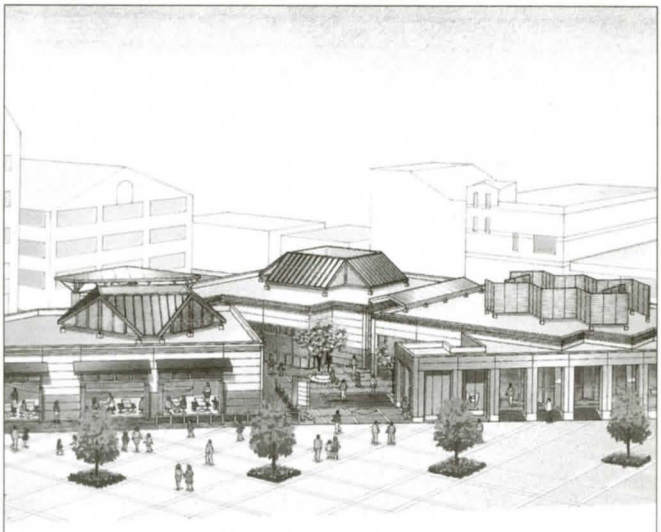
特集
港北NTにアカデミックな刺激をくれる
武蔵工業大学・環境情報学部。

DATA すくらんぶる
川和駅前センターの現況

WHO'S WHO
NTTデータ通信株式会社　第三公共システム事業部
地域情報システム開発担当課長
村岸由紀さん

PIONEER WATCHING
横浜駅東口の新生
『スカイビル』に見るヨコハマの未来像。

THE NEWS
総合公園に、『港北NT建設事業記念碑』完成！ 他



▲「パル・スポット仲町台」完成予想図



▲「パル・スポットセンター南」完成予想図

仲町台とセンター南の両駅前で建設中の複合商業施設「パル・スポット」が、間もなく相次いでオープンします。5月下旬にオープンする「パル・スポット仲町台」には、パン販売コーナーを併設したしゃれたフレンチ・レストラン「シェ・リュイ」と、書店「ゆうゆう堂」のほか、住宅・都市整備公団のPR展示館や、CATVのバーチャル・エヌ・タウン実験拠点となる情報発信施設が誕生予定。翌6月にオープン予定の「パル・スポットセンター南」には、レストラン「プリマベーラ」、中華レストラン「中華三十七番」、高級食品スーパー「紀伊国屋」と、住宅・都市整備公団のPR展示館、CATVの案内施設が誕生します。両施設とも、駅周辺ににぎわいを形成し、活性化させる拠点となることでしょう。

KOHOKU.NT. DATA

人口 / 約81,100人・世帯数 / 約28,000世帯
平成9年3月末日現在(区画整理地区内)

発　行　：財団法人　港北ニュータウン生活対策協会
編集協力：横浜市都市計画局／住宅・都市整備公団港北開発局

Special Issue
特集

地元の期待度も大!
港北ＮＴにアカデミックな刺激をくれる、武蔵工業大学・環境情報学部。

大学の新設・増設キャンパスは、人里離れた山の中というのが当たり前の世の中で、港北ＮＴの中川駅から歩いて５分という好立地に誕生した武蔵工業大学の環境情報学部。工学系単科大学が、社会科学系学部を新設した意図とは何か？　そもそも環境情報学部とは何か？　そして気になる周辺地域との調和は？

というわけで、さっそく新キャンパスを訪問。小沼通二学部長のご厚意により、貴重で興味深い講義(？)をしていただきました。



◀小沼通二学部長
理学博士(物理学)。慶応義塾大学名誉教授。日本物理学会会長(1987~88、1991~92)、パグウォッシュ会議評議員(1992~)、アジア太平洋物理学会連合会長(1994~)等を歴任。

期待度満点!
競争率47倍の人気学部スタート。

少子化が進み、定員割れする学部・学科も少なくないというのが、私立大学の現状。にもかかわらず、新設されたばかりで、定員160名に7,422名もの受験者を集め、競争率47倍という空前の狭き門となった大学学部、それが、中川駅から徒歩５分の場所に誕生した、武蔵工大・環境情報学部(敷地面積50,000㎡)です。

武蔵工大は、幼稚園から小・中・高まで計11の学校群を持つ学校法人五島育英会の中核的存在。多摩川のほとりに広がる閑静な住宅地の一角に工学部と大学院で構成される世田谷キャンパス(67,000㎡、河川敷グランド20,000㎡を含む)を有するほか、川崎市麻生区王禅寺の原子力研究所(84,000㎡)も有しています。この、工業系単科大学が、新たに社会科学系学部である環境情報学部を設立するべく、港北ＮＴに土地を取得したのは平成7年3月末。平成8年4月に起工式を行い、平成9年2月24日竣工。そしてこの春、第１期生を迎えたというわけです。

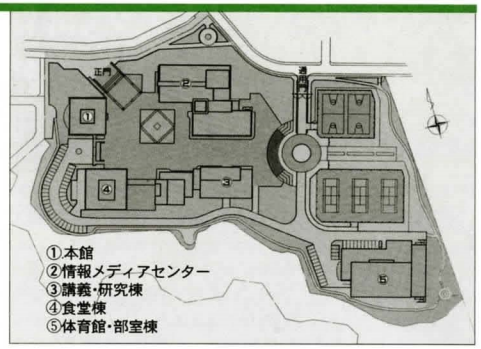
徹底した環境への配慮。
生きた教材でもあるエコ・キャンパス。

全国の学生たちの人気を集めたのは、時代を先取りした環境情報学部の基本理念にあることは間違いありませんが、駅から徒歩5分で都心まで30分程度、しかも豊かな自然に囲まれているという恵まれた立地条件も、大きな魅力のひとつでしょう。

気になるのは、周辺地域への影響ですが、第１種低層住居専用地域に隣接する北側の敷地には低層建物を集め、高層建物は南の保存緑地側に配置することで、近隣への日影や騒音等の影響に配慮。さらに、小沼学部長自ら入学式直後のオリエンテーションで、学内はもとより周辺でも、ゴミやタバコのポイ捨てをしないよう呼びかけたという話も。周辺住民にとっては歓迎すべきお話ですが、「周辺から文句が来る来ないの問題ではなく、これからの時代を支える人間の生き方の問題。環境情報学部の学生であれば、なおさらです」という、さわやかなコメントもいただきました。



また、新キャンパスの大きな特徴のひとつは、自然の光や風、雨水や太陽熱を活用したエコロジカルな設計と設備を持つ"エコ・キャンパス"であるということ。これは、エネルギーの節約ばかりでなく、自然と人間の共生を強く意識させるもので、学生たちにとっては、まさに生きた教材であると言えるでしょう。



文系・理系の壁も、専門分野の枠組みも越えた、まったく新しい人材育成。

では、環境情報学部とは、具体的にどんな学問なのか。

「世界的に社会の構造・状況は、ますます複雑化しつつあり、一元的なものの見方では、全体像をとらえきれなくなってきました。しかし、従来の学問体系は、専門領域という高い壁で仕切られた縦割りスタイルで、融合がなかなか難しかった。これからの時代には、文系・理系という枠組みはもちろん、専門分野の壁を取り払った横断的な学問体系こそ必要ですし、個人には、バランス感覚にあふれた思考力や判断力、表現力が求められているのです。

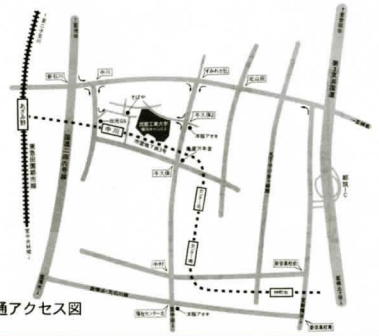
環境情報学部は、まさにそうした人材を育てたいという願いから生まれた学部。今、世界中で一番重要なキーワードとなっている環境と情報という問題を軸に、ものごとを立体的にとらえ、解決していけるゼネラリストを育成したいと考えています。」

情報環境学部では、このような考え方に基づき、斬新なカリキュラムを採用。たとえば、基礎科目には、応用数学や科学技術、情報処理の技術演習があるかと思えば、経済学や政治学もあるという具合で、まさに文系・理系の融合型。専門科目として設けられた[環境と都市]、[情報と文化]、[環境とマネジメント]の3分野でも、時代の先端を行くテーマを扱っています。

国内最高レベルを誇る、
学内ネットワークシステム。

学内を見学して圧倒されるのは、最新鋭の情報機器とネットワークシステムです。

本格的なマルチメディアパソコン演習室をはじめ、学内に配置された140台以上のコンピュータや、電子メールやWWWのための高性能サーバは、高速のネットワークで相互接続されており、インターネットの利用も可能。また、教室の全座席をはじめ、食堂、図書館、学生部室、ロビーや通路に至るまで、ありとあらゆる場所に情報コンセントが設置されており、ノートパソコンを接続すれば、いつでも学内ネットワークにアクセス可能。自宅のパソコンから、電話回線で大学に接続すれば、学内とほぼ同等の利用環境を得ることもできます。



▲交通アクセス図

また、日本の大学としては初めてＣＡＴＶネットワークシステムを導入しており、地域のＣＡＴＶ映像はもちろん、ＡＳＩＡＮ－ＳＡＴの衛星放送映像、教室で行われる講演会や研究会などの映像を、学内のどこからでも見ることができ、逆に、ケーブルテレビ会社との協力で学外へ情報を提供することも可能です。

こうしたネットワークシステムの中枢になっている情報メディアセンターは、プレゼンテーションラボ、情報処理演習室、映像メディア・ルームやメディアホールなどが設けられている日本でも最高レベルの施設。国際会議も行えるというプレゼンテーションラボで、高輝度・大画面のプロジェクターから映し出される衛星画像ひとつを見ても、ここで学ぶ学生たちの恵まれた環境を、うらやまずにはいられません。

きっと、おもしろいことが始まる？
地域と大学との、新しい関係。

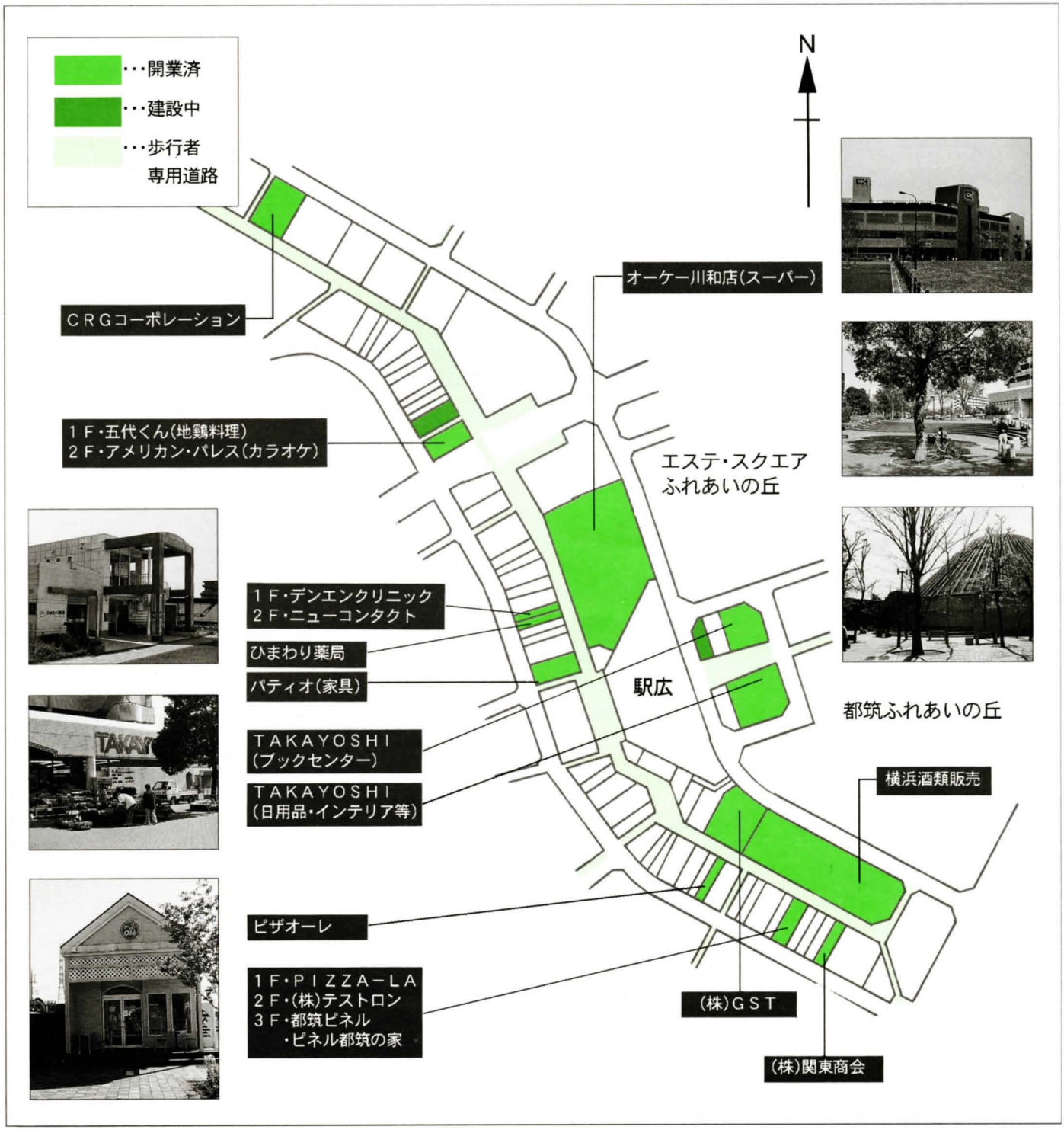
ところで、このキャンパスは、それ自体がオープンスペースのようなつくりで、塀もなければ垣根もなく、通り抜けも可能。もちろん、情報メディアセンターや図書館などに入館するには学生証(ＩＣカード)が必要ですが、「いろんな意味で開かれた大学にしたい」という方針に基づき、公開講義や一般向けの講演会などの開催や、学生の少ない時間帯に限りテニスコートや体育館を開放することも検討中とのこと。

「大学に対するご要望・ご提案があれば、どんどんおっしゃっていただきたい。すべてＯＫというわけにはいきませんが、我々のテーマである環境や情報について関心を持っていただく意味でも、地域の方々と、積極的に交流していきたいと思っています。実は、こうした私たちの思いは、決して片思いじゃなさそうなんですよ。」すでに町内会や地元のボランティアグループなどから、「学校案内パンフレットが欲しい」、「週末、留学生にお茶や食事を御馳走したい」といった積極的なアプローチが数多くあるとのこと。「港北ＮＴの方々の意識レベルの高さを感じています。おもしろいことが始まりますよ、これは!」という学部長の笑顔には、地域と大学の新しい関係への予感が満ちていました。

港北ニュータウン データすくらんぶる

川和駅前センターの現況(平成９年４月現在)

川和駅前センターは、昭和61年度の供用開始以降、市街化が進められてきた駅前センター。周辺には「エステ・スクエアふれあいの丘」をはじめとする閑静な集合住宅が集積しており、温水プールや体育館を備えたコミュニティセンター「都筑ふれあいの丘」も整備されています。駅前には商業施設はスーパーやディスカウントストアが開業し、生活利便性は確保されていますが、駐車場として暫定的に利用されている土地も多いのが現状。待ち望まれている横浜環状鉄道(日吉～中山間)の開通は、平成15～16年頃の予定。今後、加速度的な発展が期待されています。



WHO'S WHO

NTTデータ通信株式会社
第三公共システム事業部
地域情報システム開発担当課長
村岸由紀さん



バーチャル・エヌ・タウンは、港北ＮＴを活性化させる、“お茶の間メディア”です。

港北ニュータウンのCATV“ケーブルネットつづきの森”を活用して誕生する仮想の“街”＝バーチャル・エヌ・タウン。この“街”へは、お茶の間のテレビからリモコンを使って気軽に出掛けることができ、ショッピングやさまざまな生活情報の収集、そして街で出会った人とおしゃべりを楽しむこともできます。

その街づくりを行っているのは住宅・都市整備公団とNTTデータ通信(株)、(株)港北都市開発センター。7月1日の街びらき(実験開始)を前に、NTTデータ通信の村岸さんに、街の魅力を語っていただきました。

最大の目的は、港北ＮＴを愛すべき“ふるさと”にすること。

このプロジェクトがスタートしたのは平成５年。当時の港北NTは、日常の買物ができる店も少なく、ショッピングを楽しめるような街が形成されるのは、これからという状態でした。それなら、CATVのケーブルの中に電子の街をつくってしまおうというのが、バーチャル・エヌ・タウンの原点。

しかし、ただ単に利便性や楽しさを追求しようとしたわけではありません。あくまでも、港北NTという現実の街を、より魅力的に立ち上げるための情報インフラとして考えられたもの。さまざまな地域情報や生活情報を提供し、住民同士の交流の場を設けることで、港北NTの街づくりを支えるとともに、港北NTに対する“ふるさと意識”を持っていただければ･･･というのが、狙いです。

パソコンではなく、テレビで簡単にアクセスできる“お茶の間メディア”ですから、お年寄りから子供さんまで、毎日気軽に利用していただきたいですね。

住民参画の情報づくりで、暮らしをキメ細かくサポート。

バーチャル・エヌ・タウンで、どのようなサービスや情報を提供するべきかについては、NTTデータ通信が有識者の方々を含めた研究会を組織し、２年近い時間をかけて、じっくりと構想を練ってきました。しかし、地域情報という意味では、住民の方々のナマの声を聞くのが一番だと思うんですよね。

そこで、私たちは“アドバイザリーモニター活動にも力を注いできました。これは、都筑区と青葉区に在住の30～40代の主婦9名にモニターになっていただき、朝起きてから眠るまで、どのような行動をしているか、細かくレポートしていただき、その中でどんな情報が必要となってくるか、どんなニーズがあるかをリサーチするというものです。彼女たちとの検討会を繰り返すことで、数多くの貴重なアイデアを得ることができましたし、日常生活に密着したキメ細かい企画が可能になったと思っています。

インターネットやCATVによって生活情報や地域情報を提供したり、仮想商店街で通信販売を行うという試みは、今日ではさほど珍しくありませんが、構想づくりにこれほど時間をかけ、しかも住民参画で情報企画を行ったという例は、他にはありません。そういう意味でも、大いに期待していただきたいと思っています。

住民、自治体、企業。それぞれの、活性化を目指して。

7月の実験開始時点では、天気予報や交通情報、医療情報や地域情報などの情報サービスをはじめ、旅行や銀行関係の相談サービスをスタート。ショッピングでは、生鮮を含む食料品や日用品などを対象に、スーパーやディスカウント店など、14店舗が“開店”予定。いずれの店も地域を巡回して宅配してくれるという、“御用聞き型”販売システムで、すでに話題となっています。 まだまだ、情報量も店舗数も十分とは言えませんが、ぶらぶらとウィンドウショッピングをしたり、街角で出会ったご近所の方とおしゃべりをしたり、とりあえずは、気楽に“街”の散策を楽しんでいただきたいですね。

2年間の実験期間中には、自治体と連携して“つづきセンター”を開設したり、出店店舗も50くらいに増設する予定。しかし、現実の街と同様、電子の“街”も、そこを訪れる人の流れや志向、出店企業のアプローチ次第で、いかようにも進化していくものですから、可能性は無限大です。

たとえば、地権者や企業の皆さんが新規事業を立ち上げようという場合、ここで住民のニーズをリサーチすることも可能でしょうし、まずバーチャル・エヌ・タウンで開店してシュミレーションすることも可能でしょう。地元商店のバーゲン情報やチラシ情報も大歓迎です。

バーチャル・エヌ・タウンを通して、住民の方々はもちろん、自治体や企業がそれぞれに活動を活発にし、どんどん活性化していっていただきたい。そして、自分たちの街ができ上がっていく実感を、より強く感じていただきたいと思っています。

PIONEER WATCHING

横浜駅東口の新生『スカイビル』。今、ここからヨコハマの未来像が見える？！

丸井をキーテナントに迎え、昨年9月、リニューアルオープンした横浜駅東口の複合ビル『スカイビル』。その誕生は、隣接地でほぼ同時期に増床・リニューアルオープンした『横浜そごう』とともに、東口に新たな賑わいを生み出しただけでなく、横浜駅周辺全体の商圏に奥行きをつくり、新たな人の流れを生み出しています。また、横浜の将来を担う『みなとみらい21地区』や『ポートサイド地区』への、横浜駅からの玄関口としても、その機能が大きく期待されるところ。新生スカイビル誕生の背景から将来構想までをなぞると、21世紀の横浜が見えてきそうです。



▲スカイビル全景

横浜駅東口発展のパイオニア、旧『スカイビル』のあゆみ。

そもそも、旧スカイビルと言えば、横浜東口の発展を支えたパイオニア的存在。開業は昭和43年。地上11階・地下1階建で、10・11階の2層式回転展望ラウンジをはじめ、ショッピング街、バンケットホールや結婚式場、大型サウナ、劇場、体育館、ボーリング場などが入居。敷地内の別棟には、横浜初の室内温水プールもあるという、当時としてはまさに最先端のビルでした。

この『スカイビル』を建設した『(株)横浜スカイビル(旧:横浜駅前振興株式会社)』は、『スカイビル』の他にも、デパートビルや地下街の建設構想を持っていましたが、西口や関内方面とも一体化した開発を行うには、官民一体となった街づくりが必要という気運が高まり、地下街建設を行う『(財)横浜駅東口開発公社』、横浜新都市ビル建設を行う第3セクター『横浜新都市センター(株)』が相次いで誕生。これによって、昭和55年には東口地下街『ポルタ』が、昭和60年には『横浜そごう』をメインテナントとする『横浜新都市ビル』がオープン。『スカイビル』を含めたこれら3つの施設の完成によって、東口は、ほぼ現在に近い形を整えました。

しかし、構造的に地下街との接続が不可能だった旧『スカイビル』は、この時点ですでに時代から取り残された存在となっていました。また、昭和57年には三菱地所が『横浜スカイビル(株)』の株40%強を取得。翌年、同社が『MM21計画』に乗り出したことで、その表玄関口となる『スカイビル』のリニューアル計画が、一気に具体化。こうして、旧『スカイビル』はわずか24年の歴史を閉じ、平成3年5月に解体工事が開始されたのです。

多彩な機能、快適なアクセスを誇る新生『スカイビル』。

さて、新生『スカイビル』は地上30階・地下3階建。オフィスと商業施設の複合ビルで、その構成は大きく3つに分けられます。ひとつは、地下2階・地下1階と、地上2階～8階を占めるキーテナント『丸井横浜東口店』。2つ目は、丸井以外のサービス・商業テナント群『ヨコハマ　スカイ』。そして、オフィスです。

『ヨコハマ　スカイ』のうち、1階と10階・11階、27階～29階を中心に構成される飲食店群は『ヨコハマ スカイ ダイニング』、地下1階・1階・2階・9階の物販群は『ヨコハマ スカイ ショップス』、各階に点在するクリニック・サウナ・エステティック・教室等は『ヨコハマ スカイ サービス』と位置付けられています。

また、1階部分が成田や羽田への直行バスの発着所『YCAT』(横浜シティ・エア・ターミナル)になっているのも、大きな話題のひとつ。



◀スカイビル周辺図

この、非常に多機能かつ高密度な施設構成を見る限り、ビル内の動線がいかに明確化されているか気になるところですが、エリアやゾーンごとに印象的な材質、色、光、オブジェなどが採用することで、この難題をうまくクリアしています。

駅から『スカイビル』へは、地下街『ポルタ』を経由して地下2階のメインエントランスへ向かうか、2階部分のペデストリアンデッキを通ってアクセスするかの2WAY。隣接する『横浜そごう』とは、地下2階、地下1階、地上8階、9階、10階の連絡通路で直結しています。

ターゲットを広げて好調の丸井

リニューアルに際し、当初は隣接する『横浜そごう』が売場増床の意味で入居するという計画でしたが、バブル崩壊やデパート不況といった厳しい状況の中、計画変更。若者向き総合デパートを目指す丸井がキーテナントに決定しました。しかし、結果的にはこのことが、スカイビルのカラーを決定づける好機となったようです。

オープンから今年1月30日のまでの入館者数は約1000万人強と、予想を上回る好調ぶり。アンケートによれば、その約半数が20代で、1／4が30代。東口に若者を呼んだという意味で、丸井の果たした役割は大きいと言えるでしょう。

また、丸井の通常の客層は20代とされていますが、ここに限っては30～35歳までターゲットを拡大。お隣の『横浜そごう』から連絡通路を通ってやって来る人々にも、さほど大きな違和感を与えない、ちょっと大人っぽい雰囲気は、他の丸井にはないものです。



▲地下2階丸井エントランス



▲10階レストラン街の吹き抜け

わざわざ行きたくなる店舗構成。『ヨコハマ　スカイ　ダイニング』。

隣の『横浜そごう』をはじめ、西口周辺の百貨店等との差別化は、キーテナントに丸井を迎えたことでほぼ果たせたとも言えますが、もうひとつの大きな差別化となっているのが、飲食店街『ヨコハマ　スカイ　ダイニング』です。

実は、旧スカイビルに入居していた店舗のうち、解体・建設工事期間に仮店舗経営を行うのが難しい飲食店は、そのほとんどが他所へ移転。そのため、飲食店に関しては全店新規募集を行わなければなりませんでした。そこで『(株)横浜スカイビル』は、"わざわざ行きたくなる店"というコンセプトを立て、誘致に奔走。10・11階はカジュアルな飲食フロア、27～29階は大人のための飲食フロアと性格付け、店舗構成を行っています。

上層階は10・11階より多少価格が上がりますが、『ローストビーフの店・鎌倉山』、『コートダジュール・ミクニ』など、これまで複合ビルに出店したことのない有名店が揃っており、話題性も抜群。しかも、横浜という土地柄を考慮して各店と話し合い、あくまでもポケットマネーで楽しめる価格設定を実現したことも、大きな魅力につながっています。

『みなとみらい21』と直結した、24時間作動のターミナルへ。

『スカイビル』は、将来的に『MM21地区』とペデストリアンデッキで結ばれる予定。そうなれば24時間作動するジャンクション機能も加わります。また、1階の『YCAT』は、国内線ならびに全日空の国際線の搭乗手続きや、全日空国際線の荷物のセキュリティチェックも可能な本格的ターミナル。『スカイビル』は、文字通り横浜の多機能ターミナルビルとして、ますます多くの人々を集めることとなりそうです。

▼みなとみらい21地区を含む周辺地域。「スカイビル」は右端の高層ビル



THE NEWS

総合公園に、『港北ＮＴ建設事業記念碑』完成！

去る3月25日、総合公園に完成した『港北ＮＴ建設事業記念碑』の除幕式が行われました。この記念碑は、土地区画整理事業の竣工という、港北ＮＴ建設事業の大きな節目を迎えるにあたり、長年にわたる事業の経緯や関係者の努力、地域における歴史的意義を後世に伝える目的で作製されたもの。地元からの強い要望を受ける形で、地元４地区の協議会会長、横浜市港北建設部長、横浜市港北ＮＴ建設事務所所長、住宅・都市整備公団事業部長、同工事部長をメンバーとする「記念碑作成委員会」を中心に作製が進められてきました。式典には、地元、横浜市、住宅・都市整備公団の関係者ら約60名が参加し、高らかなファンファーレを合図に除幕。純白の幕が落とされると、ステンレス製の巨大な円環が出現しました。円環を形づくっている３つの弧は、未来に向かって発展する街・港北ＮＴの実現を目指し、一体となって力を合わせてきた「地元４地区協議会」、「横浜市」、「住宅・都市整備公団」の３者を表現したもの。碑文には、開発の経緯や基本方針などとともに、「･･･このニュータウンに住まい、集う全ての人々が誇りをもてる街となることを期待し、これを記します」と記されています。



街づくり通信 VOL.4

平成９年４月発行

街づくり通信編集室

〒224
横浜市都筑区荏田東４丁目10番３号
TEL:045(942)8745　FAX:045(942)8972

編・集・後・記

土地区画整理事業（基盤整備）が終了し、港北ＮＴ建設事業もいよいよ第２段階へ。それにともなって、この春はさまざまな式典が行われました。編集室にもセンター地区に誕生した新店舗から、情報提供のお便りが届いたりと、街の熟成ぶりや地権者や事業者の皆さんの熱意を肌で感じる日々。「街づくり通信」も、この新たな段階にふさわしい、ホットな情報をお届けしたいと考えています。 今後も、街の最新情報をはじめ、本紙へのご意見ご要望、ご感想等、どしどしお寄せください。お待ちしております。

街づくり通信編集室　一同

港北ニュータウン第１・第２地区土地区画整理事業　竣工式典開催！

港北ＮＴの第１・第２地区の土地区画整理事業の竣工式典・祝賀会が、3月27日、地権者をはじめ関係者多数が参加し、横浜アリーナにおいて開催されました。式典は、牧野徹住宅・都市整備公団総裁のあいさつでスタート。事業経過報告の後、亀井建設相代理・伴襄事務次官、神奈川県知事代理・田中允出納長、高秀秀信横浜市長ら来賓の挨拶が行われました。次いで、同事業に協力した地元地権者に感謝状が贈られ、受贈者を代表して中川住民協議会・金子保会長が謝辞を述べ、第１部は閉会。第２部の祝賀会が行われました。

■感謝状贈呈者■

●港北NT事業推進連絡協議会４地区
会長および副会長歴任者

【中川地区】
金子保、大嶋正三郎、佐藤鐵雄、
塚田良夫、野上政春

【新田地区】
山本光雄、村田豊作、吉田時雄、
中村信男、森正治、秋元喜作

【都田地区】
中山恒三郎、菅沼喜代造、信田隆治、
中山六郎、平野正二、信田幹郎、
佐野重雄

【山内地区】
松澤健三、青木公雄、大矢安夫、
徳江義治

●土地区画整理審議会第１・第２地区
会長および会長代理歴任者

【第１地区】
田丸政治、野村良博、皆川亮一、
大久保久夫、小口一、小島善治、
岸田秀男

【第２地区】
鈴木清、菅沼治元

（敬称略）



開港 150年 新たな夢のせて 文明開化

2008 オリンピック パラリンピック を横浜で
横浜市

年4回発行　平成9年7月発行

KOHOKU

街づくり通信

港北ニュータウンのセンター街づくり情報紙

NEW TOWN

'97 SUMMER VOL.5

特　集

地域の活性化、新しいコミュニティづくりにも貢献？！7月から実験スタート！

テレビの中の電子の「まち」Virtual n-Town。

DATA すくらんぶる

佐江戸近隣センター・茅ヶ崎センターの現況

WHO'S WHO

（株）日本ガストロノミー研究所
シェ・リュイ仲町台店　店長

平田幸男さん

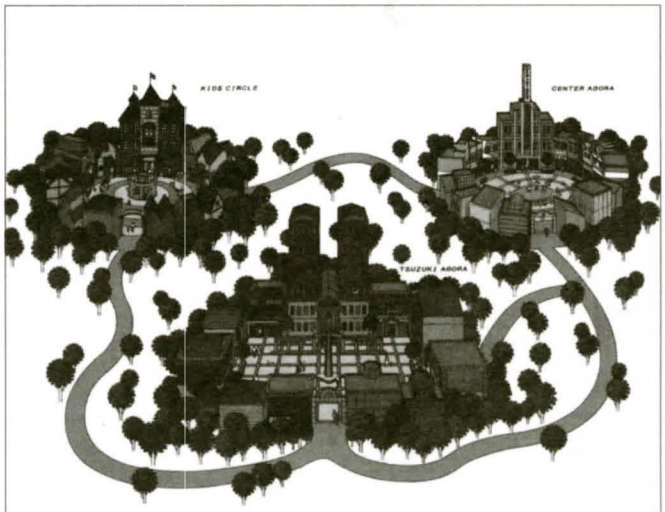
PIONEER WATCHING

この夏、注目度NO.1　都内唯一のビーチサイド複合商業施設

『デックス東京ビーチ』。

THE NEWS

なるほど・便利・おもしろ情報満載！
住宅・都市整備公団が開設した **港北NTホームページにアクセスしよう！！** 他



▲7月から港北NTで実験開始された電子の「まち」
Virtual n-Town イメージ図



▲仲町台駅前のVirtual n-Town 工房

仲町台駅前の複合商業施設「パル・スポット」にオープンした『Virtual n-Town工房』は、この7月から実験開始されたCATVによる双方向通信サービス『Virtual n-Town』の情報発信拠点。ここには、各種の情報端末やAV編集機器などが備えられており、利用者やIP(情報提供者)の情報制作・発信をサポート。また、工房内には実験の体験コーナーもあり、『Virtual n-Town』のサービスを誰でも気軽に体験できます(予約制)。

●Virtual n-Town 工房　☎045-945-1258
●月曜～土曜日10:00～17:00(日曜・祝日休館)

KOHOKU.NT. DATA

人口/約83,600人・世帯数/約29,000世帯
平成9年6月末日現在(区画整理地区内)

発　行　：財団法人　港北ニュータウン生活対策協会
編集協力：横浜市都市計画局／住宅・都市整備公団港北開発局

Special Issue
特　集

～地域の活性化、新しいコミュニティづくりにも貢献！？～

7月から実験スタート！ テレビの中の電子の「まち」Virtual Town。

港北NTで、ケーブルテレビ(CATV)『ケーブルネットつづきの森』を利用した電子の「まち」バーチャル・エヌ・タウンの実験が、この7月からいよいよ開始されました。これは、住宅・都市整備公団港北開発局と(株)港北都市開発センター、NTTデータ通信(株)が共同で行うもので、テレビの画面上で買い物や情報交換ができる、双方向通信サービスのこと。実験は2年間にわたって行なわれる予定です。このサービスが、利用者の暮らしやをコミュニケーションをどう変えていくのか、その行方が港北NTはもとより、幅広い地域・分野から注目されています。


▲リモコン操作中の女性

1,000世帯(約3,500人)が対象。誰もが気軽に散歩できる電子の「まち」。

このプロジェクトがスタートしたのは、平成6年。当時の港北NTは、ショッピングを楽しめる商業地区の整備もこれからという状態。そこで、CATVのケーブルの中に電子の「まち」をつくってはどうか…というのが発想の原点でした。その後、住都公団港北開発局と(株)港北都市開発センター、NTTデータ通信(株)が共同で調査・研究を重ね、今回の実験開始に至っています。

実験は、港北ニュータウンの集合住宅『プロムナード仲町台』(都筑区仲町台)と、『ビュープラザセンター北』(都筑区南山田)という限定されたエリアが対象。その中で居住者にモニターを募り、約1000世帯(約3,500人)規模で行なわれます。

費用はハード・ソフトともに実験主体側が負担するため、新たにモニター家庭が負担するのは、電気代のみ。ＳＴＢ(セットトップボックス)、ICカードリーダーなどの機器を設置しさえすれば、自宅のテレビでサービスを利用できるという仕組み。操作にはゲーム機のようなリモコンを使用するため、お年寄りや子供、キーボードに弱い人でも簡単に使いこなせます。

利用者には、あらかじめ利用者登録をしてもらい、個人認証のためのICカードを発行。このICカードをカードリーダーに差しこめば、「まち」へのアクセス準備完了。画面には、自分の顔写真をつけたキャラクターが登場し、「まち」を自由に歩き回ることができます。同時に、他の利用者の姿も画面に現われますから、現実の街と同様、人気のスポットに人だかりができるということも。「まち」で出会った人とはマイクを通じておしゃべりをすることも可能。顔写真で相手が誰かもわかりますから、偶然出会った知人に挨拶したり、「まち」で待ち合わせをすることもできるというわけです。

バーチャル・エヌ・タウンで利用できるサービスは大きく分けて3つ(左頁の枠内参照)。いずれも日常生活の中で活用できる、地域密着型のサービスを目指しています。

地域密着型が魅力の【情報提供サービス】

バーチャル・エヌ・タウンの特徴は、地域密着型の情報が主体であること。たとえば、地域を限定した気象情報や交通情報、イベント情報やレジャー情報、地元商店街の情報、さらには病院情報など、日常生活に密着したその地域ならではの生活情報が満載されています。また、「あげます・ください」といったリサイクル情報、ボランティア情報やサークル情報もあり、街の掲示板を見る感覚で楽しめそうです。

利用者はICカードて個人認証を受けますから、ひとりひとりのニーズに合わせた情報サービスを受けることも可能。たとえば、勤務先の気象情報や交通情報など、毎朝確認したい情報をオリジナル・メニューとして設定しておくこともできます。

ご用聞き感覚がうれしい【ショッピングサービス】

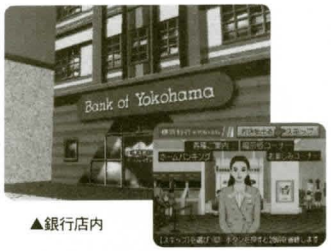
EC(電子商業)はインターネットでもおなじみですが、バーチャル・エヌ・タウンのショッピングは、生鮮食料品や日用品など、日常性の高い買い物ができるのが特徴。また、買った翌日のうちに届けてくれる"宅配サービス"や、家に居ながらにして動画や音声のやりとりをしながら直接店員に相談できる"相談サービス"など、"ご用聞き"感覚のキメ細かなサービスを受けられるのも、大きな利点です。

銀行も店を構えており、横浜銀行では国内初のホームバンキングを実施。残高照会、他の金融機関への資金移動、クレジットカードの決済などの銀行決済が可能です。現在、スーパー、眼鏡店、家電販売店、旅行会社、銀行などの13社が出店していますが、実験期間中には50店舗が開設される予定です。

マイクを通して気軽に会話【コミュニケーションサービス】

先にも紹介したように、バーチャル・エヌ・タウンでは、利用者同士、利用者と店員で音声による会話が可能。実験前のモニター調査でも一番人気が高かったのが、この会話機能です。電話のようにスムーズというわけにはいきませんが、不特定多数を対象とするインターネットでの会話と違い、利用者全員がICカードによって個人認証された地域の人ばかりですから、安心して気軽な会話を楽しめます。

また、仲町台駅前に開設された『バーチャル・エヌ・タウン工房』に原稿を持ち込めば、文書や絵を「まち」の掲示板に掲載することができます。



▲銀行店内



◀ICカード

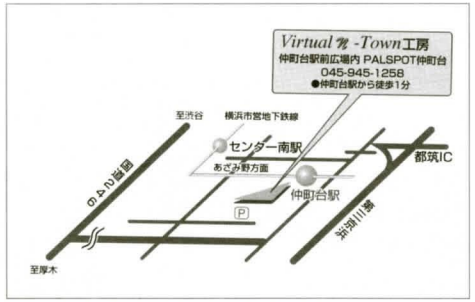
地域商業はどうなる？気になるショッピングサービスの今後。

さて、バーチャル・エヌ・タウンの可能性はまだまだ未知数です。

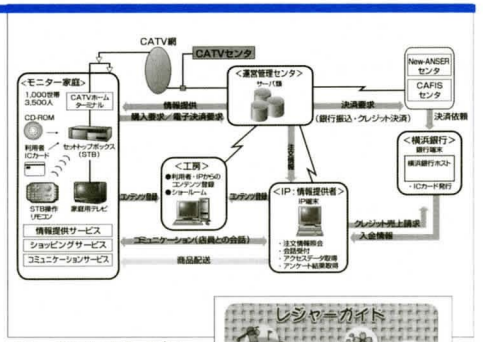
たとえばショッピングサービス。EC(電子商業)はまだ新しい商業形態ということもあり、ソフト制作や宅配のシステムづくりなどにかなりの費用と時間を要します。しかし本来は、実際の街に出店する際の店舗建設・開設といった費用と時間がかからない分、低コスト・短期間での出店が可能なはず。今後、EC(電子商業)のソフトづくりに関するノウハウが確立・一般化すれば、地元商店はもちろん、ありとあらゆる企業にとって、大きなビジネスチャンスの場となるでしょう。

また、地域商業の活性化という意味でも、さまざまな可能性が考えられます。たとえば、商店等がチラシを出す場合、通常は何日も前に原稿を入稿しなければなりませんが、バーチャル・エヌ・タウンに広告を出すなら、開店の5分前でもOK。生鮮食料品であれば、その日の市場価格に応じた広告が可能です。

「地元商店さんには、セール情報、お買い得情報などをどんどん掲載していただきたい」とNTTデータ通信(株)第三公共システム事業部・地域情報システム担当の村岸課長も積極的。



▲バーチャル・エヌ・タウン工房の交通アクセス図



▲バーチャル・エヌ・タウンのシステム概要



◀▲バーチャル・エヌ・タウンのアクセス画面例

「ECが普及し、買い物がどんなに便利になっても、現実の街でウィンドウショッピングをする楽しみや、商品を実際に手にしたいという感覚までなくなるとは思えません。むしろ、電子の「まち」と現実の街との接点を創造することで、相乗効果を上げられるはず」と、地元商店に対し、今後さらに熱いラブコールを送っていく考えです。

市民会議やマーケティング・リサーチの場としても有効。

情報サービスの分野では、市や区からのお知らせ、公益的な行政情報も、テレビという身近なメディアを通して発信すれば、生活者と行政の、より密接な関係を生み出せるでしょう。

また、コミュニケーションサービスの分野でも、"双方向通信"という特性を活かした、新しい活用法が考えられます。たとえば、テレビ上で市民会議や座談会を開くことも可能。リアルタイムで消費者の声を聞き、意見交換できますから、企業のマーケティング・リサーチの場としても、魅力的でしょう。

さらに、インターネットとのリンクも技術的には充分可能。将来は、地域間コミュニケーションや、広域的な情報交換も実現するかもしれません。

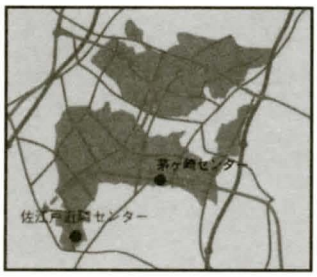
■

バーチャル・エヌ・タウンが、実験期間中にいかに利用者の生活に溶け込み、情報インフラとしての地位を確立できるかは、その後の展開に大きく影響していきます。NTTデータ通信では、"地域の活性化"や"新しいきずなづくり"を提案していきたいとしていますが、この理想が実現し、2年後の港北NTがより魅力的な街になっていることを期待したいものです。

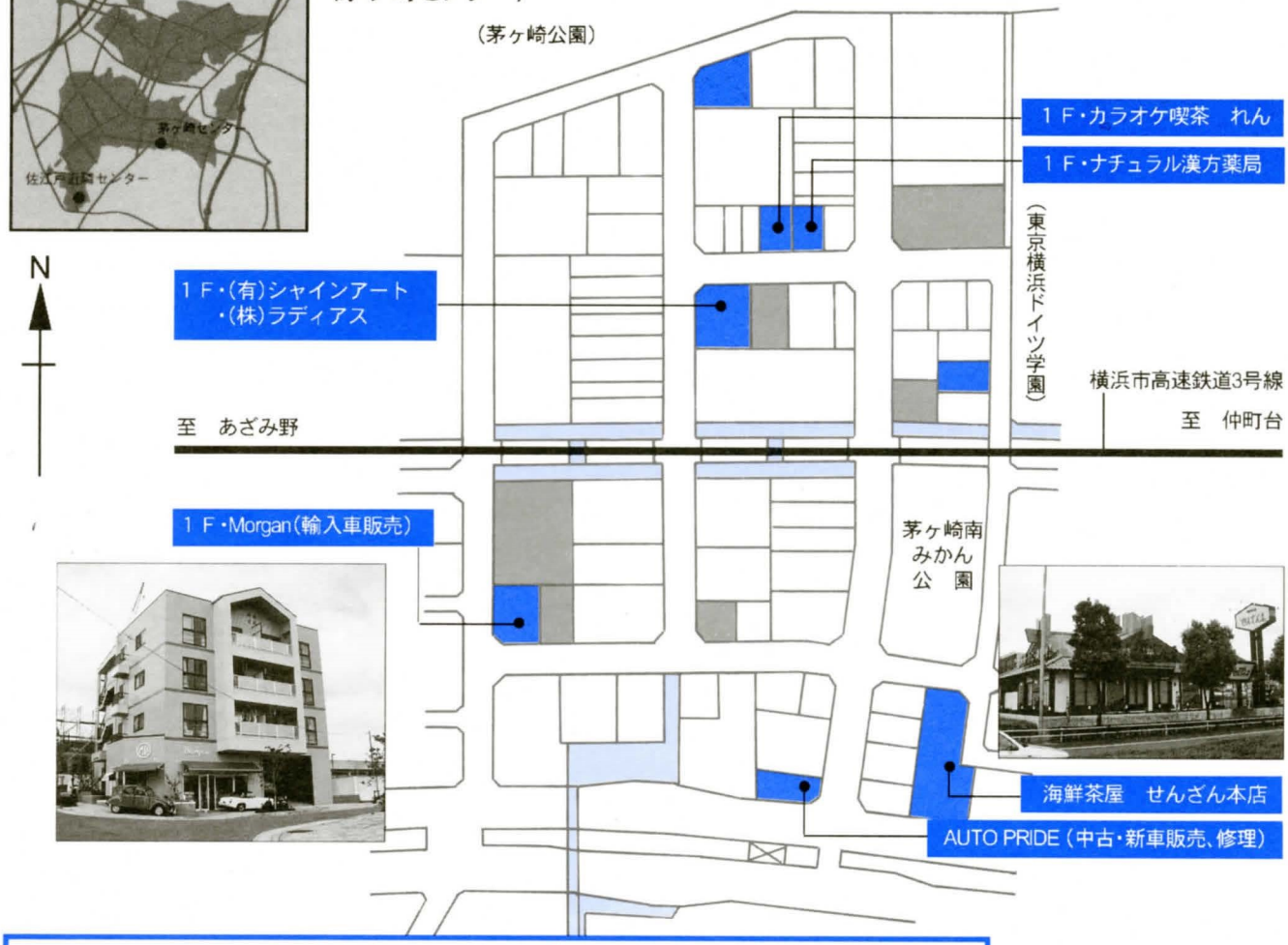
港北ニュータウン データすくらんぶる

佐江戸近隣センター、茅ケ崎センターの現況(平成９年７月現在)

佐江戸近隣センターは、昭和63年に供用開始された近隣センター。センターの南側には公団と県公社のシンフォニックヒルズふれあいの街、シンフォニックヒルズかがやきの街が立地。また、西側には日立製作所や京セラの研究施設も立地しています。一方、北側緑豊かな茅ケ崎公園を臨む茅ケ崎センターは、東京横浜ドイツ学園や洗足学園とも隣接する、アカデミックな雰囲気漂うセンターで、供用開始は平成8年。最近、センター内には1階にテナントスペースを持つマンションが次々と建設されており、人口定着に合わせた発展が期待されています。

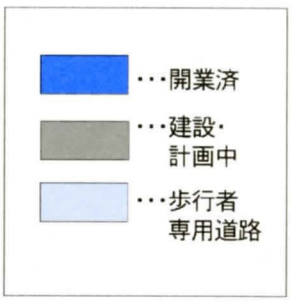


〈茅ケ崎センター〉



〈佐江戸近隣センター〉

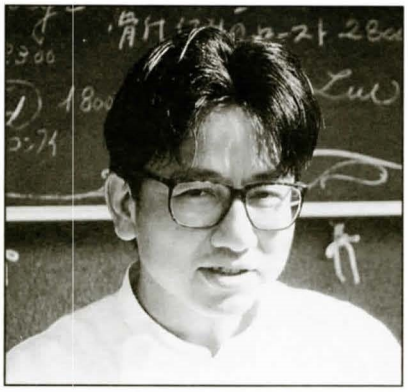




WHO'S WHO

(株)日本ガストロノミー研究所
シェ・リュイ仲町台店　店長

平田幸男さん



プロフィール

昭和34年9月10日大阪生まれ。38歳。23歳で(株)日本ガストロノミー研究所入社。パン・ケーキの職人として腕を磨き、代官山店、祐天寺店、麹町店等の店長を経て、現在に至る。

おかげさまで、すっかり駅前の顔。
もう、来ていただけましたか？シェ・リュイ仲町台店。

「仲町台だからどうする」ではなく、「シェ・リュイとしてどうするか」が店づくりの基本。

シェ・リュイは、パン、ケーキ、アイスクリーム等の店やレストランなど、計13店舗を都内都心部に展開しており、仲町台駅前の複合商業施設「パルスポット」にオープンした仲町台店で、14店舗目。これまでの店は、代官山、恵比寿、六本木、下北沢など、かなりメジャーな場所にありましたし、工場も都心への配送に便利な大田区にありますから、初めて仲町台に出店と聞いたときには、正直言って「なぜ、そんな所に？」と思いました。港北NTに対する知識が少なすぎたせいもあるのですが、都心ではなく“郊外”というイメージがあって、他と同じ価格設定・商品構成ではだめじゃないかとか、店の雰囲気も他とは違うものになるのではないかなどと、考えたわけです。しかし、実際にはそんな心配は全く必要ありませんでしたね。

シェ・リュイは、フレンチを基本として、おいしいもの、良いものを追求し続けており、それを求めてくださる人が多い所に店を出してきたわけですが、この仲町台にも、まさにそういう方々が大勢いらっしゃるんですよね。実際にオープンしてみて、ますますそのこと実感しています。

ともかく、味はもちろん、価格、商品構成ともに、仲町台だからということで、特別なことはほとんどしていません。仲町台店だからどうするかではなく、シェ・リュイとして、どこまで優れた味やサービスを提供できるかの勝負だと、改めて感じています。

画期的！　お子様用椅子・メニューのある本格フレンチレストラン。

とは言え、仲町台店には、他にはない特徴がいくつかあります。まず、敷地面積が約83坪という、都心ではなかなか得難い広さであるということ。また、そのうち約50坪が工場(厨房)で、ここだけでパン、ケーキを製造・販売すると同時に、それらを食べていただける本格フレンチレストランも併設されているということ。クッキーやアイスクリームなど、一部は大田区の工場から配送されてきますが、ほとんどは仲町台工場で生産しているということです。

そして、もうひとつ。レストランでは、お子様用の椅子とメニューをご用意しているということです。普通、本格フレンチレストランで、お子様用の椅子やメニューを置くなんて、考えられませんよね。しかし、この場所で子供を拒否するわけにはいかないと思うんです。もちろん、お子様メニューと言っても、いわゆる“お子様ランチ”じゃありませんよ。味に厳しいシェフが工夫を凝らしたこだわりの品。「たまには、奥さん孝行のためにフレンチレストランにでも行きたいが、子供が小さいので無理」という若い人たちにも大変喜んでいただいているようです。

今後は、仲町台を拠点に、多店舗展開の予定。

特に宣伝などしていませんが、おかげさまで、口コミで評判が広がり、周辺だけでなく車で遠くからいらっしゃるお客様も大変多いですね。売上はシェ・リュイ全店でもトップ。特にレストランなどは、オープン以来、全く変わらない好調さをキープしています。自画自賛になりますが、こうして改めて仲町台の駅前を見てみると、シェ・リュイがとても自然に溶け込んでいるというか、オープンテラスの雰囲気も、駅前周辺のイメージアップにもなっていると思うんですよね。

そう言えば先日、仕事で久し振りに都心へ行ったら、今までこんなにうるさい、ゴチャゴチャしたところにいたのかと改めて思いました。それにひきかえ、仲町台はのんびりしていて、人間らしい感じでいいですよね。こういう自然の多い、美しくてほのぼのとした街で、その街に溶け込みつつ、皆さまに喜んでいただける店づくりをする喜びを味わえて、本当に良かったと個人的にも思っています。

これまでのシェ・リュイは都心部中心の展開でしたが、もっと多くの人にシェ・リュイを知っていただきたいし、今後は、ここを拠点に周辺地域から横浜方面にかけて店舗展開していく予定です。もともと、仲町台店の工場は、それを想定してつくられていますし、今後10年の間に10店舗くらい、できれば広めの店を出していけるといいですね。

港北NTでは、センター南・北に大きな百貨店ができますし、仲町台ももっともっと成熟して、競合店もたくさん出てくるでしょう。しかし、それは、私たちにとっても大変良いことだと思っています。たとえば、パン屋のない街に、パン文化は生まれないし、育たない。逆に、多くのパン屋があれば、それだけ豊かなパン文化が育つということですから。問題は、競合店のあるなしではなく、立地条件。そしてもちろん味。それには、自信がありますから。

PIONEER WATCHING

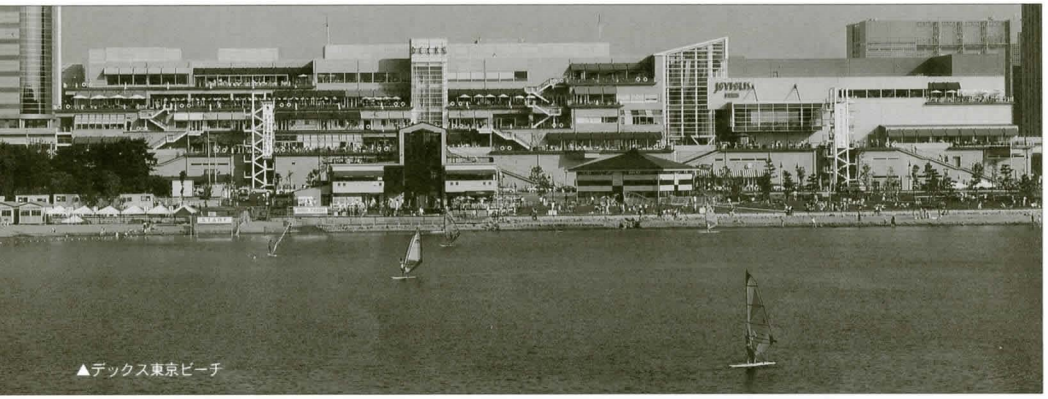
この夏、注目度NO.1。

都心で唯一のビーチサイド複合商業施設

『デックス東京ビーチ』

DECKS Tokyo Beach

お台場と言えば、この夏、首都圏でももっとも注目を集めるエリア。中でも、『デックス東京ビーチ』は、中高生から若者、子供連れの主婦、高齢者まで、あらゆる層が続々と訪れるトレンディ・スポットとなっています。バブルの崩壊、都市博の中止など、社会情勢によって大きく翻弄されながら、都市としての活動を開始した臨海副都心にあって、それでもこれほどの活況を示している要因は何なのか。『デックス東京ビーチ』の管理・運営母体である(株)住商開発センター・台場事業所　副所長　金子隆さんにお話を伺いました。

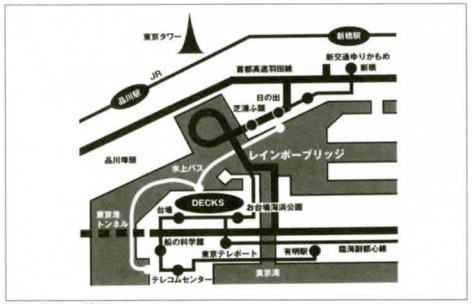


▲デックス東京ビーチ

情勢の変化に翻弄され続けた事業計画。

東京・新橋から東京臨海新交通『ゆりかもめ』に乗り、レインボーブリッジを渡ると、緑の浮き島と白いビーチの向こうに、赤・青・黄・緑などのシェードが鮮やかな建物が見えてきます。これが、昨年夏オープン以来、話題のスポットとして注目を浴び続けている『デックス東京ビーチ』。都心で唯一ビーチに面した複合商業施設です。

臨海副都心(レインボータウン)のお台場地区にある敷地面積約19,000㎡の区画。この場所の開発コンペが行なわれ、住友商事ほか6社がみごと当選を果たしたのは1990年10月。しかし、その喜びもつかの間。バブルの崩壊、都市博の中止と、急激な社会情勢の変化に翻弄され続け、一時は事業そのものの見直しまで考えたと言います。しかし、新しい施設コンセプトを模索する中、セガ・エンタープライゼスの出店が決定して、ようやく再スタート。事業計画は2期に分けられ、昨年7月に第1期分オープンに至ったというわけです。



▲アクセス地図

ロケーションを活かした"アウトドア志向"。デッキスペース4,500㎡のシーサイド複合商業施設。

『デックス東京ビーチ』は地上6階建、延床面積42,500㎡。館内は、34の物販店と23の飲食店、そして『東京ジョイポリス』で構成されており、1〜2階は駐車場(1階路面は物販店と飲食店)、3〜4階が物販、5〜6階は飲食フロア。そして『東京ジョイポリス』は、西側の3〜5階を占めています。

銀座という近隣大商圏との競合を避け、新たに打ち立てられた施設コンセプトは"アウトドア志向"。設計面でも海を望むロケーションを最大限に活かしています。

特筆すべきなのは、デッキスペースの多さ。『ゆりかもめ』のお台場海浜公園駅から続くペデストリアンデッキのある3階を中心に、4・5・6階の各階の海側をセットバックさせ、ウッド・デッキを設置。全館で約4,500㎡ものデッキスペースが設けられています。特に飲食関係ではこのデッキスペースが人気です。

ロケーションを活かす工夫は、『東京ジョイポリス』でも好評。



▲デックス東京ビーチの5階。奥に見えるのが地ビール工場。

たとえば、スリル満点の屋内コースター・アトラクション『レイルチェイス・ザ・ライド』は、そのコースが屋外へも続いており、コースター上からレインボーブリッジなど、東京湾の雄大な景色が一望できます。また、6Fには海側のデッキに続く出入口があり、遊び疲れたら潮風に吹かれながらひと休み、ということも可能。外界と隔絶された閉鎖的空間と、海の見えるロケーションという一見ミスマッチな絶妙の組み合わせが、『東京ジョイポリス』の大きな魅力のひとつになっているようです。

その効果もあってか、新宿高島屋のジョイポリスよりもさらに広い3000坪の館内は、休日ともなれば中高生や若いカップルで溢れかえる人気。3月には早くも来場者数100万人を突破しています。

視察・見学者も続々！集客力・宣伝効果抜群の地ビール。

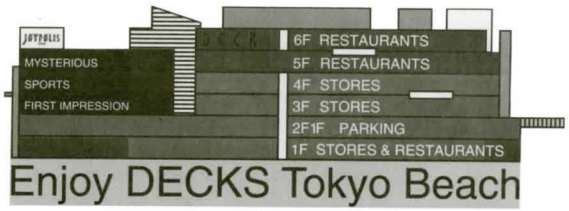
さて、デックスの物販系フロアを歩いていて気付くのは、アパレル(衣料品)系テナントが少ないこと。ほとんどは、アウトドア用品やインテリア、雑貨の店となっています。各々の面積が広めで、品揃えが豊富という特徴はあるものの、このような商品構成だけでどれだけの集客力があるのか、売上に影響はないのか、気になるところです。しかし、年間約1300万人もの来館者があるため「売上は好調」とのこと。また、一部のアパレル系テナントを除いて、基本的にバーゲンを行なわない方針のため、粗利も大きいとのことです。



"アルト"　"ケルシュ"

しかし、なんと言っても売上が大きいのは、飲食関係。夜景も含めた外景が高く評価されて、オープン以降の人気も予想以上。また、ここには、地ビールという、大きな目玉もあります。5階に住商開発センターが経営するガラス張りの地ビール工場があり、館内6つの飲食店で飲むことが可能。この地ビール『台場地麦酒』は、ビールの本場・ドイツの地ビール醸造所の伝統ある製法を手本に、"ここならでは"の味を目指したもの。

雑誌やテレビで紹介されたこともあって、取扱店の人気は圧倒的。地ビール目あてのリピーターも多く、大きな集客効果を生んでいます。視察・見学に訪れる企業も多いそうですが、金子氏は、「まずいものをつくったら逆効果。これだけの人気とリピーターの多さを支えているのは、やはり味です」と、キッパリ。実際、専門家からも高い評価を受けているとか。

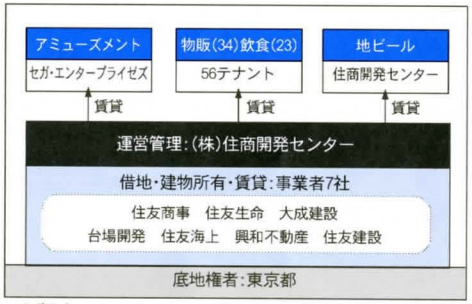


▲デックス東京ビーチ断面図

シーサイドの飲食テナントの場合、冬場の売上低迷が心配されがちですが、地ビール効果も功を奏し、年間を通してほとんど変わらない好調な売上を維持しているそうです。

2001年へ向け、第2期計画スタート！

『ゆりかもめ』等で臨海副都心をめぐり、デックスで食事やお茶を楽しむというのは、今や若者だけでなく、主婦たちの人気コースのひとつ。平日はベビーカーを押すヤンママ、お年寄りのグループも目立ちます。また、近隣のオフィスビルのビジネスマンやOLたちのランチスポットとしても定着。フジテレビ本社の完成以降は、フジテレビ見学者や、アイドルの"追っかけ"グループも加わってさらに盛況。休日、圧倒的に多いのは『東京ジョイポリス』目当ての中高生や若いカップルたちですが、最近では、はとバスのコースにもなったため団体客も増え、韓国や台湾などアジアからの観光客も目立ちます。



▲事業形態

とにかく、館内をざっと見渡しても、その客層の幅広さが目につデックス。この1年間の売上も、目標を大きく上回っているとのこと。都市博中止が決定されたときの、暗く重々しい見通しなど、まるで別世界のことのように感じられます。

しかし、「立地する街自体が、まだ開発途中ということもあり、事業全体として厳しい状況にあることは変わりありません」と、あくまでも冷静な語調の金子氏。2001年には、臨海高速鉄道が大崎まで延伸される予定で、デックスではそれに合わせて第2期計画を完成予定。予定地は現在臨時駐車場として使用していますが、その開発は、事業全体の最終的な成否を握る鍵となるため、住商開発センターとしても、まさにこれからが勝負、というわけです。

THE NEWS

住宅・都市整備公団港北開発局が開設した 港北ニュータウンのホームページにアクセスしよう!!

なるほど・便利 おもしろ情報 満　載!

住宅・都市整備公団
港北開発局ホームページ
http://www.hud.go.jp/kouhoku/index.html

　住宅・都市整備公団　港北開発局では、今年始めより港北NTのホームページを開設しています。

「集う」「暮らす」「学ぶ・憩う」というテーマ別に港北NTの概要を紹介するコーナーや、港北ニュータウンの基礎知識コーナー、賃貸・分譲住宅、宅地分譲、業務用地を紹介するコーナーなどが常設されており、港北NTをまるごと知ることができる情報が満載。また、その時々のトピックス紹介するコーナーもあり、現在は、仲町台とセンター南に誕生した複合商業施設『パルスポット』の情報や、港北ニュータウンで開催されたフォトコンテスト受賞作を紹介中です。

　交通アクセス情報や公園紹介など、役立つ便利な情報、楽しい情報もいっぱい。ぜひ、アクセスしてみて下さい。



街づくり通信 VOL.5

平成９年７月発行

街づくり通信編集室

〒224
横浜市都筑区荏田東４丁目10番３号
財団法人 港北ニューターウン生活対策協会内
TEL:045(942)8745　FAX:045(942)8972

編・集・後・記

◆盛夏。一段と暑さが募る日々、いかがお過ごしでしょうか。つい数年前までの港北NTの夏と言えば･･･むき出しの造成地に太陽が照り付け、すれ違うのは工事車両ばかり。ダンプの巻き上げる粉塵に、暑さが一層増すような気がしたものでした。しかし今年の夏は、近隣のプールへ向かう子供たち、ノースリーブの若い女性たち、夏休みを楽しむ中高生たちでセンター地区にもそれなりの賑わいが生まれており、港北N T にも本当の夏が来たのだな、という気がします。

◆さて、街づくり通信編集部では、港北N T の夏から秋へかけての情報を募集中。話題となりそうな新スポット、商店のイベント情報、この夏の港北NTでの思い出など、何でもかまいません。どしどしお寄せください。本紙へのご意見・ご希望・ご感想等も、併せてお待ちしております。

街づくり通信編集室　一同

従業員の方々の社宅・寮の確保をお手伝します。

社宅・寮でお困りの事務所はありませんか。また、現在使用していない社宅・寮をお持ちで、賃貸希望のある事務所も探しています。横浜市では、市内の大手企業の未活用物件を、地元中小企業が共同で低料金で賃貸できるシステムを考えています。このシステムに関心または希望のある方、または賃貸したい物件をお持ちの方は、電話またはファックスで下記までご連絡ください。

●横浜市経済局産業振興部共同化推進担当（担当：玉木または佐藤）
TEL：045-671-3492　FAX：045-664-4867

年4回発行　平成9年10月発行

KOHOKU

街づくり通信

港北ニュータウンのセンター街づくり情報紙

NEW TOWN

'97 AUTUMN VOL.6

特　集

オープンまで待ちきれない!港北NT・タウンセンターの大型複合商業施設、

注目の最新情報リリース

○頁を記入

DATA すくらんぶる

市営地下鉄3号線 各駅1日当たりの乗車人員 他

WHO'S WHO

株式会社紀ノ国屋　本社
CR推進室課長

天野恒治さん

PIONEER WATCHING

中野区南部の新たなる拠点

中野坂上の再開発による街づくり

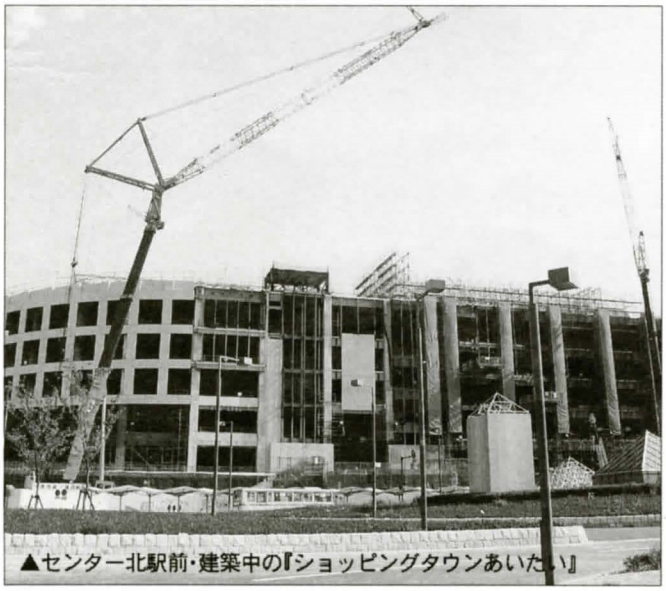
THE NEWS

家具・家電・スポーツクラブ等の複合商業施設！

『パインクリエイトビル』センター南に12月初旬オープン！



▲センター南駅前・建築中の『港北東急百貨店S.C.』



▲センター北駅前・建築中の『ショッピングタウンあいたい』

今年に入って数多くのビルの竣工が相次ぎ、街の具体的な将来像が徐々に見えてきた港北ニュータウンのタウンセンター。その中心であるセンター南・センター北両駅の駅前広場周辺でも、営業を開始した施設・店舗が少しずつ現れ、今年末から来年春にかけてオープン予定の多数のビルも、急ピッチで工事を進めています。特に、今年夏、駅前に複合商業施設「パルスポット」がオープンしたセンター南駅周辺は、土・日ともなると小さな子供を連れたファミリーやカップルなどで賑わいを見せるようになり、さらなる街の熟成を心待ちにする周辺住民たちの、週末を楽しむスポットのひとつとなっています。

KOHOKU.NT. DATA

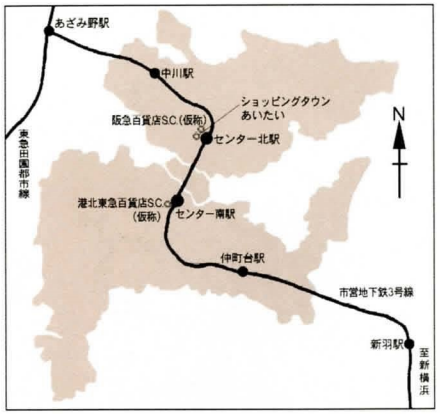
人口/約85,400人・世帯数/約29,600世帯
平成9年9月末日現在(区画整理地区内)

発　行　：財団法人　港北ニュータウン生活対策協会
編集協力：横浜市都市計画局／住都公団 神奈川地域支社 港北開発事務所

Special Issue
特　集

オープンまで待ちきれない！港北NT・タウンセンターの大型複合商業施設、注目の最新情報リリース

多機能複合都市を目指す港北NTの中心、タウンセンター地区。その発展の起爆剤とも言える３つの大型複合商業施設の建設が、現在着々と進行中です。街づくり通信では、これらの施設の最新情報を各施設の開発および広報担当者から入手。港北NT内外から注目されている各々の施設の特徴や魅力についてレポートします。



ショッピングタウンあいたい
平成10年4月開業予定

ショッピングタウン
あいたい

●所在地　／横浜市都筑区中川中央１丁目１番
●施行者　／住宅・都市整備公団
●管理運営／株式会社港北都市開発センター
●構　　造／地下4階・地上6階
●敷地面積／約3,880㎡
●建築面積／約3,620㎡
●延床面積／約29,500㎡
●駐車場　／119台

●テナント構成
6階　【アミューズメント】ボウリング場
5階　【専門店＆サービス】
書籍・文具・楽器・ドラッグ・メガネ・理容・美容・不動産・旅行代理店・歯科クリニック
4～3階　【カフェ＆レストラン】
和食・中華・焼肉・イタリアン・居酒屋
【カジュアルファッション】
婦人服・靴・生活雑貨・インポートブランドショップ
2階　【ライトカフェ】
ファーストフード・カフェ・フードコート
【ノースマーケット】
生鮮３品・ベーカリー・惣菜・洋菓子・茶・のり・花
1階　【ファイナンス】４つの金融機関と郵便局
B1～B2階　地下駐車場（119台収容）
駅前広場下駐車場（516台）と接続
B3～B4階　地域冷暖房プラント



▲『ショッピングタウンあいたい』イメージパース

タウンセンターの活性化、イメージアップ、市街地熟成のための先導的シンボル施設として、住宅・都市整備公団による設計・施工で建設を進められているのが、センター北駅のすぐ隣にオープン予定の複合商業施設『ショッピングタウンあいたい』です。

「素敵発見・生活利便館」という施設コンセプトの通り、毎日の暮らしに便利で楽しいショップが満載。総延床面積約3万㎡の中には、食料品や日用品など日常必需品はもちろん、婦人服・靴・生活雑貨・インポートブランドショップなどなど、ファッションラインナップも充実。書籍・文具・楽器・ドラッグ・メガネなどの専門店や、気軽に楽しめるカフェやレストラン、ボウリング場のほか、金融機関や郵便局、デンタルクリニックなども入居予定です。

センター北駅と隣接しており、駅前広場と建物内の自由通路で直結。さらに駅前広場下駐車場（あいたいと同時期開設／516台）とも接続しているので、帰宅途中のちょっとしたショッピングや、待ち合わせにも最適な施設となりそう。「日常生活に欠かせない、地域で一番便利な地域密着型の施設を狙っており、半径3km・約15万人がターゲット。日常必需品中心の商品構成によって、当施設とほぼ同時期にオープンする『港北東急百貨店S.C.』や、平成12年オープン予定の『阪急百貨店S.C.（仮称）』とはひと味違った店づくりを行ないます」とのこと。３つの施設の中でも先発隊となるだけに、ユニークなオープン時のイベントを企画中ということです。

港北東急百貨店S.C.
平成10年4月末開業予定

TOKYU



●所在地　／横浜市都筑区茅ケ崎中央５番地
●施行者　／第2地区共同化義務街区事業者組合
●管理運営／株式会社ティ・エム・ディー
●構　　造／地下1階・地上7階
●敷地面積／14,943㎡
●延床面積／105,724㎡
●駐車場　／1,042台

▲『港北東急百貨店S.C.』イメージパース

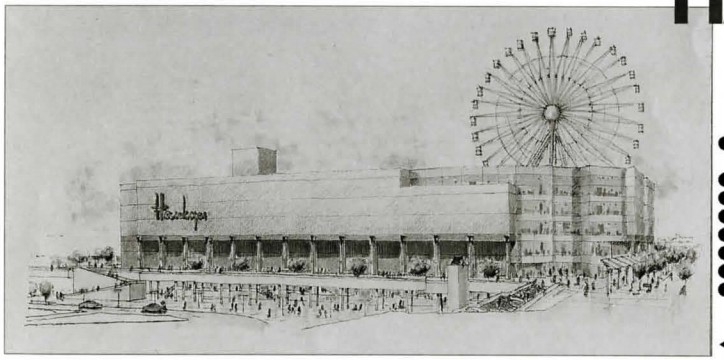
センター南駅前の都筑区総合庁舎へ続くプロムナードで、その巨大な姿を現しつつあるのが『港北東急百貨店S.C.』。港北東急百貨店と専門店からなる時間消費型の一大ショッピングセンターです。施設のトータルコンセプトは「街の核となるような利便性とグレード感を兼ね備えたショッピングタウン」。

総合延床面積施設10万㎡の施設は、高さ約35mの吹き抜け式センターモールを挟んで、約78の一流専門店、7館の映画館を集めたシネマコンプレックス（複合映画館）、アミューズメントテーマパーク（ナムコワンダーパーク）、そして港北東急百貨店で構成される予定です。

「時代や消費者ニーズに合わせて吟味したテナント構成や、カテゴリーを絞り込んだ書籍・ＣＤコーナーなどによって、バラエティ豊かな展開をしていく予定。半径約7kmのニューファミリーをターゲットの中心とした、"時間消費型複合施設"としたい」とのこと。専門店棟シリンダー部分には、高さ約23mのからくり時計「時のモニュメント」を設置するなど、遊び心あるゆったりした空間演出も魅力のひとつ。１日たっぷり楽しめる施設となりそうです。

阪急百貨店S.C.（仮称）
平成12年春開業予定

HANKYU



●所在地　／横浜市都筑区中川中央１丁目35
●施行者　／第一共同開発株式会社
●開発・運営／株式会社モザイク開発
●構　　造／地下3階・地上5階
●敷地面積／18,112㎡
●建築面積／16,288㎡
●延床面積／107,395㎡
●駐車場　／約1,000台（建物内）

◀『阪急百貨店S.C.（仮称）』イメージパース

『阪急百貨店S.C.（仮称）』は、センター北駅の駅前広場の北側で、10月16日に起工式を行ったばかり。半径約６～７km圏・約100万人をターゲットとし、駐車スペースも充分に確保した、総延床面積約10万㎡、地上５階・地下３階建となる予定です。

「いつでも気軽に立ち寄って、何かを必ず発見していただける。誰もが時間を忘れて１日過ごせる。そんなショッピングセンターにしたい」というわけで、「グレード感はもちろん、センスや感度の良さを出しながら、文化的なものも含めた総合的な生活提案型・情報発信型の施設」を目指し、現在、店舗構成・空間演出などの計画を進行中。建物にはランドマークとして地上70mから港北NTを一望することができる大観覧車を設置する計画もあり、子供も大人も楽しめる施設になりそうです。

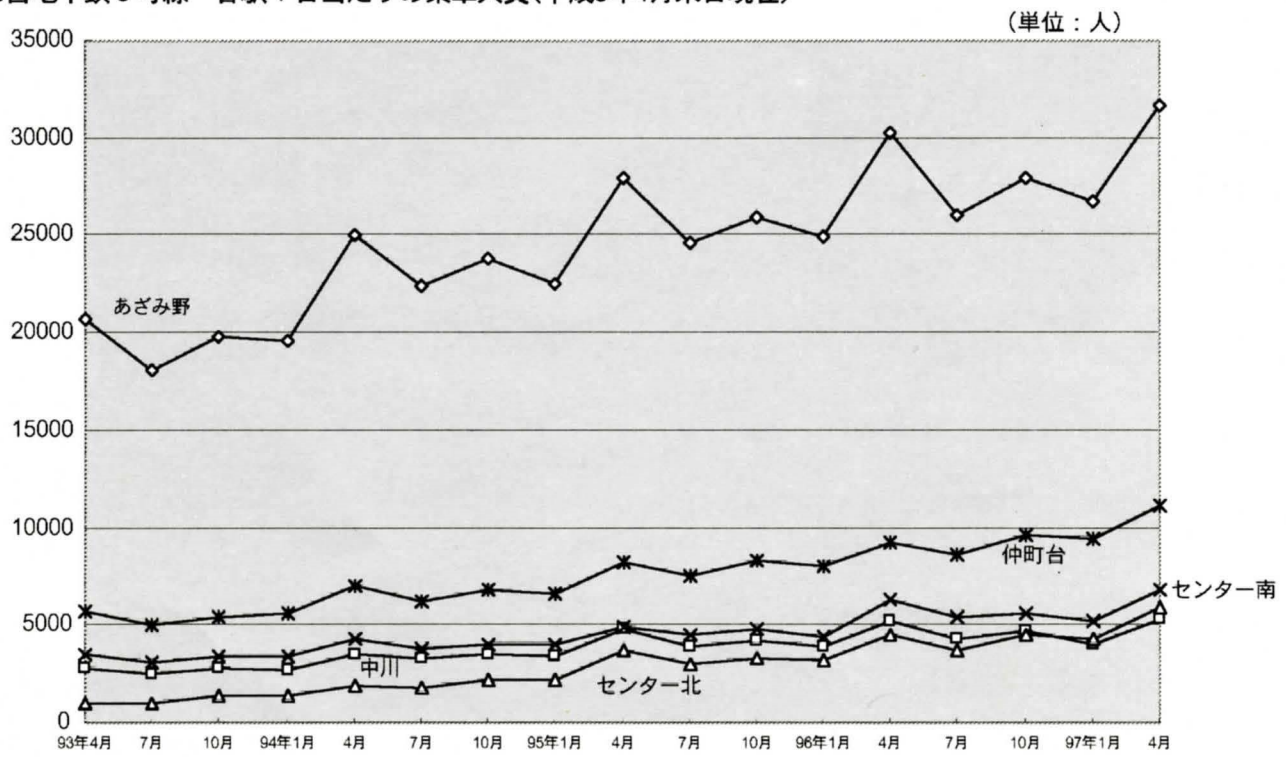
センター南の『港北東急百貨店S.C.』との差別化も含めて、どのような施設となるのか期待されます。

DATA SCRAMBLE

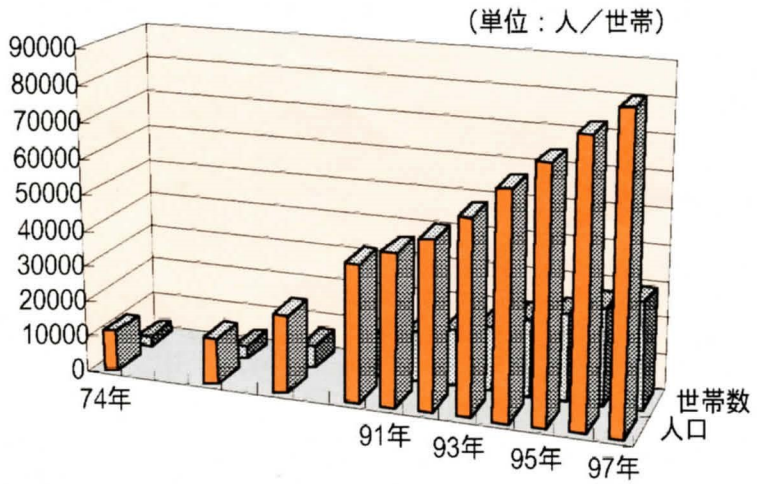
数字で読む港北ニュータウン　データすくらんぶる

ここ数年、着実に人口定着が進んでいる港北NT。その様子は港北NT内にある市営地下鉄3号線各駅の乗車人員の推移を見ても明らかです。特に、センター北の乗車人員増加は顕著で、なんとこの1年で約30％増。来年、センター南・センター北両駅で大型商業施設が完成すれば、居住人口だけでなく就労人口や買物客等の急増により、さらに飛躍的な伸びが見られることでしょう。

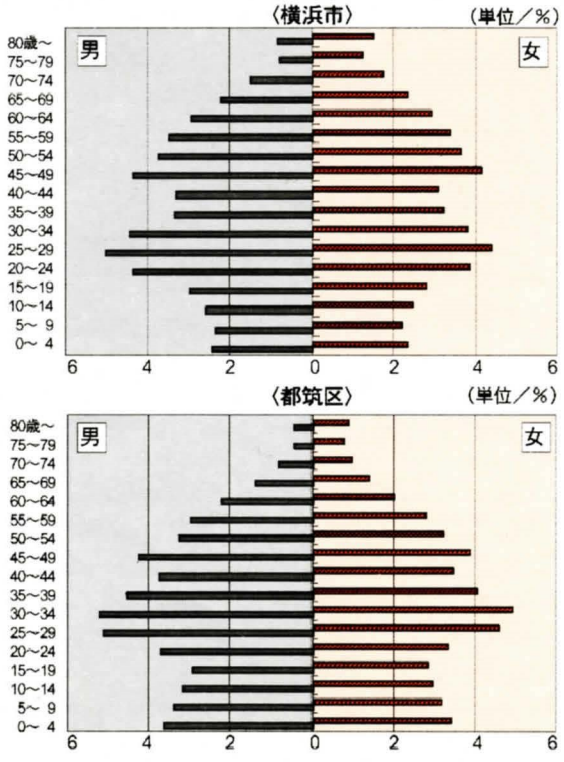
■市営地下鉄３号線　各駅１日当たりの乗車人員(平成9年4月末日現在)



■港北ニュータウンの人口・世帯数の推移
(平成9年9月末日現在)



■横浜市と都筑区の年齢別人口構成(平成9年9月末日現在)



WHO'S WHO

株式会社紀ノ国屋　本社
CR推進室課長

天野恒治さん



プロフィール

昭和35年7月19日東京生まれ。37歳。広報業務を経て、現在CR推進室課長。消費者の実態調査や商品に対する反応などをとりまとめ、各店に反映させる業務を担当。

新規出店は15年ぶり。100%喜ばれる品揃えを目指す、紀ノ国屋・センター南店。

“より良いもの”をご提供したい。創業以来貫いている基本姿勢。

紀ノ国屋は、今年6月に港北NTのセンター南店、10月に青葉台店を続けてオープンいたしましたが、これは、1982年に鎌倉店をオープンして以来のこと。その間、毎日のように出店依頼はありましたし、約30坪程度のパンやお惣菜を中心とした店＝“フレッシュパントリー”は３店舗ほどオープンしていますが、スーパーマーケットとして、紀ノ国屋が納得のいく規模で新たに出店したのは、実に15年ぶりのことなのです。

その理由はいたってシンプル。“より良いもの”をご提供したいという、紀ノ国屋創業以来変わらない基本姿勢のためです。紀ノ国屋の創業は明治43年。宮内省ご用達の高級果物を扱う果物屋として営業しておりましたが、昭和28年に日本初のスーパーマーケットとして青山店をオープン。その後、スーパーマーケットという新しい業態は急速に普及し、膨大な数の店が続々と誕生しましたが、紀ノ国屋は基本姿勢を貫き、マイペースで事業を展開。青山店のほか、国立、等々力、吉祥寺、鎌倉などに出店してまいりました。

しかし、“より良いもの”というのは、当然のことながら数も少なく、なかなかたくさんの量をご提供することができません。新店を誕生させるには、野菜であれ、肉であれ、まず良質な食材を確保しなければならず、それには時間が必要です。また、ただ単に商品を店に並べるだけでなく、お客様に対して各商品の内容を説明できるプロも新たに育成しなければいけませんが、それにもやはり時間がかかります。つまり、この15年でようやく“食材”と“人”の準備が整ったというわけです。

決して他とバッティングしない、こだわりの品揃え。

一般的には、新たにスーパーマーケットが出店するとなると、他店との競合や地元からの反対が問題となりますよね。しかし、私共の場合は、地元の方から100%喜んでいただけ、しかも決して他とバッティングしない品揃えだと考えております。

“より良いもの”を追求すれば、多少は他のスーパーマーケットより価格的に高くなる場合もありますが、レタスひとつとってみても、一番外側の一枚から食べていただけますし、すぐにシナシナしない吟味されたものばかり。そういう意味では充分お得だと思いますし、必ず、「食べてみたらわかったよ」と言っていただけると思っております。ですから、私共が出店場所を考えるときのポイントは、決して高い所得層の方がいらっしゃるかどうかではありません。それよりも、こうした紀ノ国屋の姿勢、品揃えに興味を持ってくださる方がたくさんいらっしゃる地域、そして何より食事に対してこだわりのある方がたくさんいらっしゃる地域ですね。そういう意味で、港北NTは、私共のお客様が大勢いらっしゃるところだと思いましたし、実際に、オープン以来大変ご好評をいただいております。

港北NTの発展とともに、店もじっくりと時間をかけて熟成させたい。

とは言え、港北NTの場合、40～50代のお客様が中心の青山店などと違い、20～30代が中心。ですから、これまでの紀ノ国屋とは違う新しい品揃えも考えていかなければなりません。紀ノ国屋は基本的に食材の店ですが、若い方というのは、調理にかける時間も比較的短いですし、もっと利便性の高いもの、たとえば調理済みのお惣菜や、フィニッシュだけすれば良いような加工食品に対するニーズも高いですからね。また、土・日に車で来店されるお客様利用が圧倒的に多いという点も、品揃えや店づくりに反映させていきたいと考えています。

紀ノ国屋の場合、POSによるデータだけで品揃えをするということはありません。実際にお客様が買われる姿を見、ご意見を伺って、すばやくキメの細かい対応をさせていただくのが信条。まして、港北NTは今後ますます人口も増加する発展途上の街です。私共もじっくりと時間をかけて街の発展を見守りつつ、皆さまのニーズやご意見・ご要望を吸収し続け、より満足していただける品揃え、店づくりを目指したいと考えています。

PIONEER WATCHING

中野区に新たなる商業・業務・住宅の複合都市誕生!

中野坂上の再開発による街づくり

【中野坂上本町二丁目地区第一種市街地再開発事業】

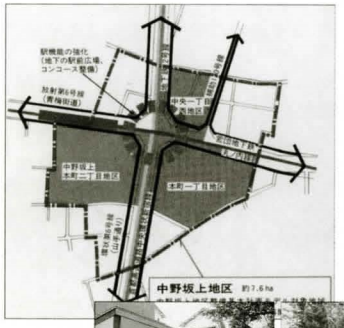


新宿副都心のビル群を間近に望む中野坂上地区。昨年夏、その一画である中野坂上本町二丁目に、商業・業務・住宅の機能を備えた新たな街が誕生しました。ここは、交通至便で新宿副都心にも接することから、早くから中野区の新しい核として新都心化が期待されていた地区。また、戦後から続く低層の住宅や工場等が混在・密集していただけに、防災上の意味からも、再開発による整備を望む声が上がっていました。しかし、地権者の意見調整は決して容易ではなく、バブルの崩壊という状況にも直面。これら幾多の困難をいかにして乗り越え、どのように事業が推進されたのか、施行にあたった住都公団・東京支社に、お話を伺いました。

中野坂上地区再開発のリーディングプロジェクトとしてスタート。

中野坂上地区は、青梅街道と山手通り(環状6号線)の交わる交差点を中心に広がる街であり、中野区南部の中心核のひとつ。交差点部の地下には、営団地下鉄丸ノ内線の中野坂上駅があり、今年12月には都営地下鉄12号線の新駅も開業予定。また、山手通りの地下では、「首都高速道路中央環状新宿線」が事業化されており、道路の拡幅工事も進んでいます。

しかし地上では、戦後の混乱期に低層の住宅やアパート、町工場などが密集しており、近年になって複雑に入り組んだ道路とこれらの建物の老朽化が、都市整備や防災上の大きな問題となっていました。



◀再開発促進地区図



▶再開発前の周辺

そこで中野区では、昭和61年、交差点を中心とした約7.6ヘクタールの地区を対象に「中野坂上地区整備基本計画モデル」を提案。同年、東京都都市再開発方針の中でも再開発促進地区に位置づけられ、再開発事業等による計画的な街づくりが開始されました。

このうち、今回訪れた中野坂上本町二丁目地区約1.9haについては、中野区と東京都が公団に施行を要請。「業務・商業・住宅の共存地区を整備するとともに、道路等の公共的空間を創出する」目的で、平成元年に事業をスタート。平成8年夏、総合オープンを果たしたというわけです。

敷地内を構成するのは、30階建から5階建までの計4棟の建物。1棟は9階建の住宅棟で、他3棟は1階部分、または2~3階部分に商業施設を配したオフィス棟となっています。

地権者の意見調整を可能にした権利配分と設計プランの工夫

このプロジェクトの大きな特徴のひとつは、地区の権利者113名のうち、地権者は39名で、他は借地権者や借家権者などがほとんどだということ。しかも、地権者も、大きな土地を持つ企業経営者と、戸建の居住者やアパートを経営する個人とに大きく分かれていたということです。

このように、地権者の資産に大きな開きがある場合、独自に計画を進める「組合施行」では、それぞれの主張がぶつかり合って、なかなか意見調整がまとまりにくいもの。そこで公団が第3者として入り、再開発を進める「公団施行」が望ましいと考えられたわけです。しかし、いかに公団施行と言えども、地権者の意見調整は容易ではありません。

それをうまくクリアする大きな要因のひとつとなったのが、敷地の権利配分と設計のプランです。 たとえば、敷地内の4棟の建物うち、東南に位置する『中野坂上セントラルビル』に関しては、大口地権者の強い要望により、土地・建物ともに単独の地権者の所有とし、管理上分けています。

また、設計上でユニークなのは、北東側の30階建のオフィス棟『サンブライトツイン』。この建物は、アトリウムをはさんで南北2つのウイングに分かれており、一見独立した2つの建物のように見えますが、構造的には一体のもの。これは大口地権者2人の資産を形で現そうという発想からの設計です。

このような設計上の工夫には大変な手間と時間が必要ですが、再開発に同意しながら不安をぬぐいきれない地権者に、その資産を目に見える形で示すことで、計画も大きく前進したということです。

周辺環境の整備にも貢献 ゆとりある道路&広場の整備

さて、当事業地では、道路や広場など、公共施設の確保にも、様々な設計上の工夫が凝らされています。

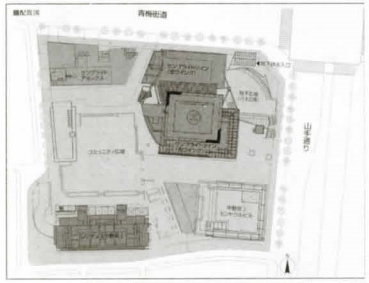
たとえば、事業地は北側が青梅街道、東側が山手通りと接しており、両幹線道路が交差する、都内でも交通量の大変多いところです。そのため、青梅街道沿いの敷地を2.5m、山手通り沿いの敷地を9m後退させることにより道路を拡幅。一方、南側と西側の住宅地に接する外周部にも、幅員6mの区画街路が整備されています。

また、敷地内には営団地下鉄丸ノ内線・中野坂上駅の新出入口を整備するとともに、今年12月に開業する都営地下鉄12号線の新駅にも通じる吹き抜けの地下広場『パオ広場』を設置。敷地の中央部には『コミュニティ広場』も設けられており、周辺住民も共に憩える、ゆとりある空間が創出されています。

■ ■ ■

全景を見ると、外壁にアルミやガラスを多用した外観が建ち並ぶ姿は、間近にある新宿副都心と呼応する先端都市のような印象。しかし、商業系がごくわずかしか入っていないにもかかわらず、コミュニティ広場やパオ広場には、子供連れの近所の主婦たちが集う姿も見かけられ、地元の一部としてすっかり馴染んでいる様子です。

ただ、南側と西側はたった1本の街路をはさんで低層住宅の密集地と接しており、そこは、よほどのテクニックがなければ車も通りにくい、迷路のように入り組んだ地区。今後、この街の出現が呼び水となって周辺にも安全で快適な街づくりへの気運が広がっていくことが期待されています。



▲事業地平面図

■施設建築物計画の概要

建物名称	中野坂上 サンブライトツイン	中野坂上 サンブライトアネックス	中野坂上 セントラルビル	レジデンス 中野坂上
敷地面積	13,372.66㎡			
規模	地下2階・地上30階 塔屋2階	地下1階・地上5階 塔屋1階	地下2階・地上16階 塔屋1階	地下1階・地上9階
建築面積	2,553.55㎡	808.44㎡	1,295.51㎡	843.46㎡
	計5,500.96㎡			
建ぺい・容積率	41.13%・643.71%			
延床面積	65,485.42㎡	2,540.30㎡	21,911.95㎡	5,297.15㎡
	計95,234.82㎡			
用途	業務施設・商業施設・駅舎・駐車場	業務施設 商業施設	業務施設・商業施設・駐車場	共同住宅 駐車場



■中野坂上サンブライトツイン
30階建の南ウイングと27階建の北ウイングの2棟をアトリウムで結んだオフィスビル。各階ともワンフロアの無柱空間。配線システムや情報通信への対応等、先端機能が充実。



■中野坂上サンブライトアネックス
青梅街道に面する5階建。1~3階はガソリンスタンドやCD&ビデオ店などの商業施設、4階以上は業務施設。



■レジデンス中野坂上
9階建の住宅棟。総戸数44戸のうち、40戸は権利者が居住。権利者の要望を取り入れた設計で、間取りも40㎡~150㎡まで多様。



■中野坂上セントラルビル
山手通りに面する18階建のオフィス棟。先端的な設備・機能を搭載したインテリジェントビル。

THE NEWS

家具・家電・スポーツクラブ等の複合商業施設 『パインクリエイトビル』センター南に12月初旬オープン!

センター南駅から徒歩でわずか1分という好立地に建設中の複合商業施設『パインクリエイトビル』が、いよいよ12月初旬オープンします。

地下1階・地上6階建。施設内を構成するのは、家電・パソコンの「上新電機」と家具の「村内ファニチャーアクセス」、そして「NASスポーツクラブ」。1階には銀行のA.T.Mコーナー、「カフェ・ド・フルール」などの施設も設けられる予定です。屋内・屋上合わせて240台と、駐車場スペースもたっぷりと確保。タウンセンターで続々開業予定の施設の中でも、今年最後の大型施設として、年末の話題をさらいそうです。



●所 在 地　神奈川県横浜市都筑区茅ケ崎中央55-1他
●構　　造　鉄筋コンクリート造　地上1階・地下6階建
●敷地面積　4,587.00㎡
●延床面積　22,366.33㎡
●店舗及びスポーツ施設面積　12,073.2㎡
●駐 車 場　240台

●テナント構成

【1階】・上新電機(株)
・(株)村内ファニチャーアクセス
・カフェ・ド・フルール
・銀行A.T.M.
【2・3階】
・(株)村内ファニチャーアクセス
【4階】・駐車場
【5階】・日本体育運営施設(株)NASスポーツクラブ
・駐車場
【6階】・屋上駐車場

街づくり通信 VOL.6

平成9年10月発行

街づくり通信編集室
〒224
横浜市都筑区荏田東4丁目10番3号
財団法人 港北ニュータウン生活対策協会内
TEL:045(942)8745　FAX:045(942)8972

編・集・後・記

◆ここ数年、外のテラスで食事やお茶を楽しめるオープンカフェが流行っていますが、港北NTにも数箇所あり、いずれも人気。東京都心だと、車の排気ガスが気になるようなところが多いですが、港北NTのセンター地区は、車歩分離のため、快適。だんだん寒くなるこれからの季節も、お天気の良い日は、ぜひ。

◆さて、ちょっと気は早いのですが、来年の港北NTは、大型施設のオープンが相次ぐ予定で、今から楽しみ、という方も多いのでは。街づくり通信では、来年も注目の施設をクローズアップ・レポートする予定。ご意見・ご希望・ご感想等、編集室までどしどしお寄せください。

街づくり通信編集室　一同

住宅・都市整備公団 組織改編に伴うお知らせ

港北ニュータウンの土地区画整理事業に取り組んできた住宅・都市整備公団　港北開発局は、平成9年10月1日付で、神奈川地域支社・港北開発事務所に組織改編されました。住所および代表番号は次の通りです。

●神奈川地域支社
〒220　横浜市西区
みなとみらい2-3-3
クイーンズタワーB棟8～10階
☎045-682-1555(代)

●港北開発事務所
〒224　横浜市都筑区
荏田東4-10-2
☎045-943-7325(代)



※港北開発事務所は、従来の港北開発局と同じ住所、代表番号で、変更はありません。
※宅地募集等に関するお問い合わせは、神奈川地域支社までご連絡ください。

年4回発行　平成10年2月発行

KOHOKU

街づくり通信

港北ニュータウンのセンター街づくり情報紙

NEW TOWN

'98 WINTER　VOL.7



特　集

街づくり座談会

～今だから語りたい、港北NT・センターの街づくり秘話～

WHO'S WHO

株式会社パインクリエイト　代表取締役社長　松澤義之さん



PIONEER WATCHING

「次世代商店街」登場！

亀戸の新しい顔『サンストリート』



THE INFORMATION

港北NTの新アートスペース発見！
ボッシュセンターで絵画展開催中。



KOHOKU.NT DATA

人口/約87,600人・世帯数/30,500世帯
平成10年1月末日現在（区画整理区内）

発　行：財団法人　港北ニュータウン生活対策協会
編集協力：横浜市都市計画局／住都公団　神奈川地域支社　港北開発事務所

Special Issue
特集

街づくり座談会
～今だからこそ語りたい、港北NTセンターの街づくり～




中川駅前センター
街づくり協定運営委員会
委員長　大久保 信正


仲町台駅前センター
街づくり協定運営委員会
委員長　関 勇和


茅ヶ崎センター
街づくり協定運営委員会
委員長　吉野 誠一


北山田駅前センター
街づくり協定運営委員会
委員長　阿金 義雄

港北NTの商業地区の中でも、タウンセンター、仲町台、中川、茅ヶ崎、北山田の各センターには、各々の地権者らによって街づくり協定が策定されており、街づくり協定運営委員会を組織してその運営にあたっています。
土地区画整理事業によって誕生した新しい街・港北NTにとって、センターは単に生活利便性をもたらす商業地区というだけでなく、港北NTに賑わいや活気、魅力を生み出し、繁栄へ導くという重要な使命をも担っています。街づくり協定運営委員会は、いわばその縁の下の力持ちであり、仕掛け人たちの組織。その委員長である4人の皆さんにお集まりいただき、街づくり協定について、そして今後の街づくりについてお話しいただきました。

地権者が手探りでつくりあげた街づくり協定

[大久保]　中川駅前センターが街づくり協定運営委員会を設立し、私が委員長を拝命して勉強会を始めたのが平成62年のはじめ頃。なにしろ、素人ばかりでも右も左もわからなかったわけですからね。今思うと、あの程度の知識でよく協定をつくったなと思いますよ。それでも何とか平成2年には街づくりテーマを「ネオトマンチック」とする街づくり協定を締結。とにかく、港北NTのセンターでも一番最初に街づくり協定をつくるということで、気負いのようなものもあったし、一生懸命でした。

[関]　そうでしょうね。私共の仲町台駅前センターが勉強会をスタートしたのは、中川駅前センターの街づくり協定ができた後、平成2年の春頃でした。そして、「ネオクラシック」をデザインテーマとする街づくり協定を締結したのが平成5年3月。中川の場合と同様、生対協（※）や横浜市、公団等のご指導、あるいはコンサルタントのご指導によって協議してきたわけですが、やはり、中川という先輩がいてくださったというのは、いろいろな意味でありがたかったですね。

[大久保]　あの当時は、我々のセンター地区もまだまだむき出しの造成地が目立っていて、全てがゼロからの出発でしたが、中川も仲町台も、港北NTのセンターの街づくりにおける先駆者として、ぜひとも良い街づくりをしなければという責任を強く感じていましたよね。

しかし正直なところね、コンサルタントが提案してきた街づくりテーマ「ネオトマンチック」にしても、どういうものなのかピンとこなくて（笑）。これは、自分の目で確かめるのが一番だと思いまして、15～16世紀のネオトマンチックの街並みがそのまま残っているドイツのセェレ、ローテンブルグといった街や、米コロラド州のヴェイルにも行ってきました。

[関]　私共も、何回か海外を歩いてみましたよ。大久保さんがおっしゃったように、私共も、ネオクラシックだとか、西欧風のデザインテーマがどうのと言われても、なかなかわからなかったのですが、いろいろ写真を見せられたり、実際に自分の目で見てみて、個性のある街だなあというように思って・・・。

そういう勉強なり視察見学を早くからやっていたということもあって、仲町台駅の駅舎もそれに合ったデザインでつくっていただきましたしね。

[吉野]　茅ヶ崎センターの場合は、茅ヶ崎近隣センターとして出発しましたが、途中で住居地区に変更になり、現在は茅ヶ崎センターとなっております。平成5年頃から協議を重ねてまいりまして、「マーケットタウン」という街づくりテーマに基づいた協定が承認されたのが、平成7年の6月でした。

しかし、うちは実際に建築申請が出されているのも約20件ほどという、まだまだこれからのセンターですからね。ぜひとも、中川や仲町台の苦労話とか、経験を参考にさせていただきたいと思っているんです。

苦労の連続？！ 特徴あるセンターづくりへの模索

[大久保]　中川の場合、最初に街づくり協定がつくられたということで、生対協、横浜市、住都公団にも大変よくしていただきましたから、そういう意味では比較的苦労は少なかったと思います。ただ、設計者にしてもテナントにしても、人それぞれ、街づくり協定のとらえ方はバラバラです。単なる規制や締めつけと考える人もいる。また、落ち着いた雰囲気が好きな人もいれば、ギラギラしたものを好む人もいる。それら各々の考え方に対してどう対応し、街づくり協定に沿った形でまとめるか。そこが一番苦労した点でしょうか。

[関]　私共も、苦労をあげるとキリがないですけれど（笑）。
ひとつは、街づくりの基本計画を変更していただいたことですかね。当初の計画も大変いい計画ではあったんですが、具体的に見るといろいろ問題もあったんです。たとえば、通り抜けできない長いブロックがあって、向こうの通りに出るには大まわりしなければならなかった。それでは人の流れも悪くなるし、賑わいも生まれないと考えて、自分たちで計画をひとつひとつ練かめていったんです。

そして、このような検証を重ねる中で、"地域中心型のプロストアマーケティング"にしようという発想が生まれた。つまり、仲町台の駅がただの通過駅にならないようにしよう、あそこで全て用が足りるような商業地区にしようという気運が盛り上がってきたんです。それにはやはり、個々で事業を行なうだけでなく、共同化を推進しなければしっかりした店舗もできないだろうということで、ブロック別に共同事業を一生懸命推進してまいりました。

また、何か独自の特徴をつくろうということで、「グルメの里」構想を進めてきました。地元をはじめ、建設業者、銀行の意向を集約して委員会をつくり、テナント誘致のためのPRをなりやらせていただいた結果、この構想を理解して入ってくれるテナントが次第に増えてまいりまして、あと1年くらい経つと、いくらか賑やかになってくると思います。

[吉野]　実に、うらやましい限りです。私共の茅ヶ崎センターは、タウンセンター南と仲町台駅前センターの中間に位置しており、すぐそばを電車が走ってはいますが、駅がありません。しかも、地下鉄3号線で真ん中を分断されております。また、北側には大公園、東側には東京横浜ドイツ学園がございまして、南側に少し行けば農専地区が広がっています。そのために、他のセンター地区に比べて住民密度が非常に低い地区なんですね。ですから、いかにして人を集めるのか、このあたりが大きな課題だと思っているんです。

[男全]　駅がないと言えば、私共の北山田駅前センターは、「おい、駅前センターって、どこへ電車通ってるんだよ」と言われるんですよ（笑）。4号線が開通するまでは、駅前センターと言っても名ばかりなわけでして・・・。





平成8年の3月には街づくりテーマを「オアシスタウン」とする街づくり協定もできているのですが、鉄道の工事も開始されていませんし、開通はさらに5～6年先だろうということで、駅周辺で事業を進めるのはまだ難しい状況にあります。

ですから今のところ、駅を中心としたセンターづくりというより、北山田の街全体の中でのセンターづくりを考えていくべきなのかもしれないという気もしています。

[吉野]　中川や仲町台が街づくりをスタートした頃より、経済情勢はさらに厳しくなっていますから、そういう意味でも、お互い大変ですよね。事業計画を提案してくる業者も昔に比べればかなり減っていますし、業者の中には、街づくりの方向性云々より自分たちの利益を優先するところも少なくないですからね。

[大久保]　本当は、どこかにそういう申し出を一手に引き受ける窓口があって、この計画は良いとか、この計画ならあそこに合っているとかいうコンサルティングもしてくれるというのが理想ですよね。

[関]　そうですね。今後、そういうシステムをつくっていけたらいいですね。ただ、今はないわけですから、そういう意味でも、我々の情報交換を活発にしていきましょう。

協定は規制か？ その継承をめぐる課題

[関]　街がある程度熟成してくると、それはそれで、さまざまな問題がでてきます。中でも困るのは、テナントなり業者が協定の基準に合わないことを言ってくる場合ですね。看板の大きさひとつにしても、たとえばチェーン店の場合だと全国一律で大きさが決まっていて、協定内容に反するが、どうしようもないと言ってきたりする。これまでは話し合いで何とか調整してきましたが、今後、このような問題がますます増えてくると思うんです。これは街づくり協定を維持していく上で非常に大きな課題になると思います。

[大久保]　テナントさんや業者の人と話をしていると、「中川は規制が多いから・・・」なんて言われることがあるんですが、私はそのたびに「協定は規制ではない。規制があるとすれば、いい街をつくろうという規制があるだけだよ」と言ってるんです。

[関]　その通りですよね。確かにあらゆる意向をまとめて、なおかつよい街づくりを行なっていくには、複雑な問題が発生しがちですし、細部詳細が必要な場合もあると思います。だからと言って、なしくずしになっても困る。だから、何でもかんでもいけないんじゃなくて、説明がつくような形でうまく調整しながらやっていくしかないでしょうね。

[吉野]　協定書の内容と一字一句合っていなければダメとなると、話が進まないこともありますからね。うちでも、そのあたりは建築確認や市、公団に相談しながら調整しています。

茅ヶ崎の場合は協定ができてまだ2年くらいだし、正式な形で協定組織をどうのこうのという時期じゃないような気がしてるんです。

[男全]　いずれにしても、生活する人が主体となって街づくりを運営していくのが、一番いい街づくりだと思いますし、街づくり協定は、そういう思想でつくられたものですからね。

[関]　ただ、街づくり協定運営委員会というのは、事業をする機関ではないわけですから、先ほども申しましたように、今後この協定をどういう形で実際の街づくりに反映し、継承していくかが問題になってきます。

[大久保]　中川の場合は、協定書の中に、商店会ができたら商店会に引き継ぐと書いてあって、実際に商業振興会を設立していますが、他もそうですかね。

[関]　ええ、書いてありますよ。すでに、仲町台でも私たち街づくり協定運営委員会も発展人になって、商業者だけでなく事務所なども含めた形で商業振興会をつくって運営しています。

ただし、会長は地元の商業者になってもらい、私たちはあえて一歩下がって理事を務めるという形をとっています。商業振興という立場と、街づくり協定を活かすという立場では、必ずしも利害が一致しない場合があるかもしれない。そういうときでも、街づくり協定の立場ではっきりものを言えるような仕組みにしておきたかったんです。

すでにいくつか活動も開始しておりまして、実は、昨年夏祭りをやりましたら、2万人以上の人が集まったということで大成功でした。こうしたイベントの他、月に一度のゴミ掃除なども開始してだんだん参加者も増えてきております。また、仲町台の街づくりテーマは"自然と人間"で、ふれあいテーマは"花"ですが、地元の企業である「サカタのタネ」にも技術指導等をしていただけるようお願いしており、花を中心とする街づくりも進めていきたいと考えております。

[大久保]　中川の場合も、一応、街づくり協定の運営を商業振興会に引き継いだことになっています。もっとも、私もその副会長をやっておりますから、仲町台とはちょっと違うスタンスかもしれませんね。

と、言いますのも、中川の商業振興会というのは、商業だけでなく、設計事務所でも医者でも、ある意味では事業をやってる人すべてが対象。商業振興会とは言え、街づくりの組織という考え方なんです。しかし、やっぱりそれだけでもまずいので、商業振興専門の部門を設けて、並行してやっていくべきだろうと考えています。

10年後・20年後の賑わいのために今、できること

[男全]　中川や仲町台を見てますと、北山田の10年後くらいの姿なのかなあと思ったりもするんです。まあ、街づくりの方向性が違うにしろ、それくらいの時間の差があるわけですよね。

[大久保]　建ちだすと早いですよ。10年前と言えば中川だって駅の前なんか、みんな野っ原だったし、何もなかったんですから。

[吉野]　単純に10年くらいすると、人口が港北NT全体で7～8万人くらい増えるわけですよね。とりあえず、この春センター南に「港北東急百貨店S.C.」、センター北に「ショッピングタウンあいたい」、2年後には「阪急百貨店S.C.（仮称）」といった大型商業施設ができます。そうなれば賑わいもぐんと増すでしょうし、4号線ができれば一気に加速しますよ。早くそうなって欲しいものです。



[関]　おかげさまで仲町台は駅の昇降客が日量、2万人くらいとかなり多いですし、いろいろな皆さんのご指導によって、開発はまあまあ順調に進んでいると思うんです。しかし、そろそろ仲町台のセンターのみだけでなく、その周辺とも連携しながら街づくりを考える時代に入っているかなと思うんですよね。センター内だけで一生懸命街づくり協定に基づいた街づくりを推進していても、道路を隔てた向こう側は全然違うじゃないかという話も出てくるでしょうし・・・。できれば、周辺の方々とも一緒になって、仲町台全体を安らぎのある、文化的な香りのする、魅力的な街にしていければいいなと思うんです。

[大久保]　将来のことはなかなか予測しがたいですが、現在、中川は30歳前後の人が非常に多く、小さい子供を連れている人が非常に多い。ですから、たとえば10年経つと年代層も変わりますよね。ですから、そうした状況にもそのときそのときで柔軟に対応していかなければと思います。

また、よく、中川は落ち着いた感じのするきれいな街だね、と言われて大変嬉しいんですが、外観はそうであっても活気もなければ困りますから、そういう点でも、今後さらに努力していかなければと考えているところです。

[男全]　北山田は、やはり1日も早く4号線の開通を見たいというのが最大の願いなんです。来年早々に横浜市交通局から施工についての説明会があるということで、やっとここまでこぎつけたという気持ちですね。そういう中で北山田の駅周辺で事業をいつ、どのような形でスタートさせるか、そういうことを考える時期が、ようやく来たというところですよね。今後は、先輩方の経験を伺いながら一生懸命勉強していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

[吉野]　私はね、先程も申しましたように、茅ヶ崎は駅のないセンターということで、街づくりの基盤を何にするかということが課題だと思ってます。やはり核となるテナントの出店がなければ集客は難しいでしょうね。個々の努力だけでは進展は難しいので、やはり共同化ということを考えていきたいと思います。

[関]　とにかく、港北NTは若い世代の人たちが多いんだし、若者がよそへ行くんじゃなくて、港北NTの中で楽しめるような街づくりをしていかないと、活気も生まれませんよね。

[男全]　こうして一堂に会し先輩方の経験談を伺える機会というのは貴重ですから、ぜひまたこういう機会を設けていただきたいものです。

[全員]　けっこうですね。

（収録：平成6年12月）

※生対協：（財）港北ニュータウン生活対策協会。土地区画整理事業により激変する地権者の生活再建や新旧住民のコミュニティ育成を目的に設立された。

WHO'S WHO

株式会社パインクリエイト
代表取締役社長

松澤義之さん



プロフィール
1936年11月18日生まれ。横浜市在住。親族とともにパインクリエイトビルが立地する土地を所有。事業化を一任され、パインクリエイトビルを建設。管理・運営会社（株）パインクリエイトを設立し、現在に至る。

事業と街づくりを成功に導くのは、前向きな姿勢と慎重なテナント選び。

最低の時代こそ、事業をスタートさせる好機？！

昨年末、センター南駅前にオープンした『パインクリエイトビル』は、敷地面積約4,600㎡、地下1階・地上6階。家電・パソコンの上新電気、家具の村内ファニチャーアクセス、NASスポーツクラブを中心とするテナントは、おかげさまでいずれも好調なすべり出しをいたしました。

この周辺は今もまだ更地が多いですが、私の持っていた土地がセンター南駅前に換地され、隣接地を所有する親族とともに共同で事業をしようと考え始めた当時は、地下鉄3号線がすでに開通していたにもかかわらず、駅前は何も建設されていない状態で、一刻も早くセンターを熟成させなきゃという思いにかられたんです。当時はバブルがはじけた後で、先行きの見通しもつかない状況でしたが、私は、事業をスタートさせるタイミングとしては、決して悪くはないと考えました。

まず、厳しい経済情勢の中、金利が低くなっている今こそ、投資するには良い時期だと思いましたし、こんな時期に出店しようと言ってくれるテナントなら、それなりの自信を持ってのぞんでくるに違いないと思ったんです。

そして、税金対策等も含めて事業化を考え、勤めを辞めてその準備にとりかかったのが4年半前。それからというもの、知人の協力を得るなど、自分でも考えられる限りを尽くして、コンサルタントやゼネコン、設計事務所や不動産会社など、ほぼ4年にわたってひたすら歩きまわりました。

信頼できるパートナーの条件とは？

よく、いきなり完成予想図を持ってきて、「こんなビルを建てませんか」なんて言ってくる業者がありますが、建設費はいくらか、賃料はいくらか等の条件がわかれば、おおよその試算はできるし、全体像もつかめるでしょ。第一、ビルの外観等は、入るテナントの意向や戦略によっていくらでも変わるはずなんです。それより、どういうテナントを入れるかということこそ、事業の命であり、街づくりの要にもなるんじゃないでしょうか。

たとえ、素晴らしい街づくり協定があっても、行政が街づくりに力を注いでくれても、それだけで街は動きださない。結局は、出店するテナントによって街の雰囲気も色合いも決まってしまうと思うんです。ですから、良いテナントと結び付けてくれ、適切なアドバイスをしてくれるパートナーがどうしても欲しかった。私が歩きまわった4年間は、いわば、そういうパートナーと巡り合うために必要な時間だったと思っています。

もちろん、商業関連のこと、法律上のことなど、私自身もいろいろと勉強いたしました。これも今回の事業を進める過程で初めて知ったのですが、たとえば弁護士などその道の専門家でも、商業系のことに詳しい人って意外と少ないものなのですね。だから、契約書ひとつチェックするにも、最終的には自分自身でやるしかないと思います。

私は幸いにして、良い友人や設計事務所、ゼネコンと巡り合うことができ、いろいろな人のアドバイスを受けながら契約書も作成しましたが、それでも後になってみると、もっとああすればよかった、こうするべきだったという点が山ほどあるんですよね。事業を行なうというのは、それだけ難しく奥深いものなのだと、今もしみじみ感じています。

センター熟成への道は、テナント戦略で開ける。

現在の大きな関心事と言えば、この春、駅前にオープンする『港北東急百貨店S.C.』のことですね。センター南に新たな賑わいをもたらしてくれるでしょうし、相乗効果も期待できるのではないかと、楽しみにしているんです。

しかし、百貨店ができたからと言って、センター南全体が熟成するにはまだ時間がかかるでしょうし、そんな中でこの事業を本当の意味で軌道に乗せるには、最低でも5～10年はかかると思っています。それは、今後センター南で事業を行なう者全体の大きな課題でもあるでしょう。けれど、今は車社会ですから、ある程度の駐車場があって、サービスや品揃えなどの面で優れた戦略を立てれば、お客様は必ず来てくださると思うし、それが、街全体の魅力につながるはずです。

ですから、他の地権者の皆さんには、相談できる友人を見つけて1日も早く事業を進めていただきたいし、テナントサイドには、センター南は将来性が大であるし、必ず立派な街となるので今のうちに進出すべきだよと、声を大にして言いたいですね。

PIONEER WATCHING

「次世代の商店街」登場！

亀戸の新しい顔「サンストリート」



JR総武線・亀戸駅東口から徒歩1分。国道14号線（京葉道路）に面した2.5haの敷地に、昨年11月、『ランブリングマーケット・サンストリート』が誕生しました。ここは、その名の通り、誰もが気軽に“ぶらぶら歩き（＝rambling）”を楽しめる複合商業施設。そして、独自のテナント構成や賑わい演出、広場や道を大胆に取り入れたダウンデザインなど、新しい試みの数々を満載した「次世代商店街」なのです。

★注目ポイント★

- ●広場・道を大胆に織り込んだタウンデザイン
- ●駅前にありながら、容積率は約120%
- ●路面店感覚の建築・店舗設計
- ●亀戸独自のステータスを創造する“生活楽しみ素材市”

セイコーインスツルメンツ（株）本社跡地の中期利用計画としてスタート

特別な目的がなくても、ぶらぶら歩くだけで楽しい、飽きない・・・。『サンストリート』は、そんな印象を与えてくれる“商店街”です。まず目を引くのは、あちこちにテーブルやベンチを並べた約900㎡もの円形広場（マーケット広場）。その外周に沿って描かれた逆S字型のメインストリートには、カフェテラスやワゴンをせり出させたショップが連なっており、その楽しげな演出に誘われてぶらぶら歩けば、いつの間にか、下町の横丁を思わせるの小径へと引き込まれていく・・・といった具合。そこで感じるのは、四角い箱を仕切ったような均質な空間に、ただテナントをはめ込んだだけという商業施設にはない、新鮮さです。

また、敷地の東南にある5階建ての駐車場&テニススクール棟以外はすべて2階建ての低層棟で、容積率を約120%におさえたという点も、駅前商業施設としてはかなり珍しい、大胆な空間づかいと言えるでしょう。

しかし、実はこの施設、バブルさえはじけなければ高層のツインタワービルとなる予定でした。

1937年にこの地で創業したセイコーインスツルメンツ株式会社（旧・セイコー電子工業株式会社）が、千葉・幕張への本社移転を前に跡地の再開発計画に着手したのは1988年。当初はオフィスと商業施設からなる巨大な高層ビル計画を立てていましたが、間もなく社会情勢の急変で凍結。その後、

(1)15年間の中期利用計画とする

(2)東京都の副都心計画地のひとつ、錦糸町・亀戸地区にふさわしい商業施設とする

(3)創業以来お世話になった亀戸の地域活性化に貢献する

という新たな方針を打ち立て、その結果建設されたのが『サンストリート』だったというわけです。



他では出会えないモノ・店を集めた“生活楽しみ素材市”

さて、亀戸は、亀戸天神でも知られる下町の面影が残る地。周囲3Km圏に42万人、5Km圏に112万人が住む、日本でも屈指の人口密集地でもあります。しかし従来、その巨大なマーケットは半数近くが錦糸町、日本橋、銀座などに流出していました。それなら都心の商業施設に匹敵するものをつくろうじゃないか、ということにならなかったところが、非常に興味深い点。逆に、「どこにでもある有名ブランド品が欲しければ、日本橋や銀座に行けばいい。あくまでも地域密着型の施設を目指していきたい」（開発運営会社㈱タイムクリエイト・大西社長談）というわけで、独特のテナント構成を行なっています。

たとえば、衣料関係のテナントは、55テナントのうちのわずか5%程度。吸引力の要として『トイザらス』、『セレクト・イン・キムラヤ』、『無印良品』等のパワーテナントも入っていますが、これらは都内初出店、都心部以外での初出店、最大規模店と、いずれも各々の企業が従来になかった形での出店形態をとっており、“商店街”という枠組みの中に入るのも初めて。

また、地元と調和した開発を目指すということで、テナントの1割は地元企業。その他のテナントに関しても、物販・飲食ともに個性の強い店を意識的に集めています。

生鮮食料品を扱うテナントもありますが、基本的には日常生活を楽しむための“素材”を集めようという方針で、「いつ来ても何か新しい発見がある」、「掘り出し物が見つかる」商店街づくりが狙い。お年寄りから子供までの幅広い層をターゲットとしています。

テナントの個性を積極的に受け入れる路面店感覚の店づくり



これらのテナントに共通する特徴は、そのほとんどが、屋外や外廊下に面した路面店感覚の店であるということ。ビルの中にある店舗と違い、雨や暑さ寒さの影響も受けますが、「日本の気候の変化を感じてもらいたい」とのこと。夜も過剰な照明は行なっておらず、気候だけでなく時間経過も含めた自然の変化を、あるがままに取り入れようとしています。また、テナントに対して特に厳しい規制はしておらず、店舗の前にテラスやワゴンを出したり、ファサードの色を好きな色で塗ってもOKと、個性を打ち出すような店づくりを積極的に受け入れようという方針。

さらに、中央のマーケット広場を“屋外型多目的レンタルスペース”と位置づけ、地元企業やこれから事業を起こそうという人々にも広く開放。地元商店街や町内会とも連携してさまざまなイベントを行う計画も進められています。こうした自由で開放的な雰囲気が、テナントの活力を刺激し、賑わいを一層盛り上げる効果を生んでいるのでしょう。

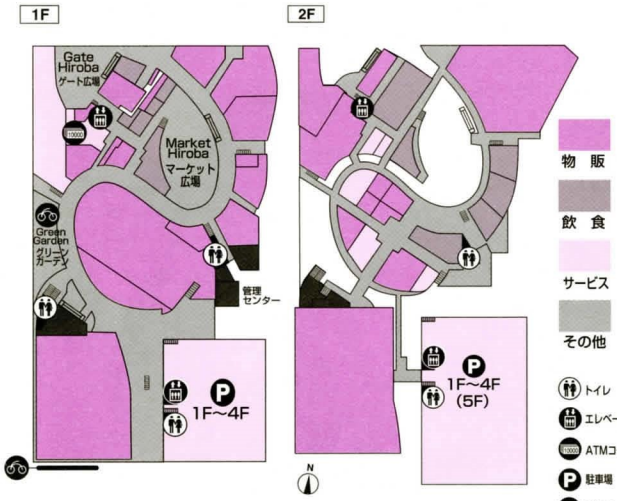
地元への波及効果も続々！

いわゆるオープン景気が去った後も、土・日には6万人、平日でも1万人以上の人が訪れているとのことで、すでに、年間来場者数400万人、年間売上100億円という目標を軽く達成しそうな勢い。

それほどの施設でありながら、駐車場の収容台数はわずか410台と、延床面積を考えてもかなり少なめですが、「仮に、2000〜3000台する駐車場があったとしても、かえって交通渋滞を大きくするだけ。充分な市場があるわけですし、遠方から人を呼ぼうとは考えなかった」とのこと。実際、徒歩や自転車で訪れる人が多く、現状では渋滞による問題もそれほど大きくなっていないようです。

地元では今、「夜、暗くて人通りもない地区だったのに夜間も明るくなった」、「土・日休業していた周辺の飲食店等が定休日をサンストリートに合わせるようになった」など、うれしい波及効果が現れ始めており、地域密着型施設としての期待度も、ますます大きくなっている様子。15年の中期利用という点が気になりますが、15年後にやめるのではなく、見直すという考え方だとか。

ともあれ、順風満帆のスタートを切った『サンストリート』。その背景には、人口密集地という亀戸の恵まれた立地環境があります。しかし、『サンストリート』が挑んだ「次世代商店街」への様々な取り組みが、大きな力となっていることも間違いありません。それは、新しい商業施設の在り方が模索される現代に、大きなヒントを投げかけているのではないでしょうか。





●概　要

所在地	東京都江東区亀戸6-31-1
敷地面積	24,520㎡
建築面積	15,871㎡
延べ面積	37,855㎡
構造・階数	S造・地上2階（店舗棟）、地上5階（駐車場棟）

●利用案内（原　則）

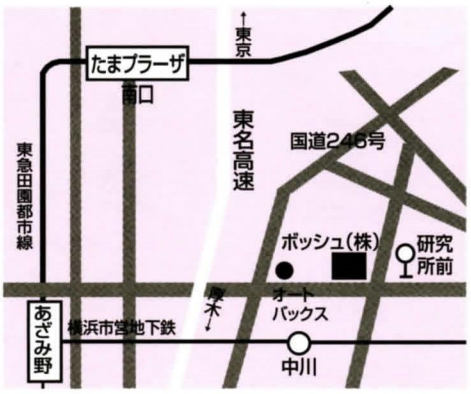
開館時間	午前10時〜午後8時（物販店） 午前11時〜午後11時（飲食店）
休館日	第1・第3水曜日
電　話	03-3681-0313

THE INFORMATION

港北NTの新アートスペース発見！
ボッシュセンターで絵画展開催中。

都筑区牛久保に研究所を持つドイツの総合電機メーカー、ボッシュ株式会社では、地域文化活動のひとつとして昨年7月から1年間の予定で4人の作家による絵画展を開催しています。今年1月からはそのシリーズ第3弾として川辺耕一氏の作品を展示中。一般公開日は3月7日(土)、3月28日(土)の2日間となっています。

4月からは、シリーズの最後を飾る第4弾も開催予定。入場は無料。地元で気軽に楽しめる現代アート、お見逃しなく。



●場　所：ボッシュセンター1階アトリウム
横浜市都筑区牛久保3-9-1
●時　間：AM10:00～PM4:00
●交　通：新玉川線たまプラーザより、すみれが丘・新北川橋・センター北駅・センター南行きバスで研究所前下車。鷺沼駅よりタクシーで5分。横浜市営地下鉄中川駅より徒歩10分。
●問い合わせ先：
ボッシュ(株)広報室 TEL.045-912-8102

街づくり通信 VOL.7

平成10年2月発行
街づくり通信編集室
〒224-0006
横浜市都筑区荏田東4丁目10番3号
財団法人 港北ニュータウン生活対策協会内
TEL.045(942)8745FAX 045(942)8972

編・集・後・記

◆本号の表紙写真は、「港北NTの子供たち」がテーマ。被写体を求めて港北NTの街をぶらぶら歩くと、さすがは、人口の一割近くを10歳以下の子供たちが占める港北NT。あちこちで、元気な子供たちの笑顔に出会いました。そのいきいきとした表情で、港北NTの明るい未来を感じることができるような気がしませんか。

◆さて、「街づくり通信」では、表紙に掲載する写真を公募したいと思います。港北NTの“今”と“未来”を感じさせてくれる写真なら、どんなものでもOK。モノクロ・カラー、サイズも問いません。ふるってお寄せください。街づくり通信に対するご意見・ご希望・ご感想等もお待ちしております。

街づくり通信編集室　一同



新たな街づくりの視点を求めて

このたび、財団法人　港北ニュータウン生活対策協会の常務理事を拝命いたしました。

横浜市在職中は、社会・障害福祉ならびに教育行政等のいわゆるソフト面に長く携わりましたことから、都市計画や道路といった街づくりの分野は未経験でございます。したがいまして、極力地域に出向きまして、より多くの地権者の皆様等と接触することにより、地域の現状とニーズの適確な把握に努めていきたいと考えております。

さて、財団法人港北ニュータウン生活対策協会は、本年で設立17年の春を迎えましたが、現今の内外をとりまく環境の変化は激しく、かつ厳しいところであります。

しかし、設立当初の基本理念に則り、地権者の皆様へのより良いサポートの推進を図るとともに、新しい視点から、この港北ニュータウンに共生する新・旧住民の方々との連帯感の醸成に努める等により、各種の施策を積極的かつ効果的に展開してまいりたいと考えておりますので、役員の皆様をはじめ、多くの関係者の方々のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



財団法人
港北ニュータウン生活対策協会
常務理事　小松原　正夫

年4回発行　平成10年4月発行

KOHOKU 街づくり通信 NEW TOWN

港北ニュータウンのセンター街づくり情報紙

'98 SPRING　VOL. 8



特　集

この春、話題集中！待ちに待った大型商業施設オープン！
港北NTを一気に盛り上げる
『ショッピングタウンあいたい』&『港北東急百貨店S.C.』

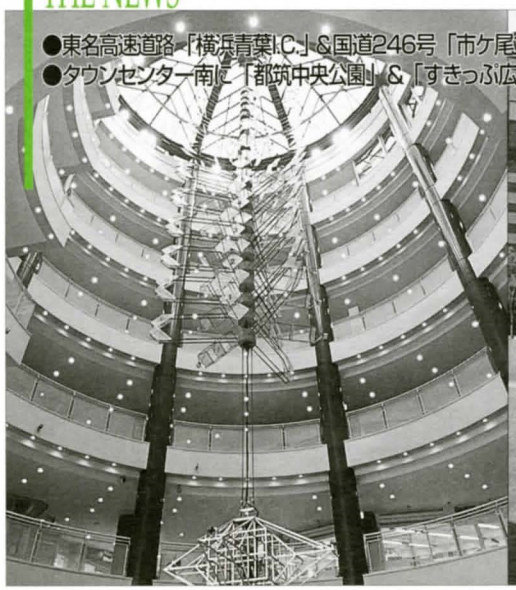
港北ニュータウン データすくらんぶる
タウンセンター ビルトアップ&便利MAP



▲ショッピングタウンあいたい　▼港北東急百貨店S.C.

THE NEWS

●東名高速道路「横浜青葉I.C.」&国道246号「市ケ尾立体」開通！
●タウンセンター南に「都筑中央公園」&「すきっぷ広場」オープン！





KOHOKU.NT. DATA
人口/約89,900人・世帯数/31,300世帯
平成10年3月末日現在(区画整理地区内)

発　行：財団法人　港北ニュータウン生活対策協会
編集協力：横浜市都市計画局／住都公団　神奈川地域支社　港北開発事務所

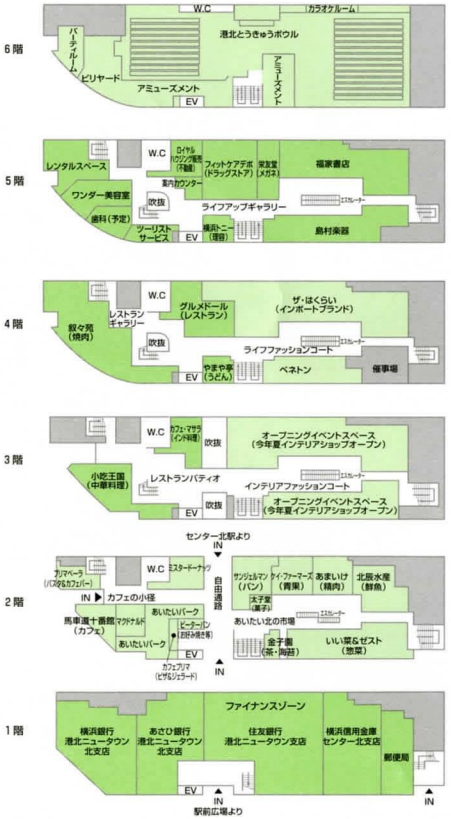
Special Issue
特　集

この春、話題集中！待ちに待った大型商業施設オープン！
港北NTを一気に盛り上げる『ショッピングタウンあいたい』&『港北東急百貨店S.C.』

港北ニュータウンのセンター北駅前に『ショッピングタウンあいたい』が、センター南駅前に『港北東急百貨店S.C.』がこの春相次いでオープン。この２つの大型商業施設は、港北NTはもちろん首都圏を含めた広域の話題をさらい、港北NTの知名度をも一気に盛り上げてくれる新名所。その見どころ、楽しみ方をご紹介しましょう。



ショッピングタウン あいたい
センター北駅直結！40の専門店を集めた素敵発見・生活利便館



4月8日、午前10時のオープンを待ちきれず、早朝からエントランスに長蛇の列がつくられた『ショッピングタウンあいたい』。初日の来館者数は約6万人。各店で行なわれたオープニングセールにはそれぞれ黒山の人だかりができ、入場制限も行なわれる大盛況となりました。

“素敵発見・生活利便館”をテーマとする『あいたい』は、地下4階・地上6階、延床面積約3万㎡。市営地下鉄3号線センター北駅と直結しており、地下1～2階に地下駐車場（約110台）を備え、駅前地下駐車場（約520台）とも地下で直結と、アクセスは最高。ここに、ファッション、レストラン、生鮮3品、ブランドショップ、インテリアショップ、ボウリング場、書店、銀行に郵便局など、駅前にあったらいいなと思う約40の専門店が揃っています。その中身をのぞいてみましょう。

まず、1階は都市銀行と地方銀行、信用金庫の計４つに、郵便局まである<ファイナンスゾーン>。ATMだけでなく、窓口業務も行なっている金融機関がこれだけ揃っているというのは、他のS.C.や百貨店ではちょっと考えられない便利さです。



▲ザ・はくらい／ドルでも買物OK。海外で買うよりお得な品も発見可能！



▲あいたい北の市場／評判の生鮮3品を扱う店は、毎日新鮮、毎日お得。



▲島村楽器／様々な楽器や楽譜が豊富に揃っているほか、練習スタジオや音楽教室もあり、音楽ファン必見の店。

市営地下鉄3号線の改札を抜けてすぐの2階は、気軽にひと息入れられる<カフェの小径>と<あいたい北の市場>。管理・運営会社(株)港北都市開発センターの開発企画部　開発課長　作花さんが「舌のこえた港北NTの人々を満足させるこだわりの品揃えと安さが自慢」と胸を張る市場は、業界きってのカテゴリーキラー『魚の北辰』をはじめ生鮮3品のほか、惣菜、焼き立てパン、和菓子、本場のお茶と海苔の店など、毎日のお買い物に便利なお店が揃っています。



▲カフェ・マサラ／土鍋で半日以上煮込んだカレー、スパイシーなカバブやタンドリチキンのほか、20種類ものナンやパンが自慢。「辛いだけがカレーじゃない」というシェフの言葉通り、ランチのカレーはちっとも辛くないのにスパイシーな絶品。辛好みの方は「ホットで」と注文してください。

3～4階は<レストランパティオ><レストランギャラリー>と<ライフファッションコート>のフロア。レストランは、食材やサービスにこだわり抜いた店が勢揃いしており、日本で初めてのインド家庭料理を楽しめる『カフェ・マサラ』や、自然・天然の素材を厳選した手打ちうどんの『やまや亭』など、『あいたい』でしかお目にかかれない店・味も発見できます。

また、<ライフファッションコート>の目玉と言えば、初日の超お買い得オープニングセールで話題をさらったインポートブランドショップ『ザ・はくらい』。よくあるインポートディスカウントショップとは違い、落ち着いた雰囲気の中でじっくり品選び可能で、目の肥えたバイヤーが集めた商品が豊富に揃っています。

5階は、書籍、メガネ、楽器の店のほか、美容・理容室、不動産屋、旅行代理店、ドラッグストアなどのテナントを集めた<ライフアップギャラリー>。

そして、6階は、港北NT唯一のボウリング場である『港北とうきゅうボウル』。最新オートレーンシステムはもちろん、ゆったりとしたスペースも好評で、カラオケ、ビリヤード、ゲームも楽しめます。この夏には、3階に<インテリアファッションコート>もオープン予定。リーズナブルでおしゃれなアメリカンテイストのインテリア・雑貨を扱うということで、これもまた注目度大です。

オープン直後から、地域の人々にとって“なくてはならない施設”となった『あいたい』。オープニングセール終了後も安定した来館者数を記録しており、目標年商50億も軽く達成しそうな好調ぶり。また、センター北駅の乗降客数も飛躍的な伸びを示しており、今後、タウンセンター北全体の熟成にも様々な形で貢献していくに違いありません。


▲港北とうきゅうボウル／24レーン・オートスコアシステム整備。全レーンノンガター式なので、初心者でも楽しめます。


▲駅舎2階にある『ザ・ダイソー100円プラザ』『カメラはスズキ』、『ボニークリーニング』、『パパフラワー』『ありあけ』の5店は、『あいたいメイト』という名の『ショッピングタウンあいたい』の兄弟たち。知ってましたか？

★毎日“あいたい”地域密着型の施設です。
(株)港北都市開発センター　開発企画部開発課長　作花章雄さん



『あいたい』は名称やキャッチフレーズも一般公募していますし、オープニングイベントでも、オリジナルトートバッグデザインを公募。さらにその人気コンテストを行なうなど、地域参加型のイベントを次々と企画してまいりました。

それは、百貨店や普通のショッピングセンターとはひと味もふた味も違う、地域密着型のショッピングタウンならではの気軽さ、便利さ、楽しさを味わっていただきたかったからです。ひとつひとつのお店がそれを意識に置き、親しんでいただけるサービスを心掛けています。銀行へ行って所用を済ませたら、ボウリングを楽しんで買物をし、疲れたらお茶を飲んで一息。夕方になったら、お惣菜を買って帰るもよし、待ち合わせしてディナーするもよし。どうぞ、毎日“あいたい”施設として、長いおつきあいをよろしくお願いいたします。

●お問い合わせ：045-913-7123
●営　業　時　間：10:00～22:00（店舗によって異なります）
●ア　ク　セ　ス：電車／横浜市営地下鉄3号線センター北駅より徒歩0分。
車／第３京浜都筑インター、東名横浜青葉インター下車10分。
●駐　車　場：約110台（センター北駅前地下駐車場(約520台)と地下で直結）

港北 東急百貨店 S.C.



首都圏では、最大規模のスケールと楽しさ！1日中いても飽きないS.C.。

ゴールデンウィーク目前、4月25日にオープンしたのが、『港北東急百貨店S.C.』。「東京はせまい！」というオープン告知広告コピー通り、地下1階・地上7階、延床面積約10万5千㎡という規模は首都圏でも最大規模。「街づくり通信」では、管理運営会社㈱T.M.D.の許可を得て、オープン直前の施設内を視察。それでは、その概要をレポートしましょう。

センター南駅前に広がる広場に面したエントランスは、ワキにオープンカフェがある小粋なつくり。中に足を踏み入れると、そこは6階まで吹き抜けのセンターモールとなっており、中央には高さ約23mのからくり時計が。さらに奥へと進むと、施設内は、西側を占める港北東急百貨店と、東側を占める78店の専門店街で構成されています。

ライフスタイル提案型のキーテナント・港北東急百貨店

百貨店の特徴は、個性・潤い・暖かさを盛り込んだライフスタイル提案型の品揃え。たとえば、地下1階の食料品売場には、安全・健康・自然をキーワードに、有機無農薬栽培の新鮮な食材や、ノンアレルギーフードなどを扱うコーナーを設けており、ワインやチーズも豊富。さらに4階には、高感度な日常生活のためのインテリアや家庭用品・雑貨スペースとして、約3千㎡もの売場面積を確保しています。

また、新世代ファミリーを強く意識しており、子供洋品雑貨も充実。女性用トイレだけでなく、一部男性用トイレにも、おむつ換え用ベッドが設置されているというのも、うれしい配慮のひとつと言えるでしょう。

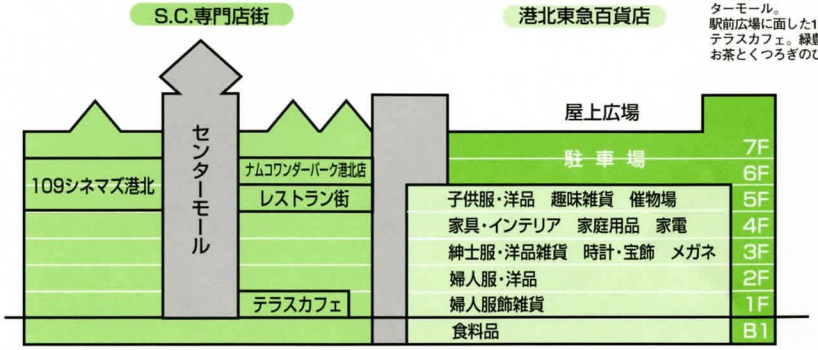
スペースゆったりの大型店揃い！78の専門店

さて、専門店街では、家庭雑貨の『無印良品』、家電の『ラオックス』、書籍の『リブロ』などの大型店を、キーテナントの百貨店に対するサブキーテナントとして配置。このほか、人気ブランドショップを集めた<アパレルゾーン>や、ディズニー、ワーナー・ブラザーズなどのキャラクター商品を集めた<キャラクターゾーン>も、「他の百貨店やS.C.の店舗に比べ、約2〜3倍は広いという大型店ばかり」（田中祥二店長）とか。

また、5階のレストランフロアでは、日本料理、中国料理、イタリア料理、インド料理、フレンチなど、バラエティ豊かな13店を展開。味は太鼓判、しかし価格はリーズナブルというのが特徴で、家族4人で1万円もあれば充分おさまるように設定されています。



▲高さ約23mのからくり時計がそびえ立つセンターモール。駅前広場に面した1階部分には、おしゃれなテラスカフェ。緑豊かな公園を眺めながら、お茶とくつろぎのひとときを楽しめます。



これらの専門店は、エントランスホールでもあるセンターモールを中心に、東西に伸びた吹き抜けモールを囲むようにして並んでおり、各々が出入口を持つ独立したスペース。また、冷暖房は店舗内でのみ行なっており、通路はほぼ自然の環境に近い状態。雨に濡れることはないものの、冬はコートを来たまま、夏は少し汗ばみつつ歩くという具合で、このあたりは、まるでハワイのショッピングモールを思わせる設計と言えるでしょう。

専門店街の大注目スポット、シネマコンプレックス&アミューズメントパーク

さて、専門店街の中でも最も注目度が高いのが、370席〜80席までの大小計7つのシアターからなるシネマコンプレックス『109シネマズ港北』。おもしろい映画なら配給系列を問わず積極的に上映する方針のため、話題のロードショー作品が全てここに終結するというのも充分ありえる話。しかも、座席数のみチケットを販売するため、立ち見なし。座席も前後の間隔がかなりゆったりとしていて、全席ドリンクホルダー付き、ペアシートも設置と、うれしい配慮満載です。

もうひとつ、シネマコンプレックスと並んで前評判が高いのは、『ナムコワンダーパーク港北店パックマンスタジオ』。シネマスタジオを環境モチーフにしたミニテーマパークで、単なるゲームセンターではない、大人も楽しめる施設となっています。

この他、銀行、不動産、旅行代理店、エステティックサロンや美容室などもあり、「楽しさ」に「便利さ」をプラス。S.C.というより“ひとつの街”といった感覚で、1日遊んで楽しめる施設です。





▲109シネマズ港北／大小7つのシアターを併設。ロビーはオープンスペースで6つのモニターが設置されており、チケットを買わなくても幅広いシネマ情報を得られます。

売上目標は年商300億円。当然、首都圏を含め広域からの集客を想定しており、駐車場は約1300台の専用駐車場を確保。周辺の駅前地下駐車場（約590台）も利用可能です。オープン初日からゴールデンウィークにかけてどれほどの人が集まるのか、楽しみなところです。





▲▶ナムコワンダーパーク港北店パックマンスタジオ／アトラクション3種類、スタジオ4種類、ゲームマシン150台のほか、飲食店も設置。

★全ておすすめテナント！楽しみ方無限・満足度120%のS.C.です。

港北東急百貨店S.C.店長　田中祥二さん



見どころはどこか？と聞かれても、お答えしようがないほど、百貨店はもちろん、専門店街も全ておすすめテナントばかり。1店でもお客様を呼ぶパワーのあるテナントが勢揃いしています。当然、楽しみ方は無限。家族で来て、エントランスで解散し、みんな好きなところへ行って帰りに集合なんていうのもいいかもしれませんね。

とにかく、その楽しさとスケールは、口で説明するより実際に見ていただくのが一番。一度ここへ来たら、都心の狭い商業施設なんて行く気がしなくなってしまうくらい、ゆったり広々としていて、思いきり楽しめるはず。ご家族で、カップルで、ぜひお越し下さい。お待ちしています。

●お問い合わせ：百貨店／045-944-6111
専門店／045-944-5111
●営　業　時　間：百貨店／10：00〜20：00
専門店／11：00〜21：00（1階のみ10：00〜21：00）
5階レストラン／11：00〜22：30（年中無休）
6階109シネマズ港北／10：00〜24：00（年中無休）
6階ナムコワンダーパーク港北店・パックマンスタジオ／11：00〜23：00（年中無休）
●ア　ク　セ　ス：電車／横浜市営地下鉄3号線センター南駅より徒歩1分。
車／第3京浜都筑インター、東名横浜青葉インター下車約10分。
●駐　車　場　：約1300台（センター南駅前地下駐車場（約590台）も利用可能）

港北ニュータウン データすくらんぶる

タウンセンタービルトアップ＆便利MAP

2つの大型商業施設のオープンによって、熟成へ向けて急速に動きだした港北NTの「センター北」と「センター南」。そのビルトアップ状況と、この街をもっともっと楽しむために便利な駐車場、一方通行情報などをご紹介します。

■出店状況（1998年4月8日現在）

※業務系テナントは含まれていません。 ※4月25日オープンの港北東急百貨店S.C.とそのテナントは含まれていません。

- ●飲食 …… 39
- ●スーパー・ショッピングセンター …… 3
  （ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞﾀｳﾝあいたい含む）
- ●ベーカリー …… 2
- ●菓子 …… 3
- ●鮮魚・精肉 …… 2
- ●野菜・フルーツ …… 1
- ●惣菜・弁当 …… 1
- ●お茶・海苔 …… 1
- ●メガネ …… 4
- ●花 …… 4
- ●書店 …… 1
- ●薬局 …… 3
- ●はんこ …… 1
- ●CD・ゲームソフト …… 1
- ●楽器・貸スタジオ …… 1
- ●ホビー …… 1
- ●インテリア（カーテン） …… 2
- ●家電 …… 1
- ●ペット …… 2
- ●衣料・雑貨 …… 5
- ●アミューズメント
  （ゲーム・パチンコ・麻雀・ボウリング） …… 4
- ●スポーツクラブ …… 1
- ●クリーニング …… 3
- ●ギャラリー …… 2
- ●写真・カメラ …… 3
- ●美容室・理容室・エステサロン …… 14
- ●旅行代理店 …… 1
- ●医療施設等（マッサージ等含む） …… 11
- ●カルチャー …… 2
- ●チャイルドケア（保育室等） …… 8
- ●塾 …… 6
- ●銀行・信用金庫・郵便局（CD含む） …… 14
- ●不動産 …… 12
- ●会計・税理・司法・行政書士事務所 …… 4
- ●民間車検場 …… 1

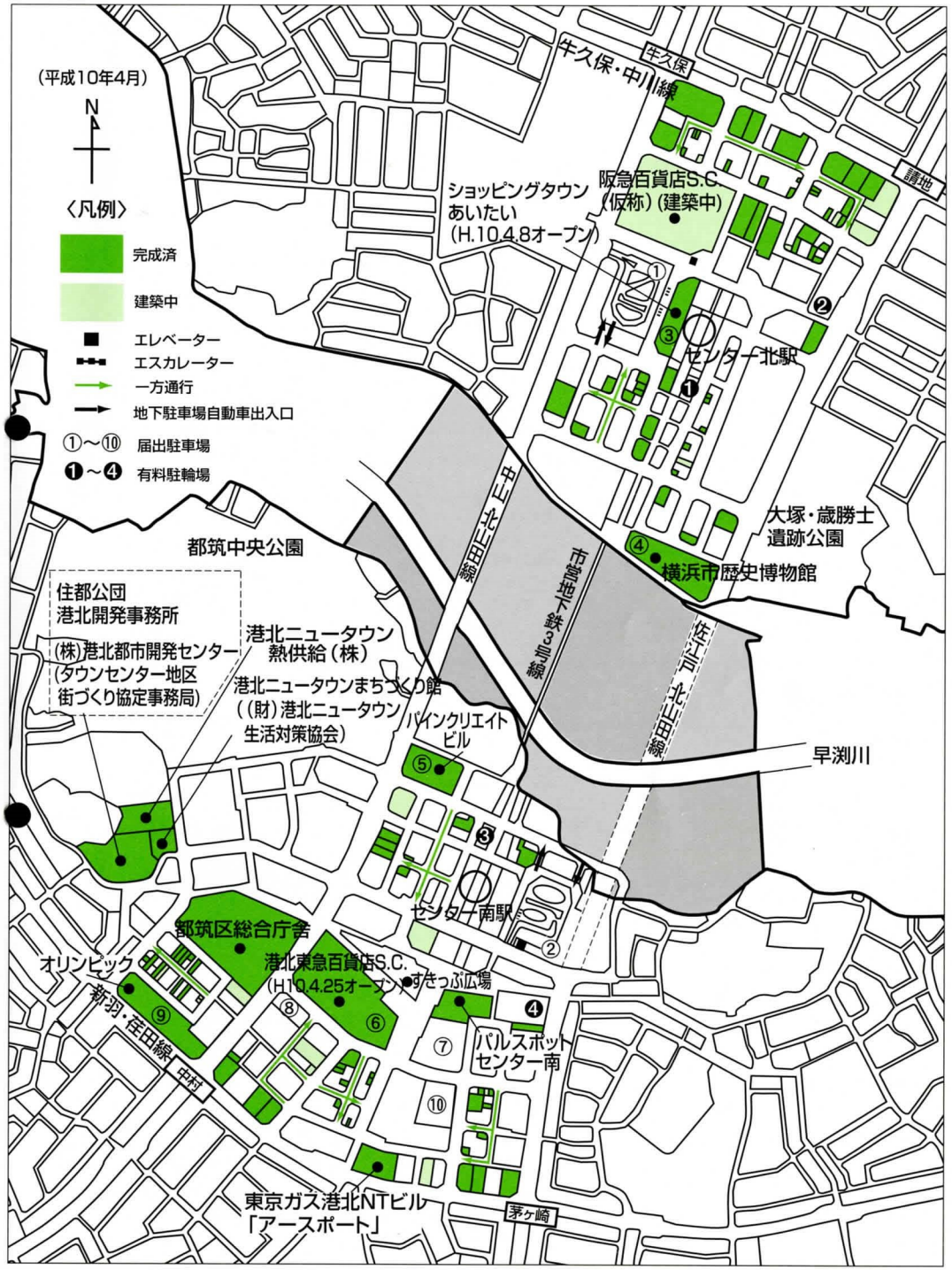
■届出駐車場一覧

※届出駐車場は、都市計画区域内に設けられ、駐車の用に供する部分の面積が500㎡以上で、一般公共の用に供される有料駐車場として届出されたものです。

NO.	名称	台数	駐車形式	休日	営業時間	料金など	電話番号
①	ｾﾝﾀｰ北駅前地下駐車場	516	地下自走	無休	8：00～24：00	1時間まで300円　以降30分毎に150円 店舗によりﾁｹｯﾄﾊﾞｯｸ有	045-913-8464
②	ｾﾝﾀｰ南駅前地下駐車場	591	地下自走				045-943-0684
③	ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞﾀｳﾝあいたい駐車場	110	地下自走	無休	8：00～24：00	1時間まで300円　以降30分毎に150円 店舗によりﾁｹｯﾄﾊﾞｯｸ有	045-913-8464
④	横浜市歴史博物館	42	平面機械	月・祝日の翌日	9：00～17：00	400円/2時間　以降30分毎に100円	045-912-7777
⑤	パインパーク(ﾊﾟｲﾝｸﾘｴｲﾄﾋﾞﾙ)	230	立体自走	無休	24時間	150円/30分　店舗によりﾁｹｯﾄﾊﾞｯｸ有	045-942-8198
⑥	港北東急百貨店S.C.	1042	立体自走	無休	10：00～24：00	150円/30分　店舗によりﾁｹｯﾄﾊﾞｯｸ有	045-944-5111
⑦	港北東急百貨店S.C.専用第1	144	平面自走	無休	24時間	150円/30分　店舗によりﾁｹｯﾄﾊﾞｯｸ有	045-944-5111
⑧	港北東急百貨店S.C.専用第2	50	平面自走	土・日・祝のみ営業	10：00～21：00	150円/30分　店舗によりﾁｹｯﾄﾊﾞｯｸ有	045-944-5111
⑨	センター南共同ビル(ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ)	470	立体自走	無休	10：00～20：00	1000円/回　ﾁｹｯﾄﾊﾞｯｸ有	－
⑩	パルスポットセンター南駐車場	123	平面自走	無休	8：00～24：00	150円/30分　店舗によりﾁｹｯﾄﾊﾞｯｸ有	045-943-2466

■有料駐輪場

番号	名称	台数	休日・営業時間	料金	電話番号
❶	センター北第1駐輪場	352	無休 24時間	◆月　極／自転車：1500円/1カ月　4300円/3カ月 バイク：2000円/1カ月　5700円/3カ月 ◆1日利用／自転車・バイクともに100円/1日	横浜交通開発(株) センター南分室 045-941-0238
❷	センター北第2駐輪場	517			
❸	センター南第1駐輪場	313			
❹	センター南第2駐輪場	411			

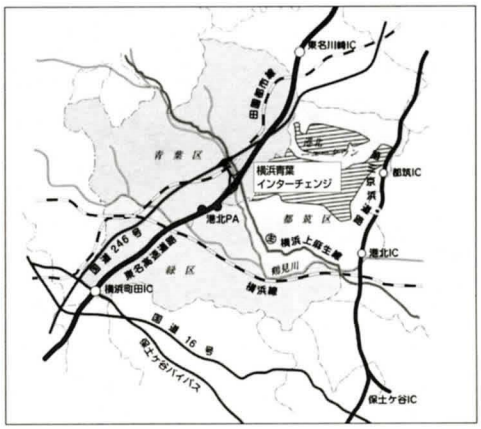


THE NEWS

東名高速道路「横浜青葉I.C.」&国道246号「市ケ尾立体」開通！

去る3月20日、東名高速「横浜青葉I.C.」と国道246号「市ケ尾立体」の開通式が開催されました。

「横浜青葉I.C.」は、東名高速の中でも出入り交通量が集中し混雑が著しい「東名川崎I.C.」と「横浜町田I.C.」ならびに、その周辺の交通渋滞対策として、さらに、港北ニュータウンなど大規模な住宅開発が進行する横浜北部の交通対策として、横浜市など地元の強い要望を受け、平成元年1月の第28回国土開発幹線自動車道建設審議会において整備計画が策定され、開発されたもの。



また、「市ケ尾立体」は、国道246号の横浜市青葉区市ケ尾交差点を立体化する事業で、「横浜青葉I.C.」のアクセス道路として立体化部分がインターチェンジに直結しています。この度の開通により、東名高速の「東名川崎I.C.」と「横浜町田I.C.」、国道246号や主要地方道・横浜上麻生線の混雑緩和が期待されます。なお、これまで約37分程度かかっていた港北NT内の都筑区役所から「横浜町田I.C.」までの所要時間は、約18分程度に。これまで約22分程度かかっていた青葉区若草台から「東名川崎I.C.」までは約12分程度に短縮されました。

街づくり通信 VOL.8

平成10年4月発行
街づくり通信編集室
〒224-0006
横浜市都筑区荏田東4丁目10番3号
財団法人 港北ニュータウン生活対策協会内
TEL.045(942)8745 FAX.045(942)8972

編・集・後・記

◆ここ数カ月、市営地下鉄3号線のセンター南・センター北駅の乗降客数は、上向きの大きなカーブを見せてきましたが、センター北駅はショッピングタウンあいたいのオープンにより、オープン前に比べ約3割程度も増加。センター南も、港北東急百貨店S.C.のオープンにより、急激に増加することが予想されます。そのデータも間もなく掲載予定ですので、お楽しみに。

◆さて、「街づくり通信」では、表紙に掲載する写真を公募しています。港北NTの“今”と“未来”を感じさせてくれる写真なら、どんなものでもOK。モノクロ・カラー、サイズも問いません。ふるってお寄せください。街づくり通信に対するご意見・ご希望・ご感想等もお待ちしております。

街づくり通信編集室　一同

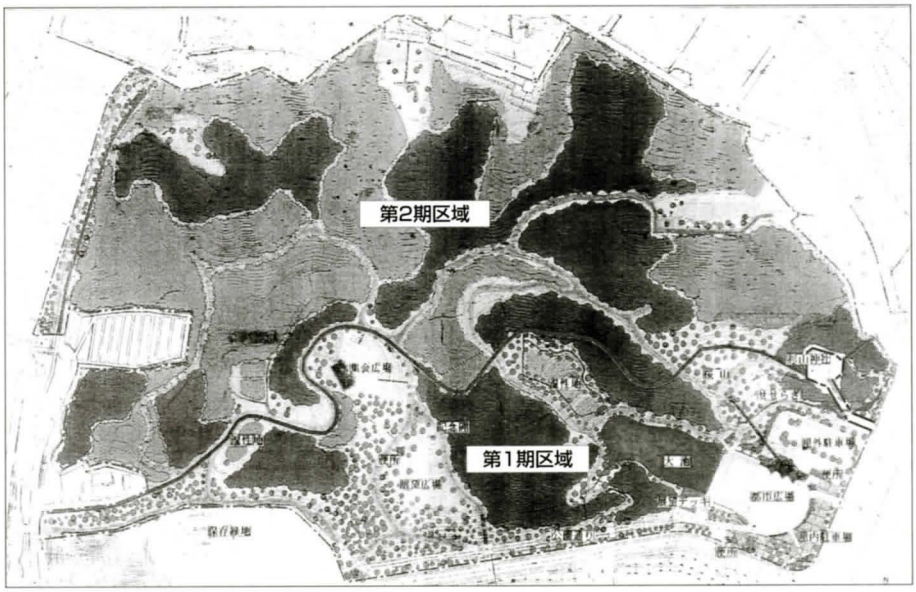
タウンセンター南に、「都筑中央公園」&「すきっぷ広場」オープン！

4月29日、都筑中央公園（第1期区域）と、センター南駅前の「すきっぷ広場」が同時オープンしました。

都筑中央公園は、センター南駅から徒歩5分の場所に位置する、区内でも最も大きな公園。また、「緑の環境を最大限に保存するまちづくり」を進める港北ニュータウンのグリーンマトリックスシステムの中心的な公園でもあります。

総面積約18.9haのうち、今回オープンするのは南側の第1期区域・約6.4ha。各種イベントに対応できる「都市広場」や、湧水を有効活用した「大池」、ヤマザクラの名所となる「桜山」など、見どころも盛りだくさん。第2期区域については、平成13年度完成を目標に、区民と行政のパートナーシップによって基本計画を検討中です。

センター南駅前の「すきっぷ広場」は、風が運ぶ木や草の香り、木漏れ日のまぶしさ、水音のやさしさなど、自然の豊かさを五感の全てで感じられるよう設計された広場。木肌の美しいウッドデッキの階段広場を中心に、変化に富んださまざまな空間がつくられており、憩いとやすらぎのある都会のオアシスとして、都筑中央公園と同様、都筑区の新しいスポットとなりそうです。



■ お 知 ら せ ■

タウンセンター地区街づくり協定の事務局がある『(株)港北都市開発センター』は、平成10年4月27日より住都公団港北開発事務所の建物内に移転いたします。（※事務局の電話番号は変更ありません。）
TEL.045-943-2470

年4回発行　平成10年7月発行

KOHOKU 街づくり通信 NEW TOWN

港北ニュータウンのセンター街づくり情報紙

'98 SUMMER VOL.9

特　集

まる1日楽しめるスポーツ&リラクゼーション施設

北山田に新名所誕生！**横浜国際プール**

データすくらんぶる
市営地下鉄3号線 各駅1日当たりの乗車人員、港北NTに住む人に聞きました！ ほか

Catch up！THE 港北NT
魅力ある街づくりへの仕掛け人『仲町台商業振興会』

THE INFORMATION
第2回ヨコハマ都市デザインフォーラム
アジア太平洋21世紀都市会議開催！ ほか



▲横浜国際プール／ジャグジーコーナー



▲仲町台の夏まつり（グルメフェスタ '98・イン・仲町台）の子供御輿



▲夏まつりで賑わう仲町台駅前

KOHOKU.NT. DATA

人口/約92,600人・世帯数/32,300世帯
平成10年6月末日現在(区画整理地区内)

発　行　：財団法人　港北ニュータウン生活対策協会
編集協力：横浜市都市計画局／住都公団 神奈川地域支社 港北開発事務所

Special Issue
特　集

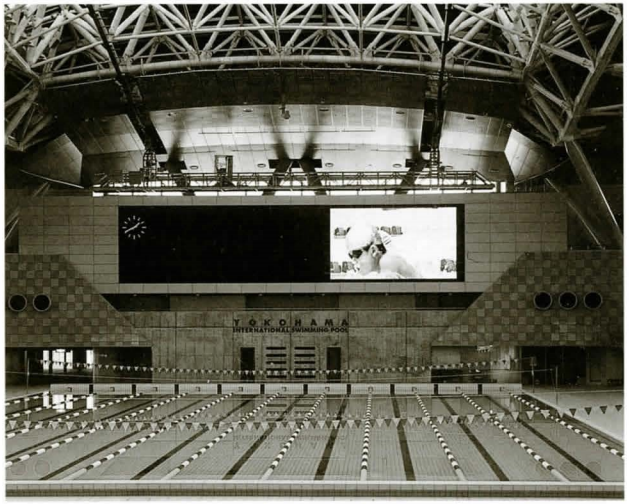
北山田に新名所誕生！

まる1日楽しめるスポーツ&リラクゼーション施設

YOKOHAMA INTERNATIONAL SWIMMING POOL 横浜国際プール



去る7月4日、港北NTの北山田に横浜国際プールがオープンしました。この施設は、横浜市の総合計画「ゆめはま2010プラン」の中で、市民が育てる国際的なスポーツ拠点として計画されたもの。9月に行なわれる「かながわ・ゆめ国体」夏季大会をかわきりに、数々の国内・国際大会の舞台となる予定です。市民がまる1日楽しめるさまざまな施設・設備も充実。この夏、港北NTで最もホットなスポットのひとつとなりそうです。



▲メインプール。冬期は、ダイビングプールと合わせて約3,320m²のアリーナに変貌。



●センター北駅よりバス6分東急バス横浜国際プール行きまたは東山田営業所行き、「横浜国際プール」下車
●車の場合は第三京浜「都筑インター」から約6分
東名高速「横浜青葉インター」から約12分

市民の期待を集めて誕生！ 9月に「かながわ・ゆめ国体」開催！

横浜国際プールが位置するのは、北山田の丘陵地。日本最大級の規模と設備を誇る室内水泳競技場とあって、平成8年1月に着工以来、市民の大きな期待と関心を集めてきました。

7月4日のオープン記念式典には、一般公募で選ばれた市民をはじめ、約3,500人が招かれ、多数のマスコミにも取り上げられて大盛況のスタート。6日からいよいよ一般公開されました。夏休み前であったにもかかわらず、オープン直後から週末には1日約2,500人以上が訪れる人気ぶりで、すでに港北NT注目のスポットとなっています。

平成15～16年頃には、現在建設準備中の横浜市営地下鉄4号線が開通し、すぐ目の前に北山田駅が開業する予定。港北NTの名を全国に知らしめる施設として、また、北山田駅前センターの核施設のひとつとしても期待されています。

会員制スポーツクラブ並みのスポーツ施設充実！庭園散策も堪能！

館内には、メインプール、ダイビングプール、サブプールの3つのプールがあります。メインアリーナには、50m×10コースのメインプールと、25m×25m・水深5mのダイビングプールが併設されており、観客席は約4,000席。臨場感たっぷりに競技を楽しめるよう、全体に低い位置に設置されており、最前面はガラス張り。また、前面の壁には大型電光表示装置と映像表示装置が整備され、巨大な画面で映像と記録を同時に見ることができます。

メインプールの床は可動式になっており、水深を0～3.5mまで調節可能。オフシーズン（11月～3月）には、メインアリーナ全体がスポーツフロアに転換され、テニスコートなら5面、バレーボールやバスケットコートなら4面、バドミントンコートなら20面がとれるアリーナへと変貌します。その広さは3,320m²で、なんと横浜文化体育館の約1.7倍。最新鋭の設備を搭載した放送操作室、医務室、役員室も完備されています。



▲サブプール脇のリラクゼーションプール

■施設概要

●所　在　地：横浜市都筑区北山田7-3-1
●敷 地 面 積：75,845.49m²
●建 築 面 積：23,385.98m²
●規模・構造　：地上3階・地下2階・鉄筋コンクリート造
●駐　車　場：約320台
●休　館　日：年末年始（12月29日～1月3日）施設点検日
●利 用 時 間：9時30分～21時30分
※サブアリーナやテニスコート利用の場合、また貸切使用の場合は異なります。詳細はお問い合わせください。
●お問い合わせ：045-592-0453
（財）横浜市スポーツ振興事業団
横浜国際プール

■主な個人利用料金

		2時間	超過料金1時間
メインプール サブプール	おとな	700円	350円
	こども（中学生以下）	350円	170円
トレーニングルーム	おとな	500円	250円
	子供（中学生）	250円	120円

※その他の施設利用料金、貸切利用料金については、お問い合わせください。

大人も子供も大満足！ リゾート気分を味わえる、サブプール。

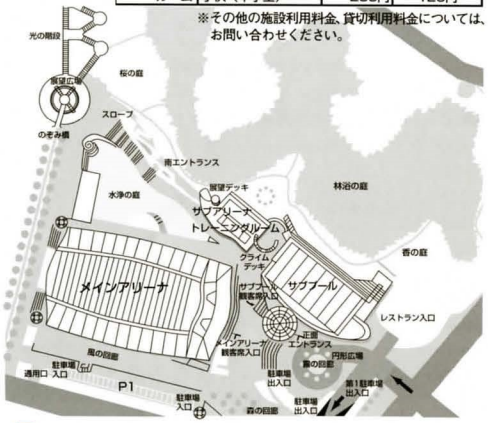
メインアリーナとゆるやかなスロープでつながるサブプールは、50m×8コース。こちらは年間を通して水泳を楽しめる通年温水プールで、半面が0.3～3.5mまで調節可能な可動床、もう半面が2.5mの固定床。観客席は約400席で、国内大会なら充分に対応可能です。



▲約30種の最新鋭マシンがあるトレーニングルーム

ここでの最大の特徴は、リラクゼーションプールを併設しているということ。ジャグジー、ウォーターステーション、プログラムジェットの3種類が設置されており、日頃の疲れを癒し、ゆったりリラックスするには、絶好の場所です。また、冷えた身体を暖めるサウナのような温暖室もあって、泳いだ後のフォローも万全。

もうひとつ注目したいのは、サブプールから自由に出入りできるオープンデッキ。泳ぎ疲れたら、水着のまま屋外へ出て、白いデッキチェアに横たわってひとやすみ。監視員に申し込めば、3階のレストランから軽食をケータリングしてもらうこともでき、ちょっとしたリゾート気分を味わえます。家族で、仲間同士で、さまざまな楽しみ方ができそうです。



最新鋭設備搭載！世界の一流選手が集まるメインプール&ダイビングプール

個人で気軽に利用できる施設としてトレーニングルームも人気の施設。約330m²の広さに最新鋭のトレーニングマシン30種・約50台を完備しており、専任のトレーナーがトレーニングのメニューづくりから、指導まで行なってくれます。室内は庭園に面した壁が総ガラス張りになっており、緑を眺めながらリラックスしてトレーニング可能。初回は安全に効率良く運動を行なうための利用講習会を受けることとなっており、予約が必要なのでお忘れなく。

このほか、バスケットボールコート1面分の広さのサブアリーナをはじめ、多目的ホール、会議室等もあり、いずれも低料金で貸切利用可能。さまざまなコミュニケーションの場としても活用可能。

敷地内には、森の回廊、風の回廊、水の回廊、霧の回廊、記憶の回廊などと名付けられた遊歩道や、水浄の庭、瞑想の庭、香の庭などといったガーデンスペースもあり、夜は一部ライトアップもされて、ロマンチック。さらに敷地西側に広がる保存緑地にも、さまざまな散策コースが連なっています。とても1日でまわりきれない広さですが、訪れるたびに違った楽しみ方ができそう。こちらも、ぜひ、お見逃しなく。



スイミングやアクアビクスのスクールも計画中！ご家族みなさんで、お気軽におこしください。

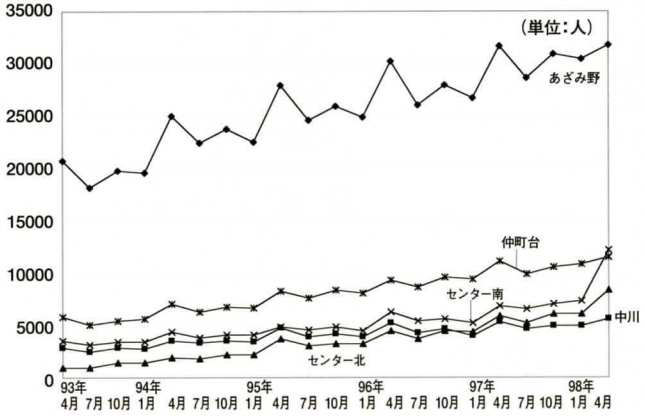
（財）横浜市スポーツ振興事業団
刀祢明　文さん

国際プールということで、競技者向けプールと思っておられる方が多いのですが、小さなお子さんからお年寄りまで安心して泳いでいただけますし、さまざまなスポーツも楽しめます。また、緑もいっぱいで、泳がない人でも充分に楽しむことができると思います。今後は、スイミングやアクアビクスをはじめ、さまざまなスポーツの教室も開こうと、現在計画中。ご期待ください。

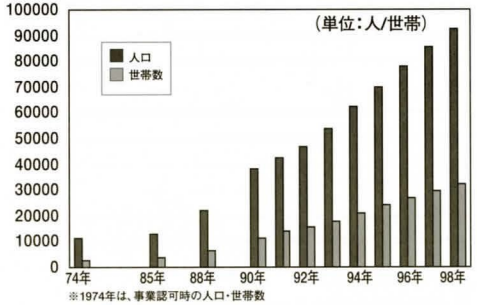
DATA SCRAMBLE

数字で読む港北ニュータウン データすくらんぶる

■市営地下鉄3号線　各駅1日当たりの乗車人員（平成10年4月末日現在）

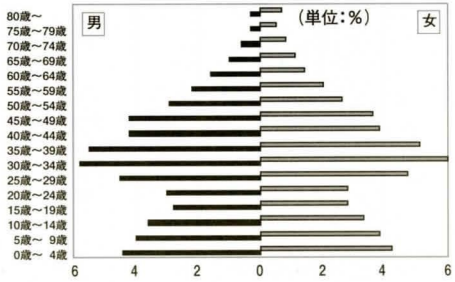


■港北NTの人口・世帯数の推移（平成10年6月まで）



※1974年は、事業認可時の人口・世帯数

■港北NTの年齢別人口構成（平成10年3月末日現在）



SPECIAL INFORMATION

港北NTの街づくりパンフレット発行！



港北NTの街づくりを理解していただくための一助として、事業の概要や建築協定、地区計画、街づくり協議要綱など、街づくり誘導の仕組みをまとめたパンフレットを作成しました。建物づくりを計画する際の参考などにご利用ください。なお、郵送サービスは行なっておりませんのでご了承ください。

●お問い合わせ
横浜市中区港町1丁目1番地
横浜市都市計画局港北ニュータウン部/TEL.045-671-2682

ひと口メモ

●街づくり協議要綱とは？

横浜市では、駅周辺の商業・業務地区や計画的開発地など、都市政策上重要な地区を「街づくり協議地区」に指定し、市民の皆様や企業などの協力を得ながら、より安全で快適な街づくりを目指しています。「街づくり協議要綱」は、その主旨・目的をご理解いただくとともに、協議の際の指針となるようまとめられたもので、法律による規制とは異なります。建物づくりを計画する場合は、調査・企画段階等、できるだけ早い時期から協議をお願いしています。

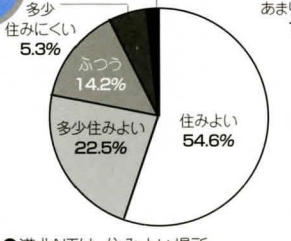
●敷地面積の最低限度をご存知ですか?

港北NT内の第1種および第2種低層住居専用地域では、都市計画法により、敷地面積の最低限度が165m²と定められています。

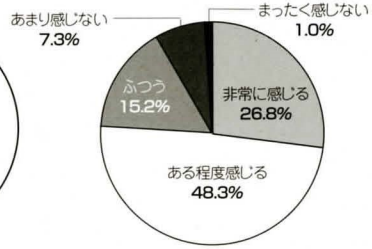
データすくらんぶる アンケート・街頭インタビュー編 港北NTに住む人に聞きました！

アンケート

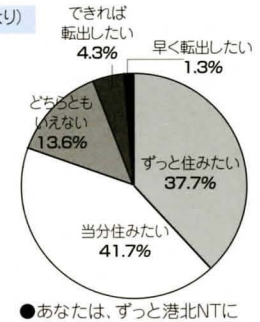
（大妻女子大・社会情報学部人文地理学研究室　平成9年9月調査より）



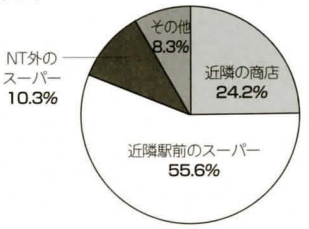
●港北NTは、住みよい場所だと思いますか？



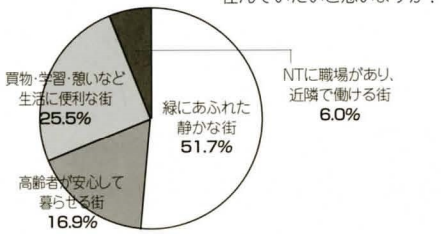
●港北NTに愛着を感じますか？



●あなたは、ずっと港北NTに住んでいたいと思いますか？



●家庭の日常の買い物はどこでしますか？



●将来、港北NTはどの方向に重点をおいて発展していくべきだと思いますか？

街頭インタビュー

（街づくり通信編集室　平成10年7月調査より）



●中川在住　恒川さん
定年後、息子たちの住む横浜へ転居しようと決心。妻がきれいな街並みにひと目惚れして、2年前港北NTへ来ました。交通の便は良いし、散歩コースもたくさんある。永住の地としては最高ですね。



●新栄高校バスケット部の皆さん
小さい頃は、センター南の『オリンピック』のあたりに裏山があって、そこでよく遊んでました。懐かしい場所がなくなったのはちょっと悲しい。プティックとかファーストフードのお店、もっとつくって下さい！



●仲町台在住　加藤さん（中学生）
港北NTに引っ越してきたのは、小1のとき。その頃は本当に何もなかったし、工事現場ばっかりだったから、マンションの広場で遊んでました。今は、公園やきれいな街など、行くところがたくさんできてうれしい。



●勝田在住　鈴木さん
10年前から港北NTに住んでますが、住み心地はどんどん良くなっていきますね。車道と歩道が分離してるから、子供がうろちょろしてても安心という点も、気にいってます。



●仲町台在住　大沢さん
綱島から引っ越してきて、たった2年の間にも、すごく便利になりましたね。でも、一番うれしいのは、駅前に交番ができたこと。港北NTは、まだ交番が少ないので、その点は何とかして欲しいと思います。

Catch-up!
The港北NT

魅力ある街づくりへの仕掛け人

『仲町台商業振興会』



ここ数年で急速に熟成化が進んできた仲町台。去る7月25・26日の2日間、ここで夏まつりが開催され、あいにくの天候にもかかわらず、地域はもとより近隣からも多くの人を集め、大きな盛り上がりをみせました。その仕掛け人となったのは、『仲町台商業振興会』。商業の発展だけではなく、仲町台をより魅力ある街として発展させることを目的に設立された同会は、行政などの関係機関や『街づくり協定運営委員会』との協力・連携によって、街づくりの行方にも大きくかかわるさまざまな活動を展開しています。

街づくりの新しいステップへ踏み出した、仲町台。

仲町台は、平成5年3月に街づくりテーマを「自然と人間」、「ネオクラシック」をデザインテーマ、ふれあいテーマを「花」とする街づくり協定が締結され、同月末に供用開始。その後、地元地権者により組織された『街づくり協定運営委員会』によって街づくりが進められてきました。しかし街の熟成が進むにつれ、街づくりも新たな段階へと前進。商業の活性化や街のさらなる発展を図る必要性が高まり、平成6年6月、『街づくり協定運営委員会』から4人の理事を迎え、『仲町台商業振興会』が発足しました。

「地域の繁栄と振興」「会員の相互繁栄と親睦」「治安秩序の維持」を主目的に掲げる同会では、商店だけでなく、銀行や事務所など、仲町台駅前周辺で事業を行なうすべての事業者を対象に会員を募っており、現在約90社が参加。年1回の総会と毎月1回の役員会を開催してさまざまな活動を展開しています。

発足から2年ほどですが、『街づくり協定運営委員会』や行政などの関係機関に協力、あるいは連携する形で取り組んできた活動も多数。都筑区暴力追放推進協議会に参加して、街の治安維持に協力したり、駐車場問題の検討も積極的に展開。また、NTTバーチャルNタウンのマルチメディア実験にも参加して、企業PRを行なうとともに、マルチメディアを活用した新しい商店経営の方向性も模索しています。

このほか、月に1回の『駅前さわやか清掃』や、昨年からスタートした夏まつり『グルメフェスタ・イン・仲町台』も開催。特に今年で2回目となった夏まつりは、新しく港北NTの住人となった人々の"地元意識"や、ここで生まれ育つ子供たちの"ふるさと感"を喚起する仲町台の夏の行事として、定着していきそうです。

グルメフェスタ'98・イン・仲町台



▲恒例!茅ケ崎八木節保存会と茅ケ崎小学校の皆さんによる八木節。



▶ 豪華商品が当たる抽選会。特等は約20万相当のエアコンとミニコンポ

駅前の特設会場には、"グルメの街"として知られる仲町台らしく、本格的な味が楽しめる模擬店がずらり。ステージでは、茅ケ崎小学児童と茅ケ崎八木節保存会による八木節や、のど自慢、大道芸、フラダンス、地元の子供たちによる子供ダンスやポケモン音頭、「都築音頭」の歌手・一愛(にのまえ　あい)オンステージなどが行なわれ大好評。茅ケ崎祭囃子連中の心踊る太鼓や笛の音が響きわたる中、会場から出発した大人御輿・子供御輿が駅前からグルメ通りへと練り歩き、祭り気分を盛り上げました。初日は雨で中止となった盆踊り大会も2日目には行なわれ、前夜から楽しみにしていた子供たちの、はじけるような笑顔が見られました。



▲あいにくの天候にもかかわらず、会場は大賑わい。

対談
Discussion

熟成過程の街だからこそ実現できた、新しい商業振興会のカタチ。



仲町台商業振興会会長
田中　孝長さん



仲町台商業振興会理事／仲町台・街づくり協定運営委員会委員長
関　義和さん

『街づくり協定運営委員会』との連携は、商業振興会の理想のパターン?!

【関 】新しい街の商業振興会というのは、会員全員が、それぞれに自分の事業を街に根付かせ、発展させるために必至になっている状態ですから、それをまとめて何かをしようというのは、大変なことですよね。発足して2年、田中さんは、会長として本当によくやっておられると思います。

【田中】いやいや、とんでもない(笑)。仲町台は熟成過程にある街ですから、街そのものの魅力をまずつくらなければ、自分たちの事業にも未来はない。だから、みんなで協力し合って魅力ある街づくりをしようという雰囲気がすごくある。そういう意味ではとてもやりやすい環境だと思いますよ。

【関 】そうですね。会員全員が"街づくり"という視点をきちんと持っていて、しかも『街づくり協定運営委員会』と連携しながら活動している。そこが、普通の商業振興会とはまったく違うところですね。「街づくり協定」は"縛り"だというイメージが強いため、商業者から敬遠されがちなのが普通。それが協力しあってやっていこうというのですから、「そんなことができれば、理想的だ」と、設立当初、行政の方からも言われましたね(笑)。

【田中】確かに、立場上、必ずしも意見が一致するとは限りませんよね。でも、商業者や事業者だけでやっていると、つい、街づくりという視点から遠ざかってしまいがち。それをうまく調整するためにも、『街づくり運営委員会』との連携は重要だと思うんです。



また、我々は駐車場問題にも積極的に取り組んでいますが、仲町台の街づくり協定には「住戸数の50%以上、かつ業務形態に応じた必要駐車場台数を敷地内の車道側に設置する」という内容が盛り込まれていますよね。このように、互いの目標が重なる場合もあるわけです。だから、とても良いコンビネーションだと思いますよ。

【関 】ただし、『街づくり協定運営委員会』や街づくり協定が縛りになってはいけない。ここが大切なポイントですね。

"グルメの街"のイメージは、大きな武器。

【関 】タウンセンターに百貨店などの大型商業施設もできましたし、商業振興会としては、これからますます気持ちを引き締めていかなければいけませんよね。

【田中】もちろんです。でも、"仲町台=グルメの街"というイメージが浸透してきたおかげで、飲食店などは百貨店オープン以後、売上を伸ばしてるところも多いようですよ。街全体の賑わいにもつながる、うれしい効果ですよね。

【関 】お客さんは賢明ですから、どこにどんなお店があって、どこがおいしいか、安いか、便利か、また、人の流れはどうなってるか、ちゃんと見極めている。ということは、人々の求める店づくり、街づくりをちゃんとしていけば、仲町台はまだまだ発展するということですよ。

【田中】そのためにも、グルメ通りをもっとPRしたいし、会員ももっと増やして活動の幅も広げていきたいですね。

【関 】ポイントカードの導入なども検討中だし、まだまだやることはいっぱいある。がんばりましょう。



▲大人御輿



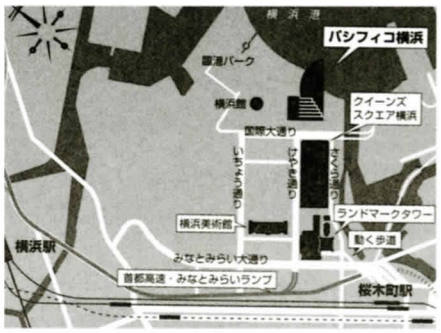
▲ガマの油売りの大道芸。長い真剣?を振り回すサムライの登場に、子供たちもドッキドキ。

THE INFORMATION

第2回ヨコハマ都市デザインフォーラム
YOKOHAMA URBAN DESIGN FORUM
アジア太平洋21世紀都市会議開催!

街づくりの新しい時代を担う専門家、市民、企業や行政の関係者、学生が国内外から参加して議論するアジア初の国際会議・ヨコハマ都市デザインフォーラムの第1回目が開催されたのは平成4年。21世紀を目前にし、その第2回目がこの秋開催されます。今回は、**「地区からの発想でつくる都市の活力と魅力」**をテーマに、横浜およびアジア・太平洋各都市の21世紀に向けた街づくりの目標や方策について議論が進められる予定。また、地域の具体的な課題を踏まえての「地域会議」を市内3カ所で開催。そのひとつが**「郊外部の持続的まちづくりを考える」**と題して港北NTの武蔵工業大学で行なわれます。当日は、タウンセンター地区とグリーンマトリクスシステムを中心に現地を視察し、その後ディスカッションを行う予定。港北NT計画の意義、今後の課題、展望等に対する専門家の貴重な声を聞くめったにないチャンス。この機会にぜひ。

◆開催日　11月20～23日
◆会　場
11月20・21・23日
・・・パシフィコ横浜会議センター
11月22日・・・各地域会場
●都筑区【港北NT地区】・・・武蔵工業大学
●関内・みなとみらい21・横浜駅周辺地区
・・・関内新井ホール
●金沢区・・・横浜市立大学
◆主　催
第2回ヨコハマ都市デザインフォーラム実行委員会・アジア太平洋都市間協力ネットワーク[シティネット]・横浜市



※会議等に参加するためには参加登録が必要です。また一部会議のみへの参加をのぞき、参加登録料が必要です。ご希望の方は、下記まで。

◆お問い合わせ
第2回ヨコハマ都市デザインフォーラム実行委員会事務局　TEL.045-223-2525

街づくり通信 VOL.9

平成10年7月発行

街づくり通信編集室
〒224－0006
横浜市都筑区茅田東4丁目10番3号
財団法人 港北ニュータウン生活対策協会内
TEL 045(942)8745　FAX 045(942)8972

編・集・後・記

◆暑い日が続きます。平日の日中、センター南駅前で道行く人にインタビューすると、ほとんどが港北NT外の人ばかり。場所を変えて中川や仲町台の駅前へ行くと、今度は埼玉や静岡、果ては九州から実家に遊びに来ているという人ばかりに会ってしまいました。運がいいのか、悪いのか。それとも港北NTが全国区の街になった証か?!

◆さて「街づくり通信」では、表紙に掲載する写真を公募しています。テーマ不問。モノクロ・カラー、サイズも問いません。街づくり通信に対するご意見・ご希望・ご感想等もお待ちしています。

街づくり通信編集室　一同

集まろう! 楽しいイベントが、めじろ押しだよ!

8月22日(土)
都筑中央公園イベント第2弾!
「親子で学ぼう!これ何の木?」

都筑中央公園内の自然観察と、木の名札づくりを楽しむイベントを先着20組100人(原則として小学生以上)を対象に開催。
◆日時:8月22日(土)
午前9時30分～午後2時(荒天中止)
◆集合場所:都筑区役所1階区民ホール
◆費用:1人200円
(保険代および材料費として当日徴収)
◆持ち物:弁当、水筒、筆記用具、軍手、ビニール袋、タオル、敷物、ルーペ
(動きやすい服、運動靴、リュックサックで。帽子は必ずお持ちください。)
◆応募およびお問い合わせ:都筑区役所区政推進課企画調整係　TEL.948-2226
◆応募締切:8月17日(月)



9月12日～15日
「かながわ・ゆめ国体」
夏季大会を応援しよう!

横浜国際プールで「かながわ・ゆめ国体」夏季大会が開催されます。夏季大会の競技種目は水球とシンクロナイズドスイミング。観戦は無料。
◆開催日:9月12日～15日
◆お問い合わせ:
かながわ・ゆめ国体横浜市実行委員会事務局　TEL.671-3860

9月13日
「お月見ライブ」

しの笛と声楽、ギターとオカリナのジョイントライブほか、お茶会も開催。
◆日時:9月13日午後6時～8時
◆場所:横浜市歴史博物館　都筑民家園
◆協力金:300円　定員100人先着順
◆お問い合わせ:横浜市歴史博物館　都筑民家園　TEL.594-1723

◆ お　願　い ◆

ニュータウン事業の足跡を記録した、写真・スライド等を募集しています!

(財)港北ニュータウン生活対策協会では、ニュータウン事業の長い道のりをしるす資料を収集・整理し、将来、市民の皆様に公開したいと考えています。そのため、広く一般の皆様からも写真・スライド等を募集しております。貴重な資料の散逸を防ぎ、後世に残すためにも、ぜひご協力をお願いいたします。

※建設事業の前後の状況、事業推進中の状況など、当時の足跡が回顧できるものなら何でも結構です。
※モノクロ・カラー・サイズは問いません。また、ネガをお貸しくださることも歓迎します。
※詳しくは、左記の(財)港北ニュータウン生活対策協会「NT事業写真・スライド募集係」まで

年4回発行　平成10年11月発行

KOHOKU

街づくり通信

港北ニュータウンのセンター街づくり情報紙

NEW TOWN

'98 AUTUMN VOL.10

特集

第2回日コハマ都市デザインフォーラム「港北ニュータウン地区」地域会議プレインタビュー！

「持続的街づくり」を可能にする新しいネットワークとは！

データすくらんぶる

市営地下鉄3号線 各駅1日当たりの乗車人員、港北NTにすむ人に聞きました！

Table Talk 港北NT

路上駐車、してませんか？

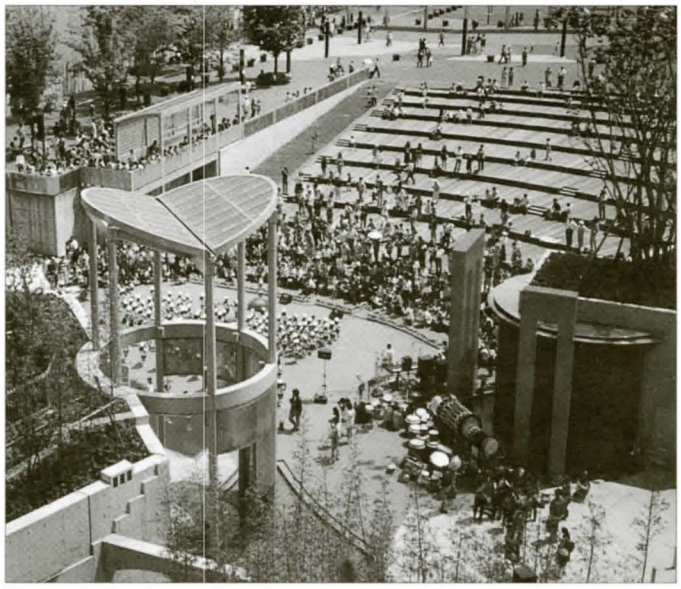
Catch-up!

タウンセンター熟成への軌跡

～街づくりという名のマラソンを駆け抜けた地権者たち～

THE NEWS

港北NTタウンセンター地区が
平成10年度都市景観大賞・建設大臣賞受賞！ ほか







KOHOKU.NT. DATA

人口/約94,600人・世帯数/33,000世帯
平成10年9月末日現在(区画整理地区内)

発行：財団法人 港北ニュータウン生活対策協会
編集協力：横浜市都市計画局／住都公団 神奈川地域支社 港北開発事務所

▲平成10年度都市景観大賞建設大臣賞「都市景観100選」を受賞した港北ニュータウン・タウンセンター地区
左上：センター北駅前広場・大階段／左下：センター南駅前／右上：センター南駅前・すきっぷ広場／右下：センター南・都筑区総合庁舎前

Special Issue
特集

第2回 ヨコハマ都市デザインフォーラム
「港北ニュータウン地区」
地域会議プレインタビュー！


▲地域会議の会場となる、武蔵工業大学環境情報学部

「持続的街づくり」を可能にする新しいネットワークとは！

アジア初の都市デザインに関する国際会議として、平成4年にスタートしたヨコハマ都市デザインフォーラム。その第2回目が11月20日～23日に開催されます。今回は、メイン会場以外にも市内外の5地区に会場を設け、各地域の具体的な課題をふまえた地域会議が開催される予定で、港北NT地区もそのひとつとなっています。テーマは、「郊外部の持続的街づくりを考える」。この会議の意義は、そして狙いは何か、企画コーディネーターのひとりとして活躍されている武蔵工業大学教授の岩村和夫氏に伺いました。

まず、港北NTの課題を顕在化させること。それが、街づくりのエネルギーになる。

【街づくり通信（以降、通信）】この地域会議は、会場に集まった参加者全員がテーマごとにいくつかのグループに分かれて議論し、その結果を発表し合うなど、言わば参加者主導型で進められると伺っています。非常におもしろい試みだと思うのですが、その意図は、どういうものなのですか？

【岩村】港北NTはこれまで、地権者の方々と市、公団などのさまざまな関係者が互いに協力し合い、長い時間をかけて基盤整備を行い、街づくりを進めてこられました。ただ、街というのは生き物ですから、住む人や社会状況によってどんどん変化していきます。ましてNTの場合、もともとそこに住んでいた人々の思いや文化、現在に至るまでの歴史などを全く知らない方々が大勢移り住み、あるいは事業を始めるわけですから、計画者側が立派なマスタープランを作成し、理想の街を思い描いていても、100%その通りになるということは、まずあり得ませんよね。

つまり、誤解を恐れずに言うなら、NTをつくるということは、同時にさまざまな問題を生み出す作業でもあるわけです。僕は、それを「ズレ」と呼んでいるのですが、必ずしも悪い意味ではなく、「良いズレ」もあれば「悪いズレ」もあり、時にはそれが街づくりのエネルギーになったりすると思うんです。


武蔵工業大学　環境情報学部教授
岩村和夫氏

◆プロフィール

建築家、武蔵工業大学環境情報学部教授、千葉大学大学院・東京農業大学講師、(株)岩村アトリエ代表取締役。
1948年兵庫県生まれ。早稲田大学大学院卒業後、フランス政府給費留学生として渡仏。その後、中近東、ギリシャ、ドイツでの活動を経て、帰国後、東京にアトリエを開設。1990年以来建設省が推進する環境共生住宅の研究・開発・実践にかかわる統括コンサルタントを務める。著書は「建築環境論」ほか多数。作品も「自邸/カッセル・エコロジー団地」「世田谷深沢環境共生住宅」ほか多数。

街づくりを考える上ではまず、この「ズレ」を顕在化させ、認識する必要がある。それには、もともと港北NTに住んでおられる方、新しい住民の方、そして行政関係者や専門家など、さまざまな立場の方の意見をひとつひとつ汲み上げられるスタイルをとるのが一番いいだろうということになったわけです。

【通信】なるほど。これはかなり盛り上がるでしょうね。

【岩村】ええ。ただし街づくりには、スゴロクみたいに「アガリ」なんてありませんから、何らかのきれいな結論を導き出そうとしても無理だと思うんです。だから、とにかくまず、前向きに盛り上がってくれればいいですね。

求められているのは、さまざまな市民活動のネットワーク。

【通信】今、港北NTでは、昔からあった自治会や町内会はもちろん、街づくり、緑地保全、地域のコミュニケーションなどを目的としたさまざまな組織、グループの活動が盛んになっていますよね。それも、「良いズレ」のひとつというわけでしょうか。

【岩村】ええ。街が熟成していく過程では、そこで起こった問題を核にして、さまざまな主体的活動が生まれてきますからね。

しかし残念なことに、今のところ、さまざまな活動が互いに交流する場やネットワークが少ないのが現状のようです。これでは、市民ひとりひとりが街づくりにかかわるというレベルにまでは、なかなか発展しないし、仮に「悪いズレ」が生じた場合・・・たとえば駐車場の不足とか、防犯の問題もそうですが、それらを解決する仕組みも形成されていかないと思うんです。

ネットワークづくりには、一朝一夕にできるものではありませんが、少なくとも今回の地域会議のような交流の場を、ひとつひとつ積み重ねていくことが大切だと思いますね。

【通信】先生は、この地域会議で港北NTの生活者意識について基調報告するため、地域住民の方に対する意識調査をされたそうですが、そこでも「ズレ」を発見されましたか？

【岩村】ええ。調査と言っても、都筑区の方から、何人か属性の異なるキーパーソンを紹介していただき、それぞれの方に4～5名ずつお知り合いを集めていただいて、7つのグループをインタビューさせていただいたんですが、非常に勉強になりました。

しかしもっとも大きな収穫は、インタビューさせていただいた方が、また別の方を紹介してくださったりして、それこそ芋づる式にわ～っとネットワークが広がったということなんです。

港北NTの方は、いくつになっても何かを吸収していたい、向上したいという意識の高い方が非常に多くて、打てば響くというか、きっかけさえあれば、さまざまなネットワークを構築できる可能性を持っておられると思うんです。今回の会議でも、参加者同士のさまざまな出会いがあると思いますから、そこからどんなネットワークが広がるか、非常に楽しみですね。

たとえば、地域の大学や学生との関係を深めると、地域活動はもっとおもしろくなる。

【通信】先生は、環境デザインや街づくりの専門家でいらっしゃいますが、地域コミュニティやネットワークを形成するための仕掛けや仕組みについても、数々の事例をご存知なんですよね。

【岩村】そうですね。ドイツなどでは、地域の大学がコミュニティの核として機能しているんですが、これもひとつの方法だと思いますよ。幸い、港北NTには武蔵工業大学の環境情報学部があり、図書館やテニスコート、ホールや会議室もある。大学のコンピュータに地域情報を集積させ活用することだって可能です。


▲仲町台駅前商業振興会と地元町内会の協力で開催された仲町台駅前の夏祭り。

【通信】確かに、環境情報学部には社会学、経済学、生態学、心理学、建築学、都市計画や環境デザインなどの専門家の教授がおられて、街づくりを考える上では最高の環境ですよね。

【岩村】そうなんです。たとえば、港北NTが誇るグリーンマトリックスにしても、育成管理していくには、樹木を剪定したりして手入れをする必要がありますよね。そういう場合も、武蔵工大には生態学の専門家がいるわけです。

また、今の大学生というのはボランティアに非常に関心を持っていますから、お手伝いできることもたくさんあると思いますよ。特に港北NTは熟成過程にある街だから、卒業研究や事例研究などの題材がいくらでも転がっていますから、それを地域活動とからめてやることができれば、彼らにとっても素晴らしい人生勉強になると思うんです。

都筑区の平均年齢は34.8歳ですから、手のかかる小さな子供がいたり、共稼ぎだったりして、何か活動をしたくてもなかなか時間がとれない方も大勢いらっしゃいますよね。そういう方たちのために、活動の一部を学生が手伝ったり、ときには活動をする間、お子さんの世話をすることも可能だと思います。

ボトムアップ型街づくりの源流となるか？今後の展開に期待！

【通信】先ほど、この地域会議は何らかの結論を導き出すのが目的ではないというようなことをおっしゃいましたよね。では、この会議が目指すものは、何なのでしょうか。


▲港北NTの賑わいの核となるタウンセンター。南地区ではこの夏「センター南地区商業振興会」が設立されたばかり。


▲港北NTでは、地域のグリーン・マトリックスを育成管理しようとする市民活動も盛ん。

【岩村】やはり、課題を顕在化させ、認識し合うというのが、一番でしょうね。そして、地域コミュニティやネットワークづくりのきっかけになれば、成功と言えるのではないでしょうか。

ヨーロッパなどの街づくりを見てみると、非常に地域コミュニティが熟成していて、地域の人々の考えが煮詰まって行政を動かすという、ボトムアップ型がほとんどなんです。日本はそういう意味ではまだまだ遅れていて、ほとんどトップダウン型。今回武蔵工大で開催される地域会議が、港北NTにおけるボトムアップ型街づくりの新たな源流になればと、私もおおいに期待しています。

第2回 ヨコハマ都市デザインフォーラム
都筑区「港北ニュータウン地区」地域会議　概要

テーマ：郊外部の持続的街づくりを考える

開催日：11月22日
会　場：武蔵工業大学環境情報学部

■ディスカッション(13：00～17：00)

1. **基調報告**
   ①成熟期のニュータウン
   ②港北ニュータウンの生活者意識
2. **市民によるまちづくり活動発表**
   (A)センターの魅力づくり
   (B)グリーンマトリックスの育成管理と市民活動
   (C)コミュニティー形成に向けた市民活動
   の3つのテーマにもとづき、地域で活動する8人の方がその活動概要と課題、今後望まれる方向性について各5分間発表。
3. **グループディスカッション**
   市民活動報告者、コメンテーター、一般参加者が数グループに別れて議論。
4. **グループディスカッションの報告とまとめ**

◆お問い合わせ
第2回ヨコハマ都市デザインフォーラム実行委員会事務局
TEL.045-223-2525

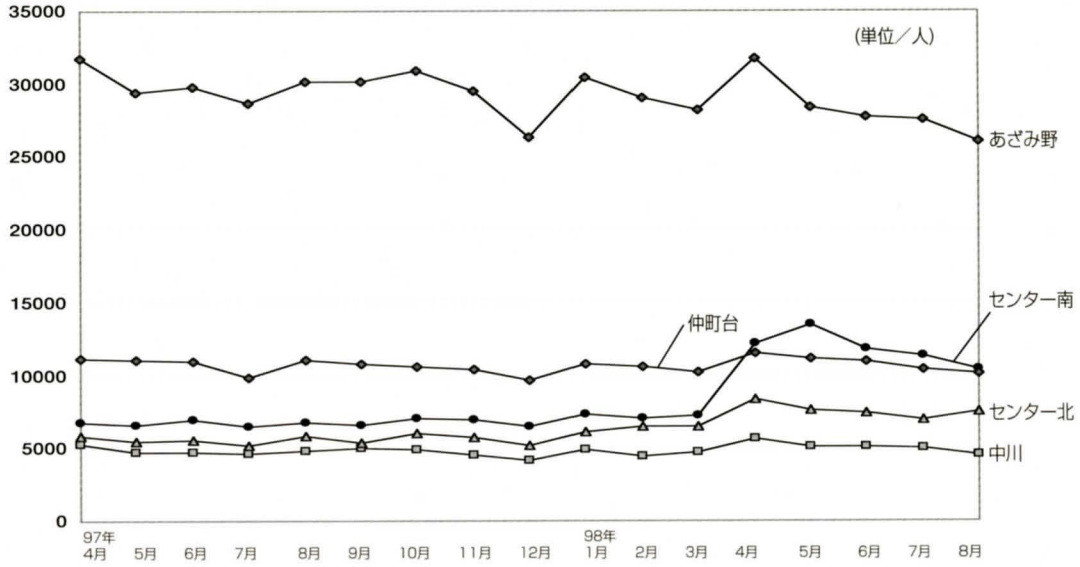
※当日、会場で受付ができます。直接お越しください。
※当日、武蔵工業大学体育館にて港北NTに関するパネル展を開催しております。
(11月10～19日、都筑区総合庁舎1階区民ホールにて同パネル展を開催)

DATA SCRAMBLE

数字で読む港北ニュータウン　データすくらんぶる

■市営地下鉄3号線　各駅1日当たりの乗車人員（平成9年4月～平成10年8月）

「港北東急百貨店S.C.」がオープンした今年4月を境に、センター南駅の乗車人員は飛躍的に増加。センター北駅も、ほぼ同時期にオープンした「ショッピングタウンあいたい」が好調で、例年各駅ともに昇降客が減少する夏も、この夏は逆に上向き。大型施設の誕生により、センター南・北両駅ともに順調に賑わいを形成しているようです。



街頭インタビュー編

港北NTにすむ人に聞きました！



●荏田在住　大丸からたち公園仲間のみなさん
区役所の母親学級で知りあった仲間です。近所にいろんな公園があるし、雨の日や暑い日は「港北東急百貨店S.C.」もあるし、港北NTって子持ちには暮らしやすい街。しいて言えば、近所に窓口業務をやってる銀行が欲しいですね。



●武蔵工業大学環境情報学部学生　猿田さん・田中さん
2人とも自宅から約2時間かけて大学へ通う日々。通学は大変だけど、サークルでバンドをやっているため、週末もしょっちゅう中川駅を利用しています。ファーストフードの店や飲み屋などが駅前にあったらもっと便利。そろそろできないかなあ。



●桜並木在住　福田さん
1年半前から仲町台の遊歩道(文化堂前の通り)で露店の花屋「グラス・ナイーヴ」をやっています。仲町台は街がきれいだし、花の好きな人も多くて、大好き。将来この街で店舗を借りて花屋を開店するのが夢です。白いパラソルが目印。雨の日も風の日もやってます。どうぞよろしく。



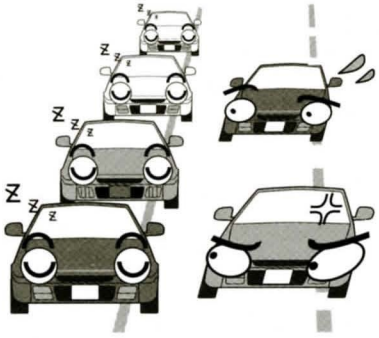
●中川在住　赤間さん・木村さん・小林さん
日常の買い物はほとんど近所で済ませています。中川駅前センターは車が入らないから小さな子供を連れてても安心。ただ、ファミレスなど、子供連れで気軽にお茶や食事を楽しめる店があったらと思います。



●牛久保在住　松石さんとお友達
最近よく行くのはセンター北駅周辺。「ショッピングタウンあいたい」だけでなく、周辺にリサイクルショップとかもできて、ぶらぶら歩くだけで楽しい。ただし、駐車場がもっとたくさんあれば文句なしなんだけど。

Think the 港北NT

路上駐車、してませんか？



最近港北NTで目立ってきた問題のトップと言えば、やっぱり路上駐車。市営地下鉄3号線駅周辺は特にその傾向が顕著で、センター北駅・センター南駅周辺にいたっては、道路両脇にずらりと駐車し、すれ違うことができないような場所もあります。これでは渋滞を増長するばかりか、緊急車両が通れなくなる危険性も！

4月にオープンした両センターの地下にある公共駐車場は、駅舎や駅前商業施設にも直結していてとても便利。「ちょっとの間だし」などと路上駐車をせず、公共駐車場を利用して、安全で快適、便利なタウンセンターにしましょう。

◆便利な共通利用券を利用しよう！

センター北・南駅地下駐車場では、周辺の商業施設等の利用者の皆様のために、共通利用券を発行しています。ご利用店舗等にお問い合わせください。

●お問い合わせ
株式会社　港北都市開発センター
〒224-0006 横浜市都筑区茅田東4丁目10番2号
TEL.045-943-2466

センター南・北駅前地下駐車場

■年中無休
8：00～24：00

■駐車料金
1時間まで300円、
以降30分毎に150円
（平日10時間利用券1,000円）



〈センター南・北駅前地下駐車場MAP〉

Catch-up! The港北NT

タウンセンター熟成への軌跡

～街づくりという名のマラソンを駆け抜けた地権者たち～

センター南商業地区振興会　会長　金子三千男さん



区庁舎をはじめ駅前の広場や地下駐車場などの公共施設の開設、大規模商業施設のオープンなど、ここ数年で一気に賑わいを見せるようになった港北NTのタウンセンター。その魅力的な街並みは、平成10年度都市景観大賞・建設大臣賞「都市景観100選」に選ばれるなど、内外からも大きく評価されています。ここに至るまでには、官民の膨大なエネルギーが注がれてきましたが、この夏に設立された「センター南商業地区振興会」の会長である金子三千男さんは、昭和40年代からタウンセンター計画にたずさわってきた地権者のリーダーのひとり。今日に至る経緯、そしてセンター南商業地区振興会について語っていただきました。

●地権者の情熱が実現させた申出換地。

港北NTの大きな特徴のひとつとして、地権者が街づくりや事業に対して非常に積極的で熱心だということがあると思います。港北NT事業スタート当時は地権者の大多数が農業をやっていましたから、開発事業の中でどう生活を転換していくのか、それだけでも大変な問題でした。また、みんな素人ですから、公団や市が持ってくる書類のひとつひとつを理解するのも大変なことでした。しかし、市と公団が港北NTの基本設計を地元に説明した年、さっそく若手地権者たちで研究をスタートしましたし、当初から、決しておまかせにするのではなく、自分たちの目で見極め、自分たちの手で街づくりを進めようという高い意識を、みなさん持っておられたんですね。

たとえば、私たちの活動の成果は、申出換地の実現という形でも反映されています。

土地区画整理事業の場合、本来なら、従前の土地に相当する他の土地に換地されるわけですが、この場合、農業をしたいのに駅前に換地されたり、事業を行いたいのに商業地区ではないところに換地されるという事態にもなりかねません。そうなれば、街づくりにも支障をきたしてしまいます。そこで私たちは、換地先を自由に申し込めるようにしたいと考え、「申出換地方式」を提案。何しろ前例のないことでもあり、それを受ける市や公団も大変だったでしょうが、公団総裁に直接訴えるなどして、ついに実現。その結果、地権者は生活や将来設計をより自由に考えられるようになっただけでなく、より効果的で計画的な街づくりが可能になったというわけです。

■タウンセンター計画の経緯

昭和47年●港北NT建設研究会発足
昭和51年●「港北NT中心地区基本設計」を市・公団策定
●特別な用地への申出換地の実施（3～5月）
昭和61年●マスタープラン修正作業スタート
昭和62年●第1回地権者説明会（総会）にてタウンセンター議論の開始
●世話人会開催開始(2月)
昭和63年●地権者による「代表者会議」発足(7月)
●修正マスタープラン市・公団合意(11月)
平成元年●第3回地権者説明会（総会）(4月）にてマスタープランの修正内容承認
●共同化申し出等調査の実施（8月～10月）
平成2年●「共同化義務街区開発推進会」発足
平成3年●「タウンセンター開発推進協議会」発足(6月)
平成4年●第2地区共同化義務街区、建設組合発足
●第1地区共同化義務街区、企業説明会(8月～11月)
平成5年●市営地下鉄3号線開通(3月)
●街づくり協定成立(5月)
●第1地区共同化義務街区、建設組合発足(8月)
平成 6年●港北NTを中心としたエリアが都筑区として分区(11月)
●東急グループの第2地区共同化義務街区進出決定(11月)
平成 7年●横浜市歴史博物館開設(1月)
●都筑区総合庁舎開設
●第2地区共同化義務街区建設組合を事業者組合に改組(6月)
平成 8年●港北NT全面的供用開始(3月)
●プラザビル(現・ショッピングタウンあいたい)着工(3月)
●センター南駅前共同ビル(港北東急百貨店S.C.)着工(3月)
●事業組合が建物管理の法人設立(4月)
●センター南駅前広場開設(4月)
●土地区画整理事業換地処分(9月)
●港北NT事業推進連絡協議会解散(11月)
平成 9年●第1地区共同化義務街区　阪急百貨店S.C.(仮称)着工
平成10年●センター北駅前に「ショッピングタウンあいたい」オープン(4月)
●センター南駅前に「港北東急百貨店S.C.」オープン(4月)
●センター南商業地区振興会発足(7月)

●タウンセンターの方向性を決定づけた、昭和60年代のマスタープラン修正。

このように、港北NT事業は市、公団、地権者が互いに協力し合って進められてきたわけですが、タウンセンターに関しても、現在のような街が形成されるまでには、ともにさまざまなハードルを乗り越えてきました。そのひとつが、道路計画の一部の修正・変更です。

タウンセンターの基盤整備は、当初の供用開始予定からかなり遅れてしまいましたが、その間、社会経済の変動、車社会の急激な進展、人々の価値観やニーズの多様化など、時代は大きく変化し、昭和40年代に策定された港北NTのマスタープランは修正・変更の必要性が出てきました。特に危惧されていたのは、車社会に対応していない道路計画のこと。そこで、タウンセンターの地権者は世話人会を発足。市、公団とともに研究を重ね、道路計画変更案を検討するなどして、マスタープランの修正の際に反映していただきました。

もうひとつは、共同化義務街区の導入です。昭和60年代以降、商業・業務施設は大規模複合開発へと変化していきましたが、申出換地の結果、所有者が細分化した短冊状の換地が多数できてしまい、共同化による計画的ビルトアップが課題となってきました。

地権者側としても、昭和50年代から地権者同士でグループをつくって換地を申し込んだり、各ゾーンでグループ討議を行って土地利用の共同化を検討していましたが、月日の流れとともに地権者が2代目、3代目と世代交代していくと、次第に足並みも揃わなくなり、当初描いていた通りの街づくりを進めていくのが難しくなってしまったのです。



▲10月2日に行われたセンター南商業地区振興会設立祝賀パーティで挨拶する金子氏



▲「クリーンタウン」活動

そこで、マスタープランの修正に際して、将来街づくりの核となる場所を核施設用地として設け、そのうち地権者の換地で構成する街区を「共同化義務街区」とすることを提案。その結果、センター南の東急百貨店S.C.とセンター北のモザイクモール港北(仮称／阪急百貨店S.C.)のような、大規模商業施設が実現し得たというわけです。

「街づくりはマラソンのようなもの」と私はよく言うのですが、ランナーはそれぞれ考え方も体力も違うから、みんな一緒に足並みを揃えて走るわけにいきませんよね。そこが難しいところだと思うんです。でも、できれば全員完走したいし、できるだけ良い街にしたいじゃないですか。マネージャー役としては、先頭の走者のところへ走って行って状況を確かめたり、後方の走者のところへ行って励ましたりしなければならず、長い歳月の間には息切れしたりもしましたが、その結果が今日につながっているんだと思います。

●夢のある街づくりを目指す、センター南商業地区振興会

センター南地区に、東急百貨店S.C.がオープンして約半年。来客数、売り上げともに計画通りの数字を記録しており、センター南地区全体の賑わいの核としてはまずまずの滑り出し。我々もほっとひと安心ですが、センター南全体の魅力づくりは、これからが正念場。そこで設立されたのが、「センター南商業地区振興会」です。

現在のところ会員は52事業者。具体的な活動については年1回の総会と2ヶ月に1度の役員会を行い、その中で徐々に検討していく計画ですが、とりあえず、「クリーンタウン」と銘打ってエリア内の清掃・美化活動に取り組み始めました。

通常、こうした活動は朝行うところが多いようですが、私たちの場合は地元へのPRの意味も込めて毎月第2木曜日の午後12時30分から実施。地味ではありますが、このような活動を通してタウンセンターを魅力的な街にしていこうという私たちの精神とともに、振興会の存在を地元のみなさまに認知していただけるよう、がんばりたいと思っています。

これは、あくまでも私個人の夢ですが、いずれは、振興会が仕掛け人となってセンター南独自の祭りを開催し、将来はセンター北も含めたタウンセンター全体の祭りとして発展させられたらいいですね。それも、全国から人が集まるような、そんな祭りにすることができれば・・・。本当に夢のような話ですが、タウンセンターにはそれだけの可能性があると思いますし、港北NTの住民や地権者、行政や事業者などが一体となり、港北NTならではの文化や魅力づくりを行っていくには、祭りの開催が一番効果的な方法だと思うのです。

今のタウンセンターを見ていると、港北NT建設研究会を発足した昭和40年代は遠い昔のことのような気がしますが、あのときの情熱をもってすれば、決して不可能な夢ではないような気がしています。

◆センター南商業地区振興会

【活動目的】
地域の繁栄と振興並びに会員相互の発展のため
お互いに協力し、実行することを目的に活動する。

【平成10年度事業計画】
1.会員の増強を図る
2.駅前およびその周辺における治安・秩序の確立・美化運動等に協力する
3.会員相互の親睦と研修
4.周辺町内会・自治会との交流と協力

【事務局】
茅ケ崎中央26-1エクレール横浜2F
TEL.045-943-5257

THE NEWS

港北NTタウンセンター地区が、平成10年度都市景観大賞・建設大臣賞受賞！

平成3年度より建設省が実施している都市景観大賞・建設大臣賞「都市景観100選」を、「港北ニュータウン・タウンセンター地区」が受賞し、去る10月5日、東京都千代田区イイノホールにおいて表彰式が行われました。

これは、駅前の都市緑地を核とした歩行者ネットワークにより、歴史資産、緑および水空間を積極的に取り入れた質の高い公共空間整備と、地権者による街づくり協定によって、基盤と建物が調和した魅力ある都市景観を創り出していることが高く評価されたもの。地区内では、現在も熟成へ向けて街づくりが進められていますが、今回の受賞はその大きな励みであり、行政、地権者はもちろん、地元住民も含めた街づくりへのエネルギーとなって、港北NT全体に波及していくことが期待されます。(表紙写真参照)



▶センター南・シンボル道路から商業施設へのビスタライン

THE INFORMATION

街づくり通信 VOL.10

平成10年11月発行
街づくり通信編集室
〒224-0006
横浜市都筑区茅田東4丁目10番3号
財団法人 港北ニュータウン生活対策協会内
TEL.045(942)8745 FAX.045(942)8972

編・集・後・記

◆つい数年前までの港北NT・タウンセンター地区は、秋になるとむき出しの造成地に早くも木枯らしが吹き、ぽつぽつと建設された真新しい建物も、どこか寂しげな風情でした。しかし今年はセンター北・センター南両駅前のシンボル広場や大型商業施設が完成して賑わいが生まれ、夜になってもきらびやかなイルミネーションや街灯に彩られています。ちょっと気が早いですが、クリスマスになるともっと美しいことでしょう。

◆「街づくり通信」では、そんな四季折々の港北NTをテーマとした表紙掲載用写真を募集しています。モノクロ・カラー・サイズは問いません。本紙に対するご意見・ご希望・ご感想もお待ちしています。ぜひお寄せください。

街づくり通信編集室　一同

11月1日(日) ～15日(日)
菊花展

都筑区の菊づくりの伝統が花開きます。丹誠込めてつくられた菊1000鉢の展示、菊の切り花・鉢植えの即売もあります。

◆会場　センター南構内ほか
※11月9日10：00～15：00に鑑賞会を実施

11月17日(火)
プレ・都市デザインフォーラム
第3回/港北ニュータウン事業における市民参加

港北ニュータウン事業にどのように市民が参加してきたかを振り返り、今後の街づくりの方向性を考えます。

◆場所　都筑区役所6階大会議室
◆時間　19：00～21：00
◆定員　200人、先着順
◆申込　電話またはファクシミリ(住所、氏名、電話番号を明記)で企画調整係まで
TEL.045-948-2226 FAX.045-948-2239

12月17日(木)
都筑の森芸術劇場主催　オペラ アリアの夕べ
菅　英三子ソプラノ・リサイタル

◆場所　都筑公会堂
◆時間　19：00開演
◆チケット　一般/4,000円学生/2,000円
◆電話予約・お問い合わせ：都筑の森芸術劇場事務局　TEL.045-942-3989

◆ お 願 い ◆

ニュータウン事業の足跡を記録した 写真・スライド等を募集 しています！

(財)港北ニュータウン生活対策協会では、ニュータウン事業の長い道のりをしるす資料を探しています。写真やスライドは、港北ニュータウン建設事業の着工前の状況や、現在の姿になるまでの足取りがわかるものならなんでも結構です。モノクロ・カラー・サイズは問いません。また、ネガをお貸しくださることも歓迎します。



▲昭和40年代の茅ヶ崎周辺道をならす住民たち



▲平成元年夏 中川の竹林と柿畑(現在は武蔵工大が立地)



▲平成4年夏 センター南駅周辺

◆お問い合わせ
(財)港北ニュータウン生活対策協会
TEL.045-942-8745 写真等収集担当/山本、小松原

年4回発行　平成11年2月発行

KOHOKU

街づくり通信

港北ニュータウンのセンター街づくり情報紙

NEW TOWN

'99 WINTER VOL.11

特集　●インタビュー特集●

これからの港北NTをつくる人々

Part.1　パソコン通信で地域コミュニティをつくりたいと考えた人
港北ニュータウンネット『緑の小径』主宰者　**常楽　弘明**さん

Part.2　通学路の安全を確保したいと考えた人
荏田東第一小学校・PTA　**細山田　幸子**さん

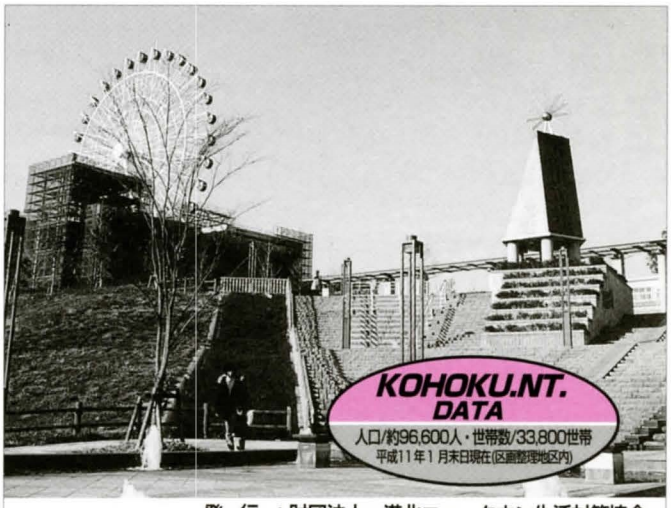
Part.3　大人も楽しめる子供のためのミュージカルをやりたいと考えた人
ヨコハマ・都筑ミュージカル制作上演委員会委員長　**岡本　紀子**さん

Catch-Up
エコロジーエンターテイメントを目指す
『モザイクモール港北』(仮称)

THE INFORMATION
都筑区生涯学習交流会つづき人交流フェスタ開催！　ほか







KOHOKU.NT. DATA
人口/約96,600人・世帯数/33,800世帯
平成11年1月末日現在(区画整理地区内)

発　行　：財団法人　港北ニュータウン生活対策協会
編集協力：横浜市都市計画局／住都公団 神奈川地域支社 港北開発事務所

Special Issue
特　集

●インタビュー特集●

これからの港北NTをつくる人々

街の熟成にともない、さまざまな地域コミュニティが誕生しつつある港北NT。そこには、積極的に地域にかかわり、自らも楽しみながら、さまざまな活動をしている仕掛け人たちがいます。これからの港北NTを魅力的にするのは、そんな一人ひとりの心意気やエネルギーではないか・・・。今回は、本紙が注目する3人の方に登場いただき、活動内容やそこに注ぐ思い入れについて伺いました。

Part. 1

楽しみながら、情報交換・交流をしたい！港北ニュータウンネット『緑の小径』。



パソコン通信で地域コミュニティをつくりたいと考えた人
港北ニュータウンネット『緑の小径』主宰者　**常楽　弘明**さん

パソコン通信が可能にした、半径10kmのご近所付き合い。

今でこそ、港北NTの情報が欲しいと思えば、雑誌やインターネットなど、さまざまな方法で入手することができ、たくさんの地域コミュニティも誕生しています。しかし、ほんの数年前までは、港北NTに新たに移り住んできた人が地域情報を集める手段も、住民同士のコミュニケーションの場も、決して豊富とは言えませんでした。

そんな中、「それなら自分で何とかしよう」と、パソコン通信『ニフティ・サーブ』を媒介とした地域コミュニティをつくってしまった人がいます。常楽弘明さん36歳。パソコン好きの港北NT住民の間では知る人ぞ知る、港北ニュータウンネット『緑の小径』(みどりのこみち)の主催者です。

「港北NTは、自分が生まれて初めて家を買い、落ち着いた場所。当然、港北NTについて自分なりにいろいろ調べてはいたのですが、引っ越してきて、もっと地域のことを知りたいと思い、『ニフティ・サーブ』の『マイホームと不動産』という既存会議室で、港北NTの情報はないかと探し始めたんです。ところが、ほとんどなくて(笑)。仕方がないから“はじめまして(from港北NT)”と題して自分で港北NTの話題を書き込み始めたら、「私も港北NTの住民です」「近々港北NTに引っ越す予定です」といったレスポンス(反響)が来るようになったんです。

次第に仲間が増えてきたので、1996年6月に『港北ニュータウンホームパーティ』という小会議室をつくって独立。さらに翌年には、“みんなでワイワイ地域の情報交換して友達になって、お互いの生活をより豊かにしていこう”を合言葉に、名称も港北ニュータウンネット『緑の小径』と変更。本格的に始動開始したというわけです。」

読むだけでも面白い、耳寄りな生活情報が満載。

現在、登録メンバーは約120名。港北NTの住人がメインですが、老若男女を問わず希望すれば誰でもメンバーになれるので、他市・他県からの参加者もあり、「僕のようなごく普通のサラリーマン」や主婦をはじめ、顔触れは多彩。夫婦・家族で参加している人も多いとのこと。

「一部の仲間でしか通じない『内輪ネタ』やギャグの応酬などはご遠慮いただいていますが、基本的に話題は限定しておらず、フリートークも大歓迎。ただし、おしゃべりだけじゃなくて、情報性のあるやりとりをしたいと思っているので、自分でも積極的に情報を書き込むようにしています。」

実際に会議室を覗いてみると、趣味の話や近況報告などのフリートークをはじめ、港北NTに新しくできたお店などの地域情報や、幼稚園情報、病院情報、「譲ります・譲ってください」情報などの生活情報・話題が盛りだくさん。いずれも地元住民のナマ情報だけに、情報の切り口も面白く、実用性も大。港北NTに引っ越してきたばかりで右も左もわからないという人はもちろん、長年住んでいる人も、十分に楽しめそうな内容です。





▲『緑の小径』の電子会議室のイメージ
◀『緑の小径』
インターネット上のホームページ
(http://member.nifty.ne.jp/kntnet/)

飲み会、テニス、バーベキュー・・・実際に集まって交流する「オフ」活動も盛ん。

また、パソコン上での情報交換やおしゃべりのほかに、飲み会、テニス、カラオケ、バーベキューなど、実際に顔を合わせて交流する、「オフ」と称する活動も行っていて、これがかなり盛り上がっているよう。この2年半の間に、大小合わせて約百数十件もの「オフ」が開催されたというから、かなりの頻度です。

「たとえば誰かが、『暖かくなってきたから、外でバーベキューでもしたいね』と言ったとすると、別の誰かが『じゃあ、ボクが幹事をするよ』という感じで、自然発生的にやっているものがほとんど。パソコン通信を媒介としているので、いちいち参加希望者全員に電話して日程調整する手間もいらないから、決まると早いんですよね。逆に、あまり人が集まらなければ、やめちゃおうという感じで、すごく気楽にやってます。

ネットの主宰者としては一応『オフ』は全て把握しているつもりですが、基本的にはメンバー同士で自由にやっています。」

根底では、いつも港北NTについて真面目に考えている。

活動の趣旨にもある通り、「港北NTをより快適な街にしていくため」の話題や「オフ」活動にも真面目に取り組んでいるというのも、『緑の小径』の特徴のひとつです。「設立当初は構想ばっかり大きくて、港北NTで知らない人はいないものにしたいとか、行政と連携して街づくりに貢献したいとか、だいそれたことを考えていました(笑)。でも、メンバーはそれぞれ家庭や仕事を大切にしつつ、単に趣味としてやっているわけです。だから今は、あまり大上段に構えず、とにかく楽しくやって、その上でちょっとは真面目なこともやろうという感じ。



▲『梨賞味会オフ』

僕自身、港北NTの事業計画に関することやゴミ問題、自治会活動についてなど、折にふれ、意識的に話題にしていますが、共感してくださるメンバーも多く、定例オフとして『クリーンナップ・オフ』も開催しています。これは、月に1度、日曜日の午前中に駅周辺のゴミ拾いをする活動なんですが、強制ではなく、たまたま都合のついた人たちが子供連れなどで集まってくれて、小規模ですが楽しみながらやっています。」

自分たちが主役という意識を持てる街。だから、地域にこだわる。

「楽しみながら」と言いつつも、主宰者である常楽さんの日常は、想像以上に多忙。職場のある幕張まで約2時間の通勤車中では、携帯用パソコンで前日の会議室の内容をすべて読む、というのが日課。合間を縫って自ら書き込みもするし、月に1度は『緑の小径通信』作成し、登録メンバー全員にメールで送付しています。また、インターネット上にも『緑の小径』のホームページを設けており、その管理・運営も常楽さんの仕事。その上、最近では区の生涯学習センターから依頼され、インターネットのボランティア講師を引き受けたり、昨年11月に行われたヨコハマ都市デザインフォーラムの港北NT地域会議では、パネラーを務めました。



▲『清掃工場見学オフ』
◀『テニスオフ』

これらは全て『緑の小径』の主宰者という立場で行っている活動ですが、プライベートでも、行政が主催するイベントにマメに顔を出したり、地元自治会や自宅マンションの自治会活動にも、積極的にかかわっています。なぜ、それほどまでに地域にこだわるのか？「そんなに変ですかね(笑)。特に無理をしているつもりはないし、何事も自分がやりたくて、楽しみながらやっているだけなんです。僕に限らず、何らかの形で地域にかかわりたいと思っている人は、多いと思いますよ。

港北NTに移り住んできた人というのは、自分が気に入って、自分の意志で港北NTを選んだわけですよね。しかも、これからまだまだ発展していく街です。だから、すでに出来上がってしまっている街に住むのとは全然違った感覚・・・たとえば、“自分たちが何かをしなきゃ”とか、“この街の主役は自分たちだ”という意識が強いんじゃないでしょうか。少なくとも、僕はそうなんです。」

『緑の小径』設立から2年半。常連メンバーも増え、設立当初の目的はほぼ達成したと言えそう。では、今後の目標は？「あまりにも心地良い“空間”になっちゃって、そろそろ新しい風も必要かなとは思いますが、僕が一人で把握しきれる規模としてはこれくらいがちょうどいいし、もっと大きな組織にしようとか、新たにこんな活動をしようといった展望は、恥ずかしながらありません。

ただ、楽しみながら情報の交換・蓄積をし、真面目な活動もちょっとずつしていくうちに、何か新しいコトが見えてくるかもしれないとは思っています。興味のある方は、ぜひ、気楽に遊びに来てください。」

港北ニュータウンネット『緑の小径(みどりのこみち)』

■**活動の趣旨**

①港北NTに関する生活情報交換をしよう
②港北NTをより快適な街にしていくために話し合おう
③さまざまな話題を通じて、楽しくおしゃべりし、友の輪を広げよう

■**参加方法**

・ニフティサーブのIDが必要です。
・参加を希望される方は、簡単なプロフィールと「参加案内希望」の旨を書いて、下記アドレスまで。折り返し参加案内をお送りします。

E-mail：hiroaki.joraku@nifty.ne.jp
NIFTY SERVE：PXI06156

Part. 2

子供たちの安全のために自分たちでできることから始めよう！



通学路の安全を確保したいと考えた人

荏田東第一小学校・PTA　**細山田　幸子**さん
（前列右。PTAの仲間たちとともに。）

通学路に茂る樹木や草を、放置するのか？素朴な疑問からスタート。

昨年11月28日土曜日、荏田東第一小学校とそのPTAの共催によって『チェックラリー・イン・通学路』が開催されました。参加者は、同小の児童と父母の有志約170人に、校長先生や副校長先生、市の都市計画局の職員数名も加わった、計約180人。途中でクイズに答えたりゴミを拾ったりしながら、約1時間のコースを歩き、通学路の危険箇所をチェックしてまわるというこの企画、実は、主催者側にはもうひとつの目的がありました。

同PTAでは、今年春に通学路の草刈りをしてはどうかと検討中で、このラリーは、その予行演習とも言うべきプレ企画。そもそものきっかけは、PTAの役員のひとりである細山田さんが抱いた、ある"疑問"でした。

「昨年PTAの役員となり、たまたま『スクールゾーン対策協議会』に出席したときのことです。この協議会の目的は"通学路の安全の確保"で、警察署・土木事務所・市の西部公園事務所・区役所の4ヶ所に対する要望を出し、対応していただく場です。しかし、特に通学路付近の樹木の剪定や草刈りに関しては、行政との情報交換が不十分で、毎年同じ要望が繰り返されているんです。

行政側は、可能な限り努力しているが、管理費が年々減らされているし、港北NTだけを特別扱いできず苦慮しているとおっしゃる。だからと言って、市の緑地にある樹木や草を、自分たちで勝手に切るわけにもいかない。これでは堂々めぐりだと思ったんですよね。」

行政との情報交換が、重要な鍵のひとつ。

港北NTは、他の地区に比べてダントツに緑が多く、公園や学校、神社・仏閣は緑道で結ばれていて、豊かなグリーンマトリックスが形成されています。しかしそれだけに、管理上さまざまな問題を抱えているのも事実。

「たとえば緑道。市の西部公園事務所では、夏と秋の2回樹木の剪定や草刈りを実施しています。でも、1年で最も緑が茂るのは4〜5月。この頃になると、緑道脇の水辺から伸びてきたガマなどが、子供の背丈ほどにも伸び、緑道を覆ってしまいます。通学の支障になるだけでなく、見通しが悪いので不審者に出没のチャンスを与えてしまう。親にとっては心配の種なんです。」

そこで、細山田さんは市の港北NT事業の調整窓口である都市計画局に相談し、西部公園事務所の剪定・除草の時期に関する詳細情報や、条件付きで区からゴミ袋やカマの貸与が受けられるといった情報を入手。さらに、「この学区は、港北NTの中でも最初に"街びらき"をした所であり、緑も育っていることから、港北NTの緑の維持管理のモデル地区として、一緒に考えてみよう」という都市計画局の前向きな対応にも出会い、"自分たちにできること"を探る糸口をつかみました。

単なる労働ではなく、楽しいイベントにしたい。

実はこのインタビューを申し込んだ際、細山田さんは強く固辞されました。「ラリーを実現できたのは、ネーミングを考える人、お知らせ文のカットを描く人など、



▲11月28日の『チェックラリー・イン・通学路』に集まった、荏田東第一小の父兄と子供たち。

PTAの皆さんのさまざまな努力があり、そして学校の先生方の協力があったから。私は単にPTAの一人に過ぎない」というのが、その理由。そこを曲げて承諾してくださったのは、同じPTA仲間のお一人が「確かに、細山田さんはきっかけをつくっただけかもしれない。でも、誰かが突破口を開かないと何も始まらない。胸を張っていいんじゃない？」と後押ししてくださったおかげでした。

ひとつの疑問を抱いた人がいて、一緒に考える仲間がいて、学校が協力し、行政が理解を示す。今回のラリーは、緑地管理だけでなく、官民が協力し合う街づくりのモデルケースとも言えるでしょう。

「この春、荏田東第一小学校区内に『つづきの丘小学校』が新設開校されるため、PTAは2つに分かれますし、PTAの委員や役員も毎年入れ替わります。でも、せっかく糸口をつかんだのだから、できれば続けていって欲しい。そのためにも、この春の草刈り活動をぜひ実現させたいですね。単なる労働奉仕でなく、植物観察とかめたりして楽しいものにできれば・・・。そして、同じような問題を抱えている港北NT内の他の学校区にも広がっていって欲しいと思います。」

「元気なお母さんたち」が始めた、市民ミュージカル。

市民ミュージカルそのものは、別段珍しくありません。しかし、学校や行政、プロが軸となって運営されているものが多く、『ヨコハマ・都筑ミュージカル制作上演委員会』のように、一般の主婦が中心となって発足・運営し、出演者・スタッフとも公募によって集められたボランティアだけで構成しているところは、あまり例がありません。しかも、2年に1度というペースで質の高い作品をつくっているとなれば、これはもう、かなり希有な存在。

その委員長を務めるのが、岡本紀子さん。音大を卒業後、劇団四季の研究科に入所しましたが、結婚を機に「すっぱり足を洗って」専業主婦に。しかし、港北NTに転居し、「元気なお母さんたちと出会ってしまった」ことが、彼女の生活を一変させてしまったと言います。

「子供たちのために音楽会を主催していた荏田南地区のお母さんたちから、ミュージカルをやりたいというお話があったんです。本当は、劇団四季の俳優である夫にかかわって欲しかったのでしょうが、主人は多忙で、結局私で我慢してくださった(笑)。最初に『サウンド・オブ・ミュージック』のダイジェストをやったら、これがなかなか感動的でね。私もすっかりハマってしまったんです。」

隣の子が出ている、近所のオジサンも出ている。手作りだけど、作り手も観客もみんながワクワクする、胸の奥が熱くなるような舞台。これをきっかけに、オリジナルミュージカルへの夢が大きく膨らんでいきました。

自分を活かせる場が必ず見つかる、ミュージカルの魅力。

その夢をかなえたのは、約2年後の1995年4月。記念すべき第一作目は『北極星を探して〜都筑の街の不思議な出会い〜』。さらに2年後の1997年11月には、原作・脚本も公募して制作された2作目「不思議の森の三日坊主」を上演。はたからは、ごく順調に見えます。

「とんでもない(笑)。特に第一作目などは、都筑区誕生を記念する、都筑公会堂のこけら落としでの上演でしたが、初めて区に企画書を持ち込んだときは、あっさり蹴られちゃって(笑)。それでも諦め切れず、準備や稽古をしながら交渉を続け、ようやく実現したんです。また、プロの方にアドバイスをしていただいたりもしていますが、



Part. 3

大人も子供も、輝きながら成長していく。それが、わたしたちのミュージカル。



大人も楽しめる子供のためのミュージカルをやりたいと考えた人

ヨコハマ・都筑ミュージカル制作上演委員会委員長　**岡本　紀子**さん

基本的にはすべて素人による手探り・手作り。だから、右往左往の連続ですよ。ただ、ミュージカルはあらゆる要素を必要としますから、それぞれの趣味を活かす場が必ずあるし、特に得意分野がなくても、自分を活かせる場が必ず見つかる。しかも、その結果が形になって、たくさんの人に喜んでもらえる。そんな魅力があるから何とかやってこれたんでしょうね。」

子供たちに、自分を表現する場を与えてあげたい。

事務局、美術・制作部、演出部で構成するスタッフと、オーディションで選ばれる約60人の出演者を合わせると総勢約120人。それをまとめ上げるのは、大変な作業。まして、数ある市民ミュージカルグループの中には、人間関係やハードワークのため、内部分裂や空中分解の憂き目をみるところも少なくないと聞きます。

「リーダーがしっかりしているところほど、そういうことがあるみたい。かっちりした会社的組織にしてしまって、趣味より義務感のほうが大きくなり、楽しくなくなったり、やる意味を見失ってしまうのでしょう。その点、うちは頼りない私が委員長ですから(笑)。見るに見かねて皆さんが助けてくださる。だからうまくいってるんですよ。」

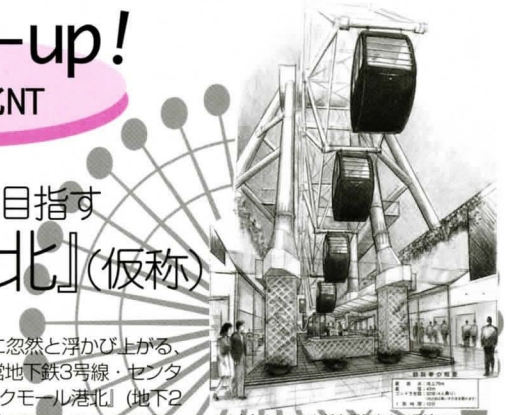
現在、来春上演予定の第3作目を準備中。成功し続けてきただけにプレッシャーも大きいに違いありません。

「ただ、私たちが一貫して目指しいるのは、"子供たちに自分を表現する場を与えてあげて、大人もそれを楽しむ"ということ。今は、子供たちが自分を表現する場が少ないでしょ。表現する手段も喜びも知らないで大人になってしまったら、哀しい。大人が楽しみ、感動しながらやっていれば、子供たちにもきっと何かが伝わると思うんです。僕にもできる、私にもできそう、ってね。それに、老若男女が一緒に活動するから、自然にタテ社会も覚えるし、大人がモノを創る姿も見られる。だから続けていきたいと思うし、質の高い舞台を目指したい。最初はぎこちなかった子供たちが、だんだん上手に、イキイキとしていくのを見るのは、とても幸せな気分ですよ。」

Catch-up!
The港北NT

来年春まで待てない！
際立つ要素がいっぱい！

エコロジーエンターテイメントを目指す
『モザイクモール港北』(仮称)



▲みなとみらい21や新宿副都心まで見渡せる大観覧車。1周約12分。ゴンドラは32台で、内2台は車椅子のまま乗れます。

港北NTの街をドライブしていると、青い空と豊かな緑を背景に忽然と浮かび上がる、巨大な観覧車の姿を随所から見ることができます。これは、市営地下鉄3号線・センター北駅前で建設中のショッピングセンター(以下、S.C.)『モザイクモール港北』(地下2階・地上5階)の5階部分に設置された大観覧車で、最高点は地上75m。S.C.の開業は来年春の予定ですが、大観覧車は昨年夏頃に早くもその姿を現し、今ではすっかり港北NTのランドマークとなっています。こうなると、来年の春まで待ちきれない！というのが人の情。現在発表可能な最新情報のすべてを一挙ご紹介いたしましょう。

関東圏では初の、阪急グループが打ち出す郊外型S.C.。

「都心から郊外へ、そして、百貨店を核とした郊外型S.C.へというのは、百貨店業界全体の流れ。しかし、『モザイクモール港北』は、おそらく従来のものとは、ひと味もふた味も違ったものになるはず。期待していただいていいと思いますよ。」と口を揃えておっしゃるのは、核テナントである(株)阪急百貨店の港北SC事業部・業務専任参与・岡嶋利文さんと、副参与・松井久子さん。岡嶋さんは、開発・運営を手がける(株)モザイク開発の取締役でもあります。

阪急グループでは関西と首都圏で9店舗の百貨店を展開するほか、平成4年には神戸・ハーバーランドにオープンモール型のS.C.『モザイク』を、平成8年には兵庫県川西市に箱形S.C.『モザイクボックス』をオープンしており、S.C.開発の実績も大。(株)モザイク開発は、そのノウハウや経験をふまえ、100%阪急百貨店の出資で設立したディベロッパーです。阪急グループでは初の関東圏のS.C.ということで、その意気込みはかなりのものです。

「私たちの目標の柱は２つ。まず、港北NTに深くガッチリと根づくこと。その上で、最終的には二子玉川の賑わいをもしのぐRSC(広域型S.C.)となること。東急グループのドミナントエリアに出て行くというのは大変なことですし、隣駅にはほぼ同規模の『港北東急百貨店S.C.』がありますが、テーマ性の高いS.C.をつくることで、お客様の支持を得たいと思っています。」



▲(株)阪急百貨店の港北SC事業部・松井さん(左)と、開発・運営を手がける(株)モザイク開発の取締役岡嶋さん(右)

モノを売るだけではない、本物の“エコロジー”を感じさせるハード&ソフト。

開発テーマは“エコロジーエンターテイメント”。

「エコロジーという発想そのものは、時代のトレンドであり、緑豊かな港北NTを愛する地域の方々の志向を大切にしたいと考えた結果です。しかし、それを単なるモノを売るための方便で終わらせるつもりはありません。エコロジーを真っ正面からとらえ、追求していきたい。そんな気持ちを表現するため、環境変化の指標とも言われる“野鳥”をシンボルとしています。」

館内は、滝や小川、樹木で彩られ、陽光が降り注ぐ吹き抜けのアトリウムには、野鳥のオブジェや巣箱を配したシンボルツリーがそびえる・・・という演出。また、ネイチャースクールの定期的な開講や、体験学習ツアーなどのイベントの実施、野鳥の種類や生態を楽しみながら学べる鳥のギャラリーの常設などなど自然へのこだわりは、S.C.のハード面だけでなく、ソフト面にもさまざまな形で反映される予定です。港北NTで活動するさまざまなボランティアグループと連携した企画も検討中。

「たとえば、地元幼稚園のお子さんたちに傘などに絵を描いてもらって売り、その収益金をボランティア活動に使ってもらうとか・・・。自然について学び、自然を楽しむ地域ネットワークの拠点としても機能していきたいと考えています。」

また、ゴミ問題にも積極的に取り組む方針。「エコロジーと銘打つ以上、ゴミ問題は無視できません。地下1階に、生ゴミを下水に流せるよう処理する装置を設置するほか、リサイクルを考慮したゴミの分別化を徹底したりして、ゴミ処理問題にも真摯に取り組んでいきたいと考えています。」

百貨店と専門店街、両者合わせてのワンストップ・ショッピング。

さて、『モザイクモール港北』は、キーテナントである阪急百貨店と140店の専門店街で構成されます。しかし、ディベロッパーが阪急百貨店100%出資の子会社であるだけに、両者の関係は限りなくボーダーレス。

「テナントにスペースを提供したら、あとはご自由に、というのが一般的なディベロッパー。しかし(株)モザイク開発は、MD(マーチャンダイジング)のプロである阪急のメンバーで構成されていますから、商品構成や企画内容にまで踏み込んで考える。そこが大きな違いです。



▲川と滝が流れ、シンボルツリーがある、自然をふんだんに取り込んだ地下1階からの吹き抜け。

たとえばファッション関連なら、こういうものを開発して欲しいとお願いする場合もありますし、アミューズメントなどはアトラクションの内容に関しても、テナントさんと一緒に考えています。ですから、すべてのテナントさんが『モザイクモール港北』に出店するため、新しいスタイルや企画を打ち出してくださる予定です。当然、百貨店サイドと専門店街サイドの連携も密に行っていますから、専門店街を歩いていたら、いつの間にか百貨店にいた、という感じになるでしょう。」

具体的な内容は未発表ですが、専門店街では「新・郊外ライフスタイル」を提案し、百貨店はどちらかと言えば都心型になるとか。

■計画概要

- ●構　造　／鉄骨造および鉄筋コンクリート造(地下3階/地上5階/塔屋2階建)
- ●敷地面積／　18,112m²　●建築面積／16,228m²
- ●延床面積／108,221m²　●店舗面積／50,708m²
- ●店舗数(専門店)／140店
- ●駐 車 場／約1,100台(建物内)
- ●駐 輪 場／約　700台

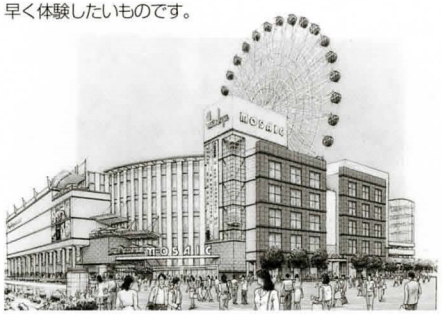
「神奈川都民と言われるように、港北NTの皆さんは郊外に住みながらも都心的な発想で暮らしておられます。そこをうまく融合する形で、百貨店と専門店街、両方合わせてのワンストップショッピングを目指しています。」

建物内に約1100台。使いやすさを追求した駐車場。

ちなみに、モザイクというのは“大小さまざまな楽しい要素を組み合わせた”という意味が込められているそうで、テナントの区画も大中小さまざま。また“お客様本位”の思想・サービスも、モザイクのようにさまざまな形で盛り込まれています。

「快適・便利で楽しいS.C.であるために、トイレひとつとっても、この数年でかなり研究しました。特に自慢できるのは、駐車場です。入り口を2ヶ所、出口を3ヶ所を設け、手荷物が多い時に便利なよう、車寄せも完全完備。車路幅も余裕の5.5m。また、地下1階の「大日常生活界」と直結した地下2階をはじめ、3階・4階・5階・屋上の駐車場には、売り場に直接アクセスできる通路を設けてあります。駐車場内をぐるぐるまわって停めるのではなく、各階の空きスペースに直接行ける方式ですから、駐車待ちの時間も最小限にできるはずです。」

駐車場に入ったときからすでに始まっている快適さ、楽しさ。早く体験したいものです。



▲『モザイクモール港北』イメージ

■新・郊外ライフスタイルを提案する専門店街■

【屋　上】 **屋上庭園と連動した、テーマ型レストラン。**
20～30代の女性が、結婚前に都心で楽しんでいたようなお店の雰囲気・味を子供と一緒に楽しめる、新感覚のレストラン。主婦の集まれるバンケットルームの併設等、楽しい仕掛けも企画中。

【5　階】 **大人も子供も大満足の、レストラン&アミューズメント。**
各種レストランと、「遊びながら学ぶ、身体を動かすという要素を盛り込んだ、これまでにない切り口を満載した」大人も子供も楽しめるアミューズメント。観覧車も、このフロアから乗れます。

【4　階】 **教室、託児所も併設した、“キッズ・エデュテイメント”。**
子供中心のライフスタイルを応援するフロア。子供のファッション、玩具、キャラクター雑貨はもちろん、遊びや知育などのサービスを徹底的に集積。パソコン、バレエ、英会話などの教室や、子供専門の歯医者、美容室なども集積される予定です。

【1～3階】 **テーマ性のある商品構成のファッション&雑貨フロア。**
アウトドア、スポーツ、ヘルシーをキーワードに、港北初、首都圏初、日本初のブランドを数多く導入。ライフスタイル別に、ファッションあり、雑貨あり、CDありといった楽しいマッチングによるフロアづくりです。

【地下1階】 **日常生活をフルサポートする“大日常生活界”。**
百貨店やS.C.の地下と言えば食料品というのがオキマリですが、ここではその他にも生活用品や日用雑貨、ドラッグストア、書籍、クリーニング、DPE、ミニバンクまで、日常生活に必要なものを一気に集積。ストリート的な感覚でレイアウトされた“大日常生活界”です。

THE INFORMATION

都筑区生涯学習交流会 つづき人交流フェスタ開催！

①講演会
「市民・企業・行政のパートナーシップでつくるまちづくり」(要申込)
三島市の手づくり講演の達人・渡辺豊博氏の講演。

◆日　時　3月6日(土)　午後2時～4時
◆場　所　区役所6階大会議室
◆定　員　先着200人
◆保　育　しっかり歩ける子供から未就学児対象。保育料100円。

②体験コーナー、パネルコーナー
区内で活動しているさまざまなグループやボランティアの紹介。

◆日　時　3月7日(日) 午前10時～午後2時
　　(パネル展示は3月12日まで)
◆場　所　区役所1階区民ホール

③出会いのパーティ(要申込)
仲間づくりをしたい人、グループ間のネットワークを広げたい人、ワインを片手に語りませんか。

◆日　時　3月7日(日)　午後3時～5時
◆場　所　区役所6階食堂
◆参加料　500円(飲み物・軽食代)
◆定　員　先着100人

【申込・問い合わせ】
往復ハガキに「講演会」または「出会いのパーティ」希望と書いて、住所・氏名・電話番号・グループに所属していればグループ名・保育希望者は子供の名前・生年月日を記入の上、
〒224-0032　都筑区茅ケ崎中央32-1
都筑区役所生涯学習支援係
「交流フェスタ」まで。2月26日必着。
TEL948-2235　FAX.948-2239

横浜市歴史博物館・都筑民家園でひな祭り！

①ひな祭りウィークリー
都筑のおひな様をモダンにコーディネイトして展示。

◆日　程　2月23日(火)～3月3日(木)

②ひな祭りお茶会

◆日　時　2月28日(日)　午後1時～3時
◆参加費　300円
◆定　員　先着100人
◆申　込　当日直接民家園へ

③ひな祭り女のおしゃべりサロン

◆日　時　3月3日(木)　午後1時～3時
◆参加費　300円(茶菓子付き)
◆定　員　30人
◆申　込　電話またはファクシミリで。
TEL&FAX.594-1723

街づくり通信 VOL.11

平成11年2月発行
街づくり通信編集室
〒224-0006
横浜市都筑区荏田東4丁目10番3号
財団法人 港北ニュータウン生活対策協会内
TEL.045(942)8745　FAX.045(942)8972

編・集・後・記

◆本号では、港北NTのさまざまなコミュニティで活躍する“人”に注目し、巻頭で特集させていただきました。紙面の都合上3人の方しかご紹介できませんでしたが、港北NTは人材の宝庫。このほかにも、趣味やボランティア、地域教育、商業振興、街づくりなどなど、さまざまな分野で活躍しておられる魅力的な人材がたくさんいらっしゃいます。また、これから活動を始めようという方、他のグループと交流したいとお考えの方もおられるでしょう。そんな情報を、ぜひ「街づくり通信」にもお知らせください。

◆本紙に対するご意見・ご感想・ご希望もお待ちしています。

街づくり通信編集室　一同

■(財)港北ニュータウン生活対策協会からのお知らせ■

スライド「望郷―失われたものの記録」をお貸ししています！

(財)港北ニュータウンでは、区内北山田町に在住の男全冨雄氏直筆の墨絵を、スライド(全100枚)にまとめた資料を制作いたしました。戦時中から戦後にかけての港北NTの生活ぶりが忠実に描かれており、米づくりを中心とした農作業をはじめ、働く主婦や子供たちの暮らし、さらには都市開発等、地域のさまざまな情景や歴史を知ることのできる、ストーリー性に満ちた構成になっております。新・旧住民の交流の促進ならびに連帯感のいっそうの醸成を図るため、区内の小・中学校をはじめ、諸団体に広く提供(貸与)いたしますので、ご希望の方はお問い合わせください。



▲公団職員による移転交渉


▲子供たちの暮らし―通学―

◆お問い合わせ
(財)港北ニュータウン生活対策協会
担当/山本、小松原
TEL.045-942-8745

年4回発行　平成11年6月発行

KOHOKU 街づくり通信 NEW TOWN

港北ニュータウンのセンター街づくり情報紙

速報！
平成11年5月
港北ニュータウン人口
10万人突破!!

'99 SPRING　VOL.12

最終号特別企画

創成期から未来へ。

- 特1集 港北ニュータウン・街づくりの変遷
- 特2集 近未来もわかる！ 1999 港北ニュータウンMAP
- 特3集 港北ニュータウン 未来への伝言板



▲開発前の港北ニュータウン



▲基盤整備中のタウンセンター(平成元年)



▲港北東急百貨店S.C.と駅前のにぎわい



▲建設中のモザイクモール港北(仮称)とショッピングタウンあいたい

KOHOKU.NT. DATA
人口/約100,200人・世帯数/35,200世帯
平成11年5月末日現在(区画整理地区内)

発　行：財団法人 港北ニュータウン生活対策協会
編集協力：横浜市都市計画局／住都公団 神奈川地域支社 港北開発事務所

▲タウンセンター（平成10年7月）

Special Issue
最終号特別企画

創成期から未来へ 特1集

港北ニュータウン 街づくりの変遷

港北ニュータウン土地区画整理事業は、計画面積約1,340ha、計画人口22万人。我が国最大規模の土地区画整理事業として昭和49年にスタートしました。その後、官民一体となった街づくりが着々と進められ、第1地区・第2地区については平成8年9月の換地処分により基盤施設の整備が完了。現在、人口も約10万人を突破。40以上の企業・研究所等が立地するほか、大規模商業施設も次々と開業し、さらなる熟成へ向け加速的に発展しつつあります。

今後は、第1地区と第2地区を結ぶ中央地区の基盤整備も本格化していきます。そして、来年はいよいよ2000年。その向こう側にどのような未来が開かれるのか、今後どのような街づくりが求められているのか。これまでの歩みを振り返りつつ、考えてみましょう。

■港北ニュータウンの基本理念

1.乱開発の防止
2.都市農業の確立
3.市民参加のまちづくり
4.業務核都市形成に寄与する多機能複合的なまちづくり

■土地区画整理事業の基本方針

1. 緑の環境を最大限に保存するまちづくり
2. "ふるさと"をしのばせるまちづくり
3. 安全なまちづくり
4. 高い水準のサービスが得られるまちづくり

昭和58年8月　公的集合住宅第1号入居開始●
昭和58年8月　第2地区まちびらき●
昭和58年6月　新横浜元石川線開通●
昭和58年3月　第1次供用開始(第2地区)●

昭和40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 平成元 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

創成期 → **事業展開期** → **街並み形成期** → **市街化促進期** → **未来へ**

昭和56年11月　土地利用計画に合わせた用途地域の変更指定●
昭和56年 2月　(財)港北ニュータウン生活対策協会発足●
昭和54年4月　第1回仮換地指定(第1地区)●
●昭和52年10月　公団、仮換地の供覧(53.4まで)
●昭和51年10月　港北ニュータウン事業推進連絡協議会が発足　(開発対策協議会を改組)
●昭和51年 3月　「特別な用地」の申出調査(51.5まで)
●昭和50年2月　土地区画整理審議会の発足
●昭和49年8月　建設大臣、施行規程・事業計画を認可(公団、工事着手)
●昭和45年11月　農業専用地区に着手
昭和44年6月　建設大臣、公団へ土地区画整理事業の特許(旧法)公団、用地取得に着手●
昭和44年5月　土地区画整理事業の区域事業の決定●
●昭和42年6月　港北ニュータウン開発対策協議会発足
●昭和40年2月　横浜市、港北ニュータウン計画を発表


▲昭和40年頃の港北地区


▲港北ニュータウン開発対策協議会第3回総会

〈昭和49年〉港北ニュータウンの人口　11,400人
世帯数 2,900世帯

■市民参加のまちづくり

基本理念のひとつ、"市民参加のまちづくり"を実現するため、地元と市、公団等をつなぐ組織として昭和42年に「港北ニュータウン開発対策協議会」を発足。昭和51年に「港北ニュータウン事業推進連絡協議会」として改組し、平成8年11月に解散されるまで、開発計画、造成工事等の事業実施に伴う諸問題についての協議を行ってきました。

◆港北NT人口の推移
※対象エリア：公団施行地区(第1・第2地区) 1,317ha
※昭和49年は事業認可時の人口世帯数
※昭和60年～平成2年：住都公団によるビルトアップ調査
※平成4年～：横浜市都市計画局調査
※年次によって推計方法、基準日が異ります。

〈平成11年5月末日現在〉
港北ニュータウンの人口　100,200人
世帯数 35,200世帯

80,000人
60,000人
40,000人
20,000人

■広がる地域コミュニティ

港北ニュータウンではさまざまな市民活動が活発化し、たくさんの地域コミュニティが誕生しています。すでに、それらを結ぶネットワークづくりも進められつつあり、この会議では、さまざまな市民活動の代表者や一般市民により「郊外部の持続的街づくり」について議論されました。

■全国から注目を集める港北ニュータウンのグリーンマトリックスシステム

港北NTでは、公園・緑地等のオープンスペース、神社・屋敷林、センター地区や駅などの利便施設を、歩行者専用道路や総延長14.5Kmにも及ぶ緑道と結びつけたグリーンマトリクスシステムを実現しています。緑の都市賞「内閣総理大臣賞」は、これを主軸とした緑の「量的保全」「法的保全」「質的保全」等が高く評価されたものです。

◇平成13年　昭和大学横浜市北部病院開設予定
◇平成12年春　センター北駅前に「モザイクモール港北(仮称)」オープン予定
◇平成12年4月下旬　都筑警察署(仮称)開設予定

平成11年1月●市営地下鉄4号線の施行認可取得
平成10年11月●第2回ヨコハマ都市デザインフォーラム「港北ニュータウン地区」地域会議開催
平成10年10月●港北ニュータウンが都市景観大賞・建設大臣賞受賞
平成10年 7月●横浜国際プールオープン
平成10年 4月●センター北駅前に「ショッピングタウンあいたい」、センター南駅前に「港北東急百貨店S.C.」オープン
平成10年 4月●「都筑中央公園」(第1期区画)、センター南駅前広場「すきっぷ広場」オープン
平成10年 3月●東名高速・横浜青葉I.C.、国道246号「市が尾立体」開通

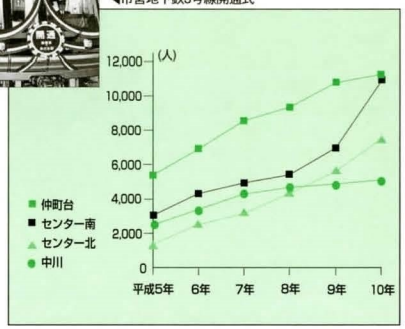
●平成8年11月　港北ニュータウンが第16回「緑の都市賞」内閣総理大臣賞受賞
●平成8年11月　中央地区(約23.7ha)起工
●平成8年11月　港北ニュータウン事業推進連絡協議会解散
●平成8年 9月　港北第1、第2地区換地処分公告
●平成8年 7月　生対協より街づくり情報紙「街づくり通信」創刊
●平成8年 2月　港北中央地区土地区画整理事業の事業計画認可


▲都筑区総合庁舎

●平成7年4月　第三京浜道路に都筑I.C.開業
●平成7年4月　都筑区総合庁舎開設
●平成7年3月　港北中央地区土地区画整理事業の都市計画決定
●平成7年1月　横浜市歴史博物館開設
●平成6年11月　行政区再編成により「都筑区」誕生
●平成5年3月　市営地下鉄3号線開通(新横浜～あざみ野間)


◀市営地下鉄3号線開通式

平成4年8月　港北NT熱供給(株)設立●
平成4年4月　生対協より　街づくり情報紙『パートナー』創刊●
●平成3年6月　タウンセンター開発推進協議会発足
●平成2年8月　日吉元石川線開通
●平成2年3月　第1地区まちびらき
●平成元年9月　仮清算の実施(2.9まで)
●平成元年2月　(株)港北都市開発センター設立
●昭和62年8月　民間集合住宅第1号入居開始
●昭和62年2月　市営地下鉄3号線工事着手(新横浜～あざみ野間)
●昭和61年3月　土地利用計画の見直し(多機能複合都市への変換)
●昭和61年2月　市営地下鉄3号線免許取得(新横浜～あざみ野間)
●昭和61年1月　生対協より地元情報紙「ふれあい」創刊
●昭和60年9月　第1回港北ニュータウンまつり



◆市営地下鉄3号線・各年度1日当たりの乗客数
※平成10年は2月までの1日当たり平均

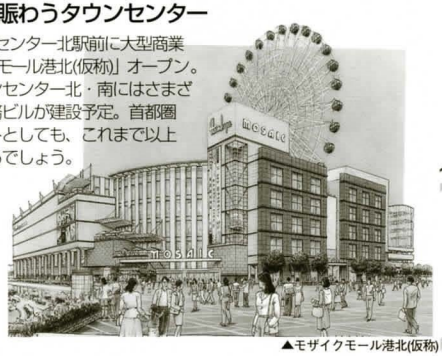
創成期から未来へ 特2集

近未来もわかる！ 1999港北ニュータウンMAP

港北ニュータウン近未来NEWS

■ますます賑わうタウンセンター

平成12年春、センター北駅前に大型商業施設「モザイクモール港北(仮称)」オープン。その他、タウンセンター北・南にはさまざまな商業・業務ビルが建設予定。首都圏有数のスポットとしても、これまで以上に注目を集めるでしょう。



▲モザイクモール港北(仮称)

■警察署、病院など、公共公益施設がさらに充実

平成12年4月下旬には「都筑警察署(仮称)」が、平成13年には「昭和大学横浜市北部病院」が開設。公共公益施設は、今後さらに充実していく予定で、より安心して暮らせる街となっていきます。



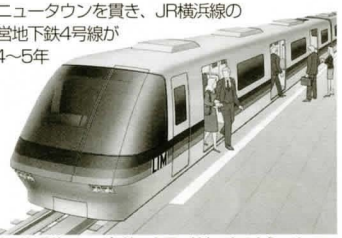
▲昭和大学横浜市北部病院



▲都筑警察署（仮称）

■「市営地下鉄4号線」（日吉～中山間）開通

東急東横線の日吉駅から港北ニュータウンを貫き、JR横浜線の中山駅に至る延長13Kmの市営地下鉄4号線がまもなく着工。早ければ以降4～5年で開通予定。これにともない、センター北・南両駅は２つの鉄道のターミナル駅として一層重要な役割を果たすようになり、新たに誕生する北山田駅(仮称)と葛が谷駅(仮称)周辺も、急速に発展していくでしょう。



▲市営地下鉄4号線イメージ／急こう配に対応できるよう、リニアモータ推進方式を使用した車両は、3号線よりやや小型で経済的。

■港北NTの南北をつなぐ街、「中央地区」が誕生

中央地区は、港北ニュータウンの南北をつなぐとともに、タウンセンターの機能を補完する地区として期待される、総面積約23.7haの地区。平成8年2月には土地区画整理事業が認可され、平成8年11月に起工。早渕川を抱く水と緑豊かな環境を背景に、2000年以降、魅力あふれる街へと変貌していきます。

港北ニュータウン 未来への伝言板

創成期から現在まで、半生をかけて街づくりに取り組んできた地権者。その思いに共鳴してやってきた学校や企業。そして、この街を新たな“ふるさと”として愛する住民。それぞれの視点から、港北ニュータウンの未来へ向けたメッセージをいただきました。

自然とともにあり、人を守り育む都市へ。

都筑区連合町内会・自治会　会長
港北NTタウンセンター開発連絡協議会会長　金子　保さん



港北ニュータウン事業がスタートしたのは、私がまだ30代半ばの頃。その当時、港北ニュータウンは農村地帯であり、私も農民のひとりでしたから、土地の4割を先行買収、さらに35%の減歩という厳しい条件を受け入れて事業計画に賛同したものの、農村が都市に変貌するというのはどういうことなのか、そもそも都市とはいかにあるべきなのか、実際に事業を進めるにあたっては、本当に真剣に悩み、考え抜きました。

私の世代は関東大震災をはじめ、さまざまな災害や戦争を実際に体験しており、都市というものが災害に対していかに弱いか、そのためにどれだけ多くの尊い命が失われてきたか、痛いほど知っております。また、そのような災害に遭っても生き残り、再生し、人の命を守ってくれるのは自然であり、植物の生命力であるということもよく知っております。ですから、人の命を救える都市づくり、自然と共存した都市づくりをしなければ・・・という思いが、まず根底にありました。そのため、労を惜しまず関係機関と協議を重ね、私を捨てても行動し続けてきたのです。

その結果、港北ニュータウンでは、豊かな自然を保持した上で、首都圏では考えられないほどゆったりとした幹線道路が整備され、歩車分離の道路計画も実現しています。また、公園や緑地などのオープンスペースも十分に確保されています。つまり、単に快適で便利なだけでなく、都市防災対策上充分な配慮がされ、人の命を守り育む街、それが港北ニュータウンなのです。

事業開始当初描いた、横浜市北部の文化の副都心としての道のりはまだ半ば。しかし今後もこのような基本的姿勢に基づく発展を目指していかなければならないと考えています。

新しい住民の皆さんにも知ってほしい、港北ニュータウンの街づくり。

仲町台駅前センター街づくり協定運営委員会
委員長　関　義和さん



今日に至るまで、港北ニュータウンは実にさまざまな難しい時代を乗り越えてきましたが、我々地権者にとっても、決して平坦な道のりではありませんでした。それを乗り越えてここまで来ることができたのは、地権者ひとりひとりが「なるようにしかならない」などと考えず、街づくりに対して高い関心を持ち、努力してきたからだと思っています。

たとえば、仲町台駅前センターの場合、せせらぎ公園の緑を背景とする美しい街並みができておりますが、これは、街づくりテーマを“自然と人間”、デザインテーマを“ネオクラシック”ふれあいテーマを“花”とする街づくり協定をつくり、推進してきた結果です。また、最近の仲町台は、魅力的な飲食店が集積する街というイメージが定着してきましたが、実はこれも、独自の特徴をつくろうということで、“グルメの里”構想を推進してきた成果なのです。

数え上げればキリがありませんが、港北ニュータウンのあらゆる場所、あらゆる風景の中には、このようなさまざまな街づくりへの努力が生きています。それだけに、新しく港北ニュータウンに来られた方々、これから移り住んで来られる方々にも、街づくりへの関心を深めていただきたい。そのためにも、もっともっと港北ニュータウンのことを知っていただき、共により魅力的な港北ニュータウンの未来を創っていければと願っています。

いよいよ北山田駅前センターも始動。緑と安らぎのオアシスタウンに。

北山田駅前センター街づくり協定運営委員会
委員長　男全　冨雄さん



北山田地区センターの丘から北西の方角を見渡すと、向こうの丘に、ちょうど緑に包まれて眠る巨大クジラのような格好をした横浜国際プールがあり、その隣には山田富士。そして、それらをつなぐ緑に取り囲まれるようにして広がっているのが、北山田駅前センターです。

ここには“オアシスタウン”をテーマとする街づくり協定がありますが、ますます都市化されていく周辺と一線を画したような緑豊かな環境は、まさに都会のオアシス。長年待ちわびていた市営地下鉄4号線着工のメドも立ち、いよいよ本格的な街づくりが始まろうとしています。

港北NTの中では、かなり遅いスタートですが、市営地下鉄3号線沿線の街づくりの過程や、バブルの崩壊など、さまざまな局面をこの目で見てきましたから、先輩たちの経験を参考にしつつ、より魅力的な街づくりができるのではないかと思っています。また、港北NT事業スタート時にはわずか百数十軒だった地元町内会も、今や約2700軒の大所帯。1日も早い駅前センターの発展を望む住民の方々との協調も、街づくりの大きなポイントとなるでしょう。

北山田の地権者たちも世代交代の時期を迎え、常に相続問題と対峙しながらの街づくりとなりますが、素晴らしい緑の環境をメインに、誰もが安らげる街にしたいと考えています。

港北ニュータウンだからこそ実現した、地域開放型キャンパス。

武蔵工業大学　環境情報学部長　小沼通二さん



港北ニュータウンに武蔵工大の横浜キャンパスが開設されて3年目。設計段階から“地域開放型キャンパス”を目指しておりましたが、敷地を取り囲む塀が一切なく、保存林に沿った公開遊歩道も設けているため、キャンパス内で子供たちが遊んでいたり、近所の方がジョギングや散歩をされたりというのは、今ではごく日常的な風景です。また、地域の方々が参加できる公開講座やコンピュータ教室等も行ってきましたし、逆に地域の方々も学園祭に屋台を出してくださったり、留学生の週末ホームステイを引き受けてくださったり・・・。

もし、他の街だったら、これほど地域に開かれた大学を実現できただろうか、我々も、環境や街づくりに対してこれほど高い意識を持てただろうかと考えると、本当に良いところにキャンパスを持てたと思います。

人と人とのつながりは、単に集会所をつくれば生まれるというものではなく、共通の興味のもとに人が集い、生まれるもの。港北ニュータウンの方々と私たちの間には、環境や街づくりなど、共通の話題が多くあり、大学にはその専門家がいるわけですから、この関係は、あらゆる角度で広がっていくに違いありません。今後も、港北ニュータウンにある大学ならではのさまざまな試みをしていくと共に、港北ニュータウンに武蔵工大があって良かったと言われるような大学であり続けたいと考えています。

ひとりひとりが輝き、街に生命を吹き込んでいく。そんな市民活動を。

都筑クラブ　会長　山田美千子さん

港北ニュータウンは、街自体が非常に大きなエネルギーを持っているところ。そこに住んでいるだけで何かが起こりそうな、みんながやりたいことをやれそうな、そんな街なんです。

実際、この街にはさまざまな活動をしている人たちがいます。



たとえば「ロックサークル」や「サマージャズ」、「ミュージカル制作上演委員会」等のグループも、その一例。これらは、住民文化を通じ、行政・企業・住民のパートナーシップ型の街づくりをしようと設立された「都筑イベント倶楽部」から発生したもので、10年近い活動を通して港北NT内外から大きな評価を受け、街づくりにも貢献してきました。

「都筑イベント倶楽部」は、この他にもたくさんのグループ・人材を生み出してきましたが、それぞれが立派に独り立ちできるまでに成長したため、この春、発展的に解散。そしてさらに活動の幅を広げ、住民文化だけでなく福祉活動等も支援していこうということで、昨年末、新たに「都筑クラブ」を発足いたしました。

このクラブは街づくりのために何かをやりたいと考えている人やグループを経済的に支援したり、リーダーとなる人材を発掘・育成する、言わば市民メセナ。すでに野外クラシックコンサートや、プロを目指す若者対象のバンドコンテストなどを計画中です。ぜひ、楽しみにしていてください。

企業と地域が、あたたかなつながりを持つ街へ。

(株)アイネス　研究所総務課長　池田　久男さん



現在、港北ニュータウンには約40の企業の本社や研究所、研修所などが立地していますが、いずれも地域の活性化推進にふさわしい施設を誘致するという市・公団の方針や、港北ニュータウンの街づくりの方向性を理解した上で、自らもその一員になるのだという意識を持って集まった企業ばかりです。その点でも、港北ニュータウンは非常に先進的な街だと思います。

各社ともさまざまな形で地域に貢献しておられますが、アイネス総合研究所では、施設が完成した平成3年から、地元主催のコンサートやさまざまなグループの連絡会等に、施設内のホールやレストラン等をご使用いただいてきました。

情報システムやソフトウエア開発などを手がける弊社では、研究所の施設を単に研究開発や生産の場としてだけでなく、社員一人ひとりの感性を養う場とも考えており、そのためにも、研究所は異業種・異文化など、さまざまな分野の方との交流をとふれあいの場でありたいと考えております。また、今後はさらに、企業がいかに地域社会とのあたたかいつながりを持つかが、問われる時代となるでしょう。

ですから、港北ニュータウンの一員になれたことは私共にとって非常にラッキーなことでした。今後とも、港北ニュータウンとにふさわしい企業として、発展していきたいと考えております。

THE INFORMATION

「街づくり通信」「パートナー」
バックナンバーのお問い合わせは（財）港北ニュータウン生活対策協会へ。

「街づくり通信」と、その前身である「パートナー」のバックナンバーは(財)港北ニュータウン生活対策協会にて閲覧できます。平成4年から現在に至るまでのセンターの街づくりの過程や、街づくりにかかわってきた人々の思い等を知ることのできる資料として、ご活用ください。



街づくり通信
VOL.12
平成11年6月発行
街づくり通信編集室
〒224-0006
横浜市都筑区茅田東4丁目10番3号
財団法人 港北ニュータウン生活対策協会内
TEL.045(942)8745 FAX.045(942)8972

編・集・後・記

◆編集室では「パートナー」時代を含め、7年間にわたり港北NTのセンター地区を見つめ続けてきました。当初、取材と言えば、何もないむき出しの造成地をひたすら歩くことになるため、ミネラルウォーター持参&スニーカーが基本アイテムでしたが、最近ではウインドーショッピングしつつの取材も可(！)。街づくりの過程、街並みの変化を肌で感じながらの取材は、非常に興味深いものでした。
◆この7年間、ご協力いただきました地権者の方をはじめとする多くの方々に改めて感謝申し上げるとともに、今後のより一層のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

街づくり通信編集室　一同

「パートナー」
(平成4年4月～平成8年7月/年4回発行)

※主な特集の内容
・港北NT駅前・近隣センターの現況
・「換地の入れ換え」の可能性について考える
・ビル事業のチェックポイント・仲町台駅前センターの街づくり協定決定
・企業は港北NTをどう見ているか？
・「定期借地権」の基礎知識
・新用途地域制の概要
・駅前センタービルトアップ状況
・茅ケ崎センターの街づくり協定決定
・横浜環状鉄道は今・・・　ほか

「街づくり通信」
(平成8年7月～平成11年5月)

※主な企画の内容

■ VOL.1 (H.8.7)
・タウンセンターから発信する港北NTの未来
・北山田駅前センターの街づくり協定

■ VOL.2 (H.8.10)
・換地処分後の街づくり誘導について
・中川駅前センターの現況

■ VOL.3 (H.9.1)
・WATCH THE 港北NT
・仲町台駅前センターの現況

■ VOL.4 (H.9.4)
・武蔵工業大学・環境情報学部
・川和駅前センターの現況

■ VOL.5 (H.9.7)
・テレビの中の電子の「まち」Virtual-n-Town
・佐江戸近隣センター・茅ケ崎センターの現況

■ VOL.6 (H.9.10)
・タウンセンター注目の最新情報リリース

■ VOL.7 (H.10.1)
・街づくり座談会「港北NT・センター街づくり秘話」

■ VOL.8 (H.10.4)
・「ショッピングタウンあいたい」&「港北東急百貨店S.C.」
・タウンセンタービルトアップ&便利MAP

■ VOL.9 (H.10.7)
・北山田に新名所誕生！横浜国際プール
・魅力ある街づくりへの仕掛け人「仲町台商業振興会」

■ VOL.10 (H.10.11)
・「持続的街づくり」を可能にする新しいネットワークとは！

■ VOL.11 (H.11.2)
・インタビュー特集
これからの港北NTをつくる人々
・「モザイクモール港北」(仮称)

◆お問い合わせ◆
(財)港北ニュータウン生活対策協会
045-942-8745

「街づくり通信」の閉刊にあたって

財団法人 港北ニュータウン生活対策協会では、港北ニュータウン、センター用地の街づくりに向けた地権者勉強会に併せ、平成4年4月より駅前・近隣センターの街づくり情報紙「パートナー」を発刊し、地権者勉強会の状況や共同化に向けた課題、先進事例の紹介等、街づくりに役立つと思われる情報を提供してまいりました。

その後、港北ニュータウンの魅力や最新情報提供という目的を加え、平成8年7月より「街づくり通信」と名称・内容を変更し、広く多くの皆さまに港北ニュータウンを知っていただく情報紙としての役割を担ってまいりました。

おかげさまをもちまして、センターの街づくりも活性化してきており、「街づくり通信」の当初の目的をほぼ達成することができました。今後は、当協会発行の「ふれあい」を年1回から2回に増刊し、港北ニュータウンに関するさまざまな情報を提供してまいりますので、引き続きご愛読いただければ幸いに存じます。

財団法人
港北ニュータウン生活対策協会